MINOLTA

The essentials of imaging

www.minolta.com



DiMAGE A1

J 使用説明書

基本撮影

撮影モード

再生モード
動画撮影モード

セットアップモード

パソコン接続
その他

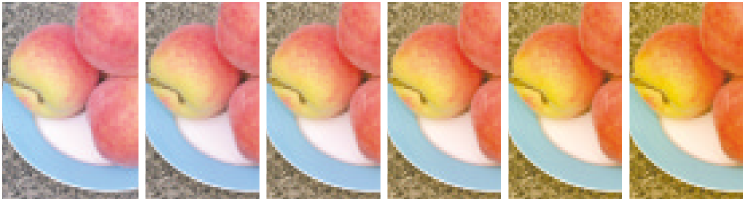
お買い上げありがとうございます。
この製品は、高画素CCDに7倍ズームを搭載した、レンズ一体型一眼レフタイプのデジタルカメラです。ミノルタ独自の画像処理エンジン "SUPHEED（サフィード）"と、画像処理技術 "CxProcess II" を搭載し、風景から人物、遠くの被写体まであらゆる撮影領域に対応するとともに、手ぶれ補正機能、デジタルエフェクトコントロール、高速オートフォーカスなど多彩な機能を搭載し、画質や機能にこだわる方にも満足して撮影・再生・画像処理等お楽しみいただけます。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

フィルター効果とカラーモード

フィルター効果

画面に赤や青の色のフィルターをかけたような効果を出します。→P.90



F±0　F＋1　F＋2　F＋3　F＋4　F＋5

青っぽくなる

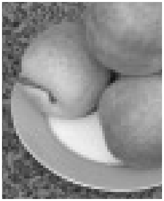
赤っぽくなる

F－5　F－4　F－3　F－2　F－1　F±0

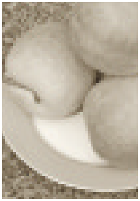


モノクロでのフィルター効果

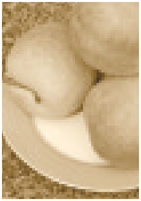
モノクロ画像の色調が調整され、セピア色の画像などを得ることができます。
→P.90、128



F0



F1



F2



F3



F4



F5



F6



F7



F8



F9



F10

ビビッド

標準（ナチュラル）より色が鮮やかに再現されます。→P.126

ソラリゼーション

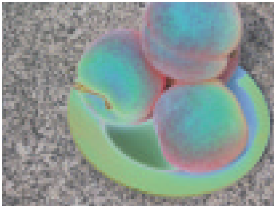
明るい部分の色が補色（反対の色彩）に反転されます。→P.128



ビビッド（sRBG）



ナチュラル（sRGB）



ソラリゼーション

目次

撮影モード（続き）

パソコンへの接続 196

撮影した画像をパソコンに取り込んで保存することができます。

その他 235

一般的な注意事項や、トラブル時の処置等を記載しています。

お問い合わせの前に .... 裏表紙

よくあるお問い合わせについてのQ&Aをまとめました。修理依頼先や各種お問い合わせ先についてもこちらをご覧ください。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

⚠危険 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う危険性が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

⚠警告 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発火注意）

リチウムイオン電池 NP-400 について

⚠危険

電池は指定カメラ以外の用途に使用しないでください。また充電には専用の充電器をご使用ください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

電池の分解、改造、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。特に端子部分は濡らさないでください。また落としたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。
危険防止用の安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。また異常に気づいたときはすぐに使用を中止し、火気から遠ざけてください。

表面が破損した電池は使用しないでください。
電池内部でショート状態となり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

⚠ 危険

プラス（＋）とマイナス（−）を針金などの金属で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管したりしないでください。
ショート状態になり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

適切な温度・湿度条件下で使用や保管を行なってください。
使用時・充電時温度：0℃〜40℃
火のそばや炎天下の車中など（60℃以上になるところ）での使用や充電、保管、放置はしないでください。
高温になると安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。10℃以下だと電池の使用可能時間が著しく短くなります。常温（20℃±5℃）でのご使用をおすすめします。
保管時温度：−20℃〜30℃
湿度：45%〜85%

⚠ 警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。
そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

カメラ・充電器・電池について

⚠ 警告

指定された電池以外を使わないでください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

充電器のＡＣコードは、１００～１２０ボルト、５０/６０ヘルツ用です。
日本、アメリカ、カナダ、台湾で使用できます。それ以外の国や地域では使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ＡＣアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（充電器やＡＣアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

⚠ 警告

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し（充電器やＡＣアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。弊社フォトサポートセンターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

充電器やＡＣアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。
コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に交換をご依頼ください。

カメラ・充電器・電池について（続き）

⚠ 警告

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（充電器やACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。
使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

⚠ 注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。
電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

注意

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

レンズフードの先端を身体等に強くぶつけないでください。
ケガの原因となります。

充電器やＡＣアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

充電器やＡＣアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時に電源プラグが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、充電器やＡＣアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

充電器やＡＣアダプターを、電子式変圧器（海外旅行用の携帯型変圧器など）を介してコンセントに接続しないでください。
故障や火災の原因となります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

はじめに

お買い上げありがとうございます。
ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、「ミノルタからのお知らせ」に記載の弊社ホームページで、お早めにユーザー登録（オンライン登録）を行なってください。

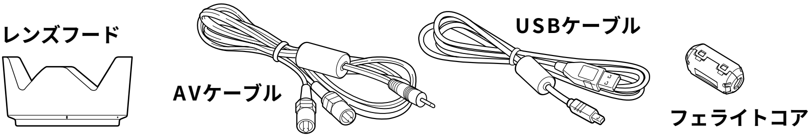
- **この使用説明書は2003年6月に作成されたものです。それ以降に発売されたアクセサリーと組み合わせた場合の使用方法については、弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。**
- **このカメラには、弊社のボディ特性に適合するように設計された弊社製のアクセサリーのご使用をおすすめします。他社製品と組み合わせた場合の性能の保証や、それによって生じた事故や故障についての補償はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。**

内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

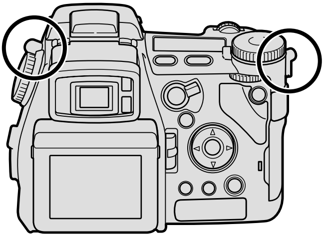
カメラ本体（ミノルタDiMAGE A1）
レンズキャップ LF-1249、アクセサリーシューキャップ SC-10付き
ネックストラップ NS-DG4000
リチウムイオン電池 NP-400
リチウムイオン電池充電器 BC-400
レンズフード DLS-1
AVケーブル AVC-400
USBケーブル USB-500
フェライトコア FRC-100

ディマージュビューアーCD-ROM
・DiMAGE Viewer
・通信設定ウィザード
・Windows98/98SE用USBドライバ
・QuickTime Player
本使用説明書
DiMAGE Viewer用使用説明書
ミノルタからのお知らせ
アフターサービスのご案内
保証書

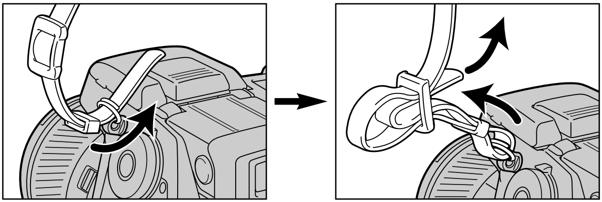


● 本製品にはコンパクトフラッシュカードは入っておりません。別にお買い求めください。

ストラップを取り付ける



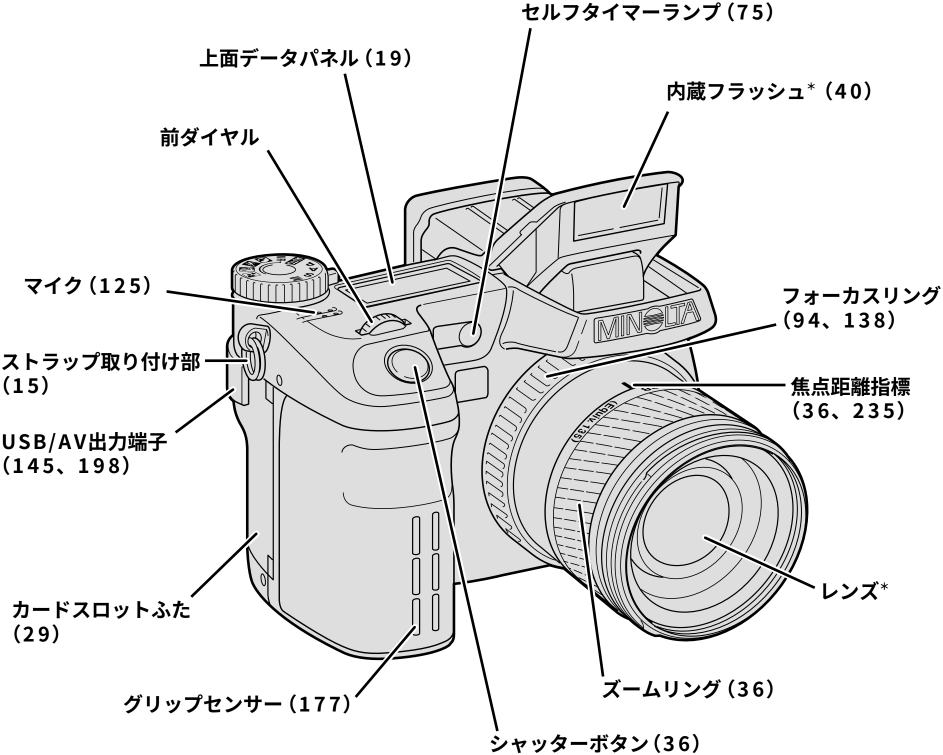
ストラップ取り付け部は2ヵ所あります。ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。



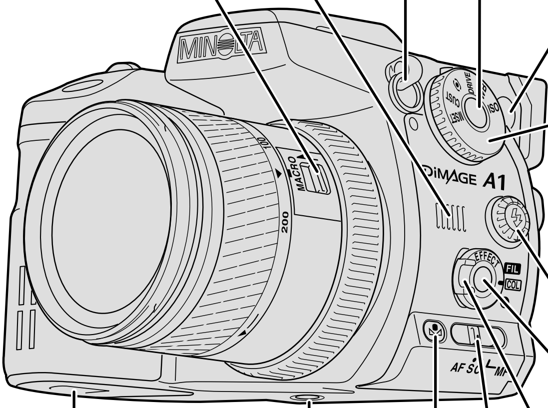
各部の名称

*の付いたところは、直接手で触れないでください。(　)内は参照ページです。

ボディ前面

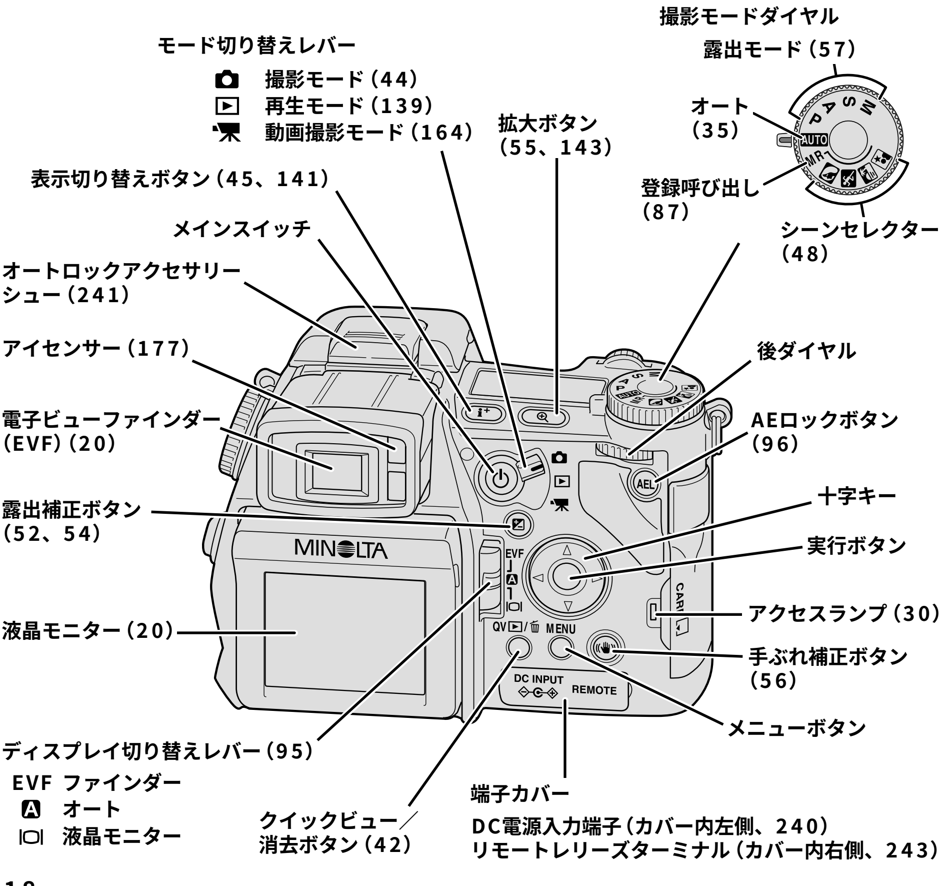


ボディ側面

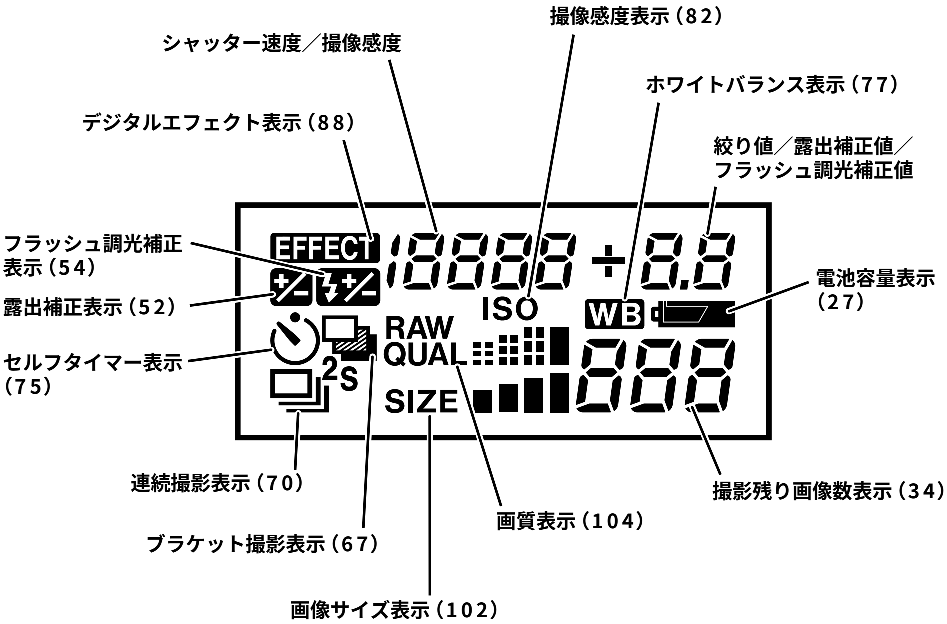


スピーカー
ストラップ取り付け部（15）
マクロ切り替えレバー（51）
ファンクションボタン（64）
視度調整ダイヤル（99）
ファンクションダイヤル（64）
MSET　登録設定（新規）（86）
CUST　カスタムポジション（179）
測光モード（83）
DRIVE　ドライブモード（66）
WB　ホワイトバランス（77）
ISO　撮像感度（82）
シンクロターミナル（99）
デジタルエフェクトボタン（88）
デジタルエフェクトレバー（88）
FIL　フィルター効果（90）
COL　彩度（90）
コントラスト（89）
電池室ロックレバー（26、27）
三脚ねじ穴
カスタムホワイトバランスボタン（80）
フォーカスモードレバー（92）
AF-S　ワンショットAF（92）
AF-C　コンティニュアスAF（93）
MF　マニュアルフォーカス（94）

ボディ背面


撮影モードダイヤル
露出モード（57）
オート（35）
登録呼び出し（87）
シーンセレクター（48）
モード切り替えレバー
撮影モード（44）
再生モード（139）
動画撮影モード（164）
拡大ボタン（55、143）
表示切り替えボタン（45、141）
メインスイッチ
オートロックアクセサリーシュー（241）
アイセンサー（177）
後ダイヤル
電子ビューファインダー（EVF）（20）
AEロックボタン（96）
露出補正ボタン（52、54）
十字キー
実行ボタン
液晶モニター（20）
アクセスランプ（30）
手ぶれ補正ボタン（56）
メニューボタン
ディスプレイ切り替えレバー（95）
EVF ファインダー
オート
液晶モニター
クイックビュー／消去ボタン（42）
端子カバー
DC電源入力端子（カバー内左側、240）
リモートレリーズターミナル（カバー内右側、243）
MINOLTA
AEL
EVF
QV
MENU
DC INPUT
REMOTE
AUTO
P
A
S
M
MR

上面データパネル

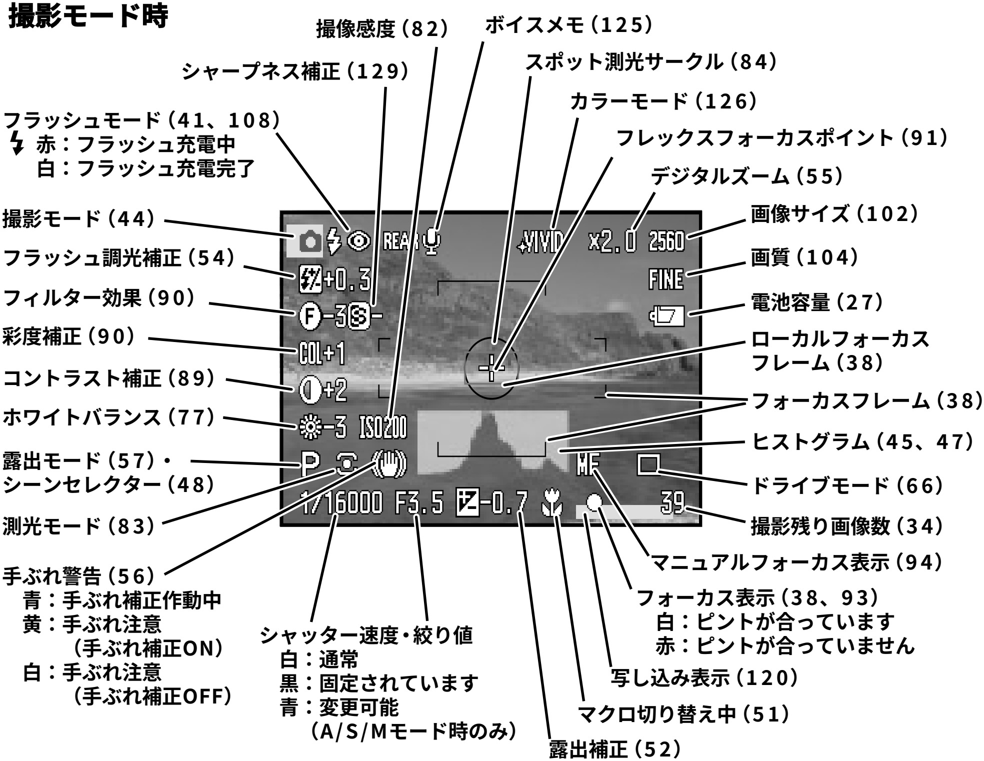


※このページでは、説明のためすべての表示を点灯させています。

電子ビューファインダー（EVF）・液晶モニター

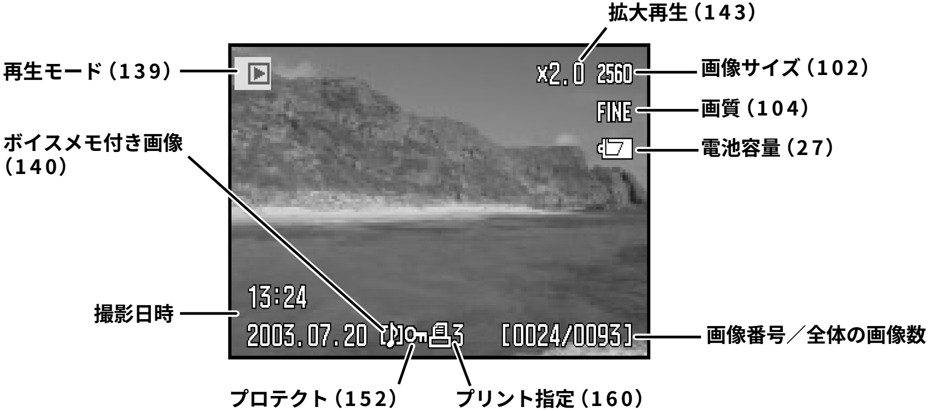
電子ビューファインダーと液晶モニターの表示は同一です。

撮影モード時

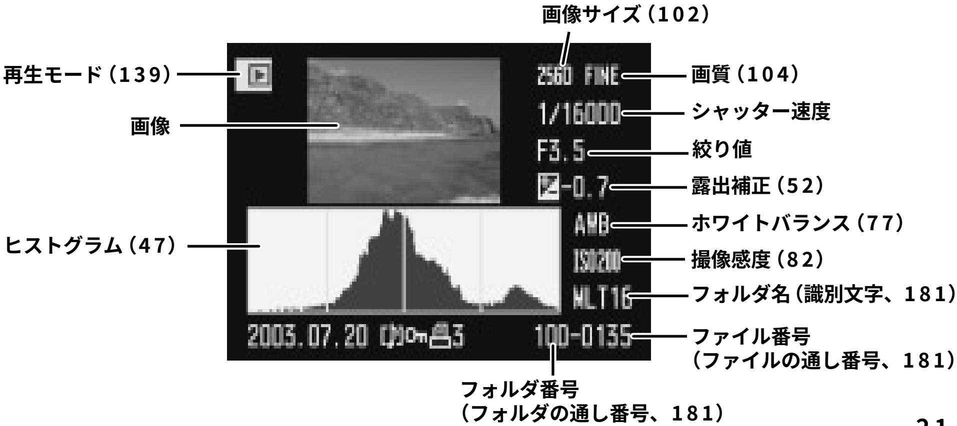


※これらのページでは、説明のためすべての表示を点灯させています。

再生モード・1コマ再生時



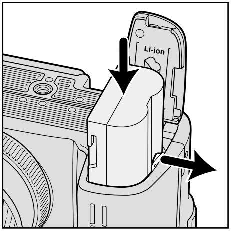
再生モード・ヒストグラム表示（142）

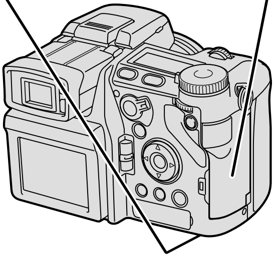


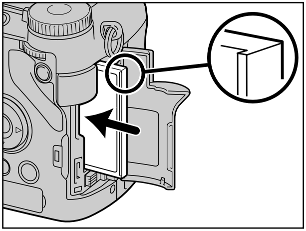
早分かり　詳しくは本文をご覧ください。

準備をする

1. 電池を充電します。→P.25
2. 電池を入れます。→P.26
3. コンパクトフラッシュカードを入れます。→P.29

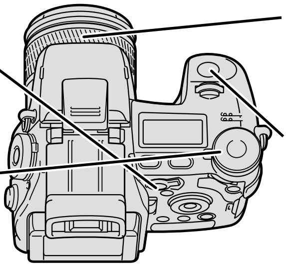






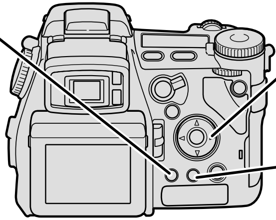
撮影する

1. メインスイッチを入れ、モード切り替えレバーを📷に合わせます。→P.31
2. 撮影モードダイヤルが、PまたはAUTO位置にあるのを確認します。→P.35
3. ズームリングを回して撮りたいものの大きさを決めます。→P.36
4. シャッターボタンを押します。→P.37



撮影した画像を確認する（クイックビュー）→P.42

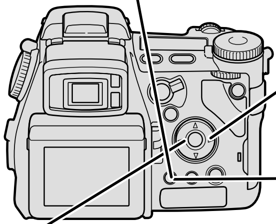
1. 撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。



2. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。
3. シャッターボタンの半押しまたはメニューボタンで元の撮影モードに戻ります。

画像を消去する →P.43

1. 撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。



2. 十字キーの左右で消去したい画像を選びます。
3. もう一度クイックビュー／消去ボタンを押します。
4. 右の画面が出た後、十字キーの左側で「はい」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押すと消去されます。



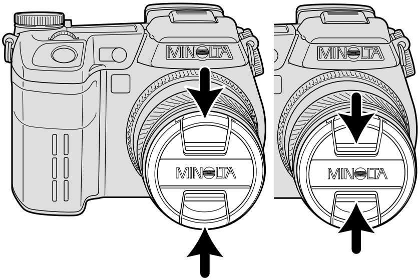
●「いいえ」のままで実行ボタンを押すと消去されません。

5. シャッターボタンの半押しまたはメニューボタンで元の撮影モードに戻ります。

基本撮影

撮影・再生の基本知識を説明しています。デジタルカメラを初めてお使いの方はもちろん、すでに使ったことのある方もこの章は一通りお読みください。

レンズキャップを取り外す



レンズキャップを取り外します。左図の2通りの取り付け・取り外し方が可能です。

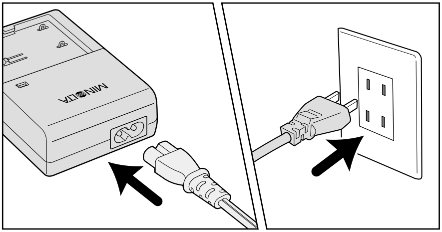
- 右側の方法は、フードを取り付けたままレンズキャップの取り付け・取り外しを行なう際に便利です。
- 撮影後は、レンズキャップをはめて保管してください。

電池を入れる

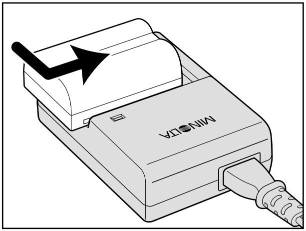
このカメラには、付属の専用電池（リチウムイオン電池NP-400）を使用します。お買い上げの際には電池の充電はされていません。付属の充電器で完全に充電してからお使いください。

● 充電器に付属のコードは日本国内用です。海外でのご使用については →P.242

電池を充電する

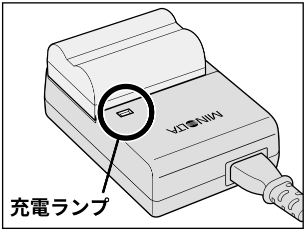


1. 電源コードを、充電器の電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。



2. 電池を充電器に取り付けます。

● 接点部分を先に、文字面を下にして入れてください。



● 充電が開始されます。充電中は充電ランプが点灯します。

● 充電時間は約150分です。

3. 充電ランプが消えたら充電完了です。

● 電池を取り出して、コードをコンセントから抜いてください。

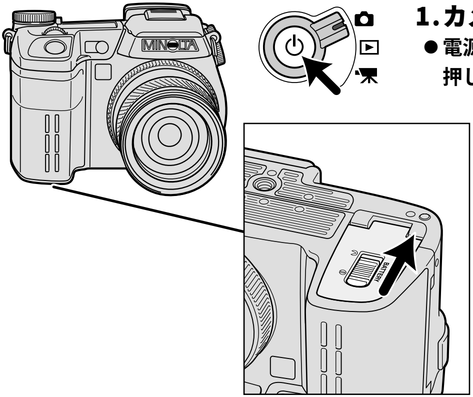
次ページへ続く

- 電池の充電は、ご使用の直前か前日ぐらいにされることをおすすめします。充電した状態で長時間放置すると、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。
- 電池の状態によっては、充電器に取り付けた後充電開始までに数秒かかることがあります。
- 電池を保管するときは、ほぼ使い切った状態での保管をおすすめします。フル充電状態での保管は電池の寿命を縮めたり劣化の原因となりますので避けてください。
- 長期間使用しないときは、少なくとも半年に1回5分程度の充電をし、カメラでほぼ使い切った状態にしてから再び保管してください。自然放電により完全に放電してしまうと、充電しても使えなくなることがあります。
- 充電しても著しく撮影枚数が少ない場合は、電池の寿命です。新しい電池をご購入ください。
- 所定の充電時間を越しても充電が完了しない場合には充電を止めてください。



この製品にはリチウムイオン電池を使用しています。不要になった電池は、お住まいの自治体またはリサイクル協力店等の規則に従って、正しくリサイクルしてください。

電池を入れる

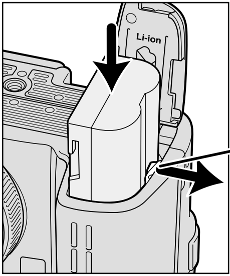


1. カメラの電源が切れているのを確認します。

- 電源が入っている場合は、メインスイッチを少し長めに押して電源を切ってください。

2. 電池室ロックレバーを図の方向に押します。

- ふたのロックが外れるので、ふたを開けます。



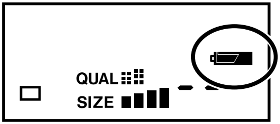
電池ロックレバー

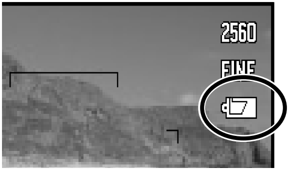
3. 電池ロックレバーを図の方向に押しながら、電池室ふた内側の表示にしたがって電池を入れます。

● カチッと音がするまで押し込んでください。

4. ふたを閉めて押さえながら、電池室ロックレバーを元の位置に戻します。

電池容量の確認





メインスイッチを入れると、電池の容量が上面データパネルと液晶モニターに表示されます。

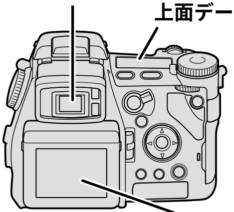
／（白）点灯　電池容量は十分です。
（液晶モニターでは4秒後に消えます。）

／（赤）点灯　電池の交換をおすすめします。
この状態でも撮影はできます。

のみ点滅（上面データパネルのみ）
新しい電池と交換してください。
シャッターは切れません。

● 長時間の撮影や再生には、別売りのACアダプターや外部電源パックをおすすめします。→P.240

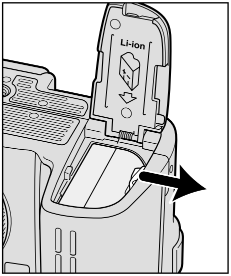
パワーセーブ（操作しないでいると表示が自動的に消えます）



このカメラは、約3分以上何も操作をしないでいると、自動的に省電力設定になり、液晶モニターやファインダー（EVF）が消灯します（パワーセーブ）。シャッターボタンを半押しするかメインスイッチを押せば、撮影が再開できます。

- ● 30分以上何も操作をしないでいると、完全に電源が切れます。
- ● パワーセーブまでの時間（初期設定は3分）を変更することができます。→P.191

電池を取り出す



1. カメラの電源が切れているのを確認します。
2. 電池室ロックレバーを押してふたを開けます。
3. 電池ロックレバーを図の方向に押して、電池を取り出します。

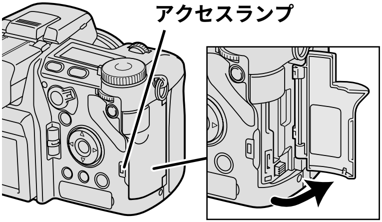
電池の追加購入

このカメラの専用電池（リチウムイオン電池NP-400）を追加で購入される場合は、「アフターサービスのご案内」に記載の弊社サービス窓口、弊社のカメラ写真情報サイト（http://www.photo.minolta.co.jp）のオンラインショップ、お買い求めの販売店のいずれかでご購入ください。

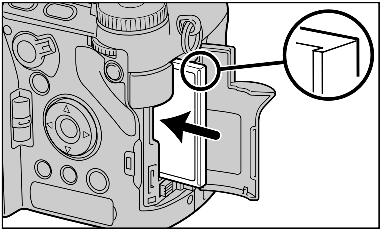
カードを入れる／取り出す

カードを入れる

画像を記録するには、コンパクトフラッシュカード（以下CFカードまたはカード）が必要です。

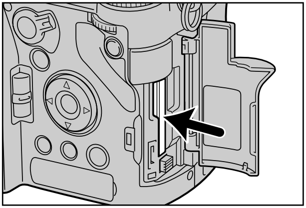


1. メインスイッチを切って、アクセスランプが消えているのを確認し、カードスロットふたを開けます。



2. CFカードの細長い突起部分を図の向きにして、スロットにカードを入れます。

- 中央をまっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめてください。



3. カードを奥までしっかり押し込みます。

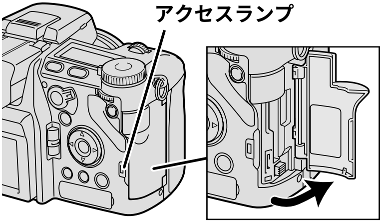
4. ふたを閉めます。

- CFカードの代わりにマイクロドライブの使用も可能です。

※カードを入れると液晶モニターに「このカードは使えません」等のメッセージが現れる場合は

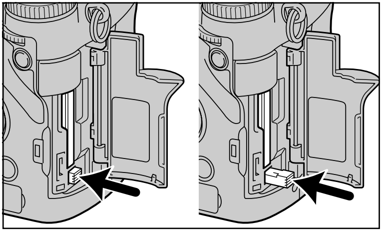
→裏表紙「よくあるお問い合わせ」のF28ページへ

カードを取り出す



1. メインスイッチを切って、アクセスランプが消えているのを確認し、カードスロットふたを開けます。

> アクセスランプ点灯中は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

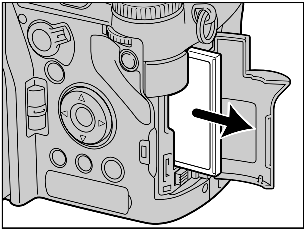


2. カード取り出しレバーを中に押し込みます。

- レバーが出てきます。

3. 再度カード取り出しレバーを押し込みます。

- カードが出てきます。

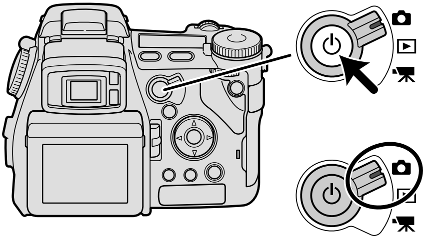


4. カードを取り出し、ふたを閉めます。

- レバーが出ていてきっちり閉まらない場合は、レバーを押し込んでからふたを閉めてください。
- 長時間使用した直後のカードは熱くなっていますので、注意してください。

電源（メインスイッチ）を入れる

電源を入れて、カメラを撮影モードにします。



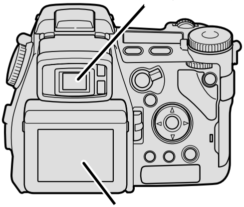
1. メインスイッチを押して電源を入れます。

2. モード切り替えレバーを に合わせます。

- 撮影モードになります。

- 電源を切るときは、メインスイッチを少し長めに押してください。

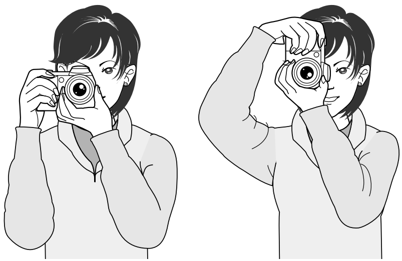
カメラを構える



撮影される画像は、カメラ背面の電子ビューファインダー（EVF、以下ファインダー）または液晶モニターに表示されます。両者の表示内容は同じです。
初期設定では、ファインダーをのぞけばファインダーが点灯して液晶モニターは消灯し、ファインダーから目を離せば逆に液晶モニターが点灯します。※設定を変えるには →P.95

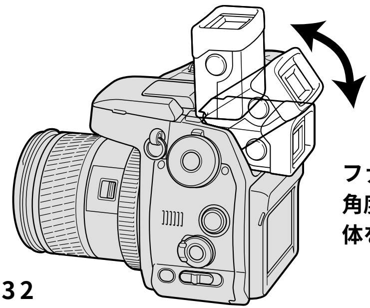
カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

ファインダーを見て撮影する



ファインダーをのぞいて撮影すると、カメラをしっかり構えることができ、手ぶれが起こりにくくなります。

- 右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。
- 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、望遠側で撮影する場合は、手ぶれが起こりやすくなります。三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。

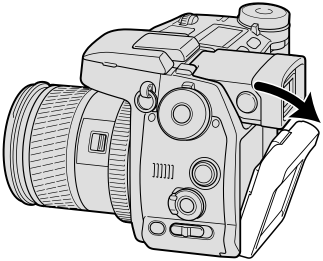


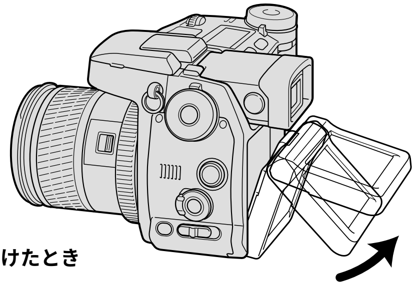
ファインダーは、上方向0 °～90 °の間で自由に角度を調整することができます。低い位置の被写体を撮影する場合に便利です。

液晶モニターを見て撮影する

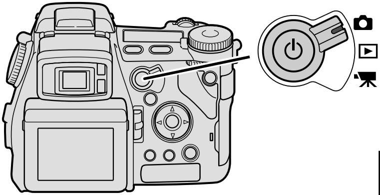
基本的な構え方は、ファインダーを見て撮影する場合と同じです。手ぶれが起こりやすいので、ぶれないようにカメラをしっかり構えて撮影してください。

液晶モニターは、下方向20 °～上方向90 °の間で自由に角度を調整することができます。高い位置や低い位置の被写体を撮影する場合に便利です。

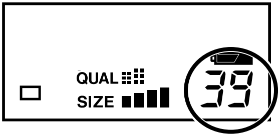


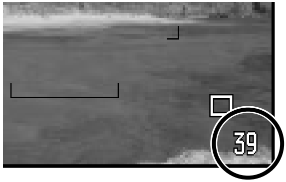


撮影できる画像数



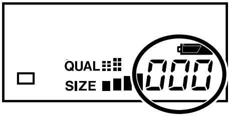
CFカードを入れ、電源を入れてモード切り替えレバーを に合わせると、上面データパネルと液晶モニターに、撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。





1枚のCFカードに記録できる画像数は、カードの容量、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。例として32MBのCFカードで初期設定で撮影する場合、記録できる画像数は約12枚です（画像サイズ2560×1920、画質ファイン）。

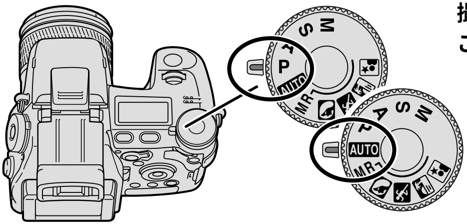
● 画像サイズ・画質を変更した場合、また動画撮影や音声付きで撮影した場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。※詳細は →P.106



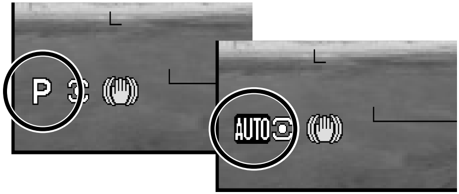
● 000が表示されたときは、カードがいっぱいです。カードを交換するか、カード内の画像を消去してください。画像サイズや画質を変更すると撮影できることもあります。

● ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては、撮影後に撮影残り画像数表示が変化しない場合もあります。
● 残り画像数が999枚を超える場合は、999と表示されます。999枚以下になるとカウントが始まります。
● 液晶モニターの残り画像数が黄色になったときは、カメラの内蔵メモリが一時的にいっぱいになったため撮影できません。白色に変わるのを待ってから撮影を続けてください。

Pモード撮影とAUTO（オート）撮影について



撮影モードダイヤルで、基本的な撮影モードを選ぶことができます。カメラを基本の状態で使いたい場合、P位置またはAUTO位置をおすすめします。



P（プログラム）モード撮影

このカメラの最も基本的なモードです。カメラの各種設定が可能で、一度行なった設定は原則として再度変更するまで保持されます。Pモードでは、シャッター速度と絞り値が自動で設定されます。
→P.57

AUTO（オート）撮影モード

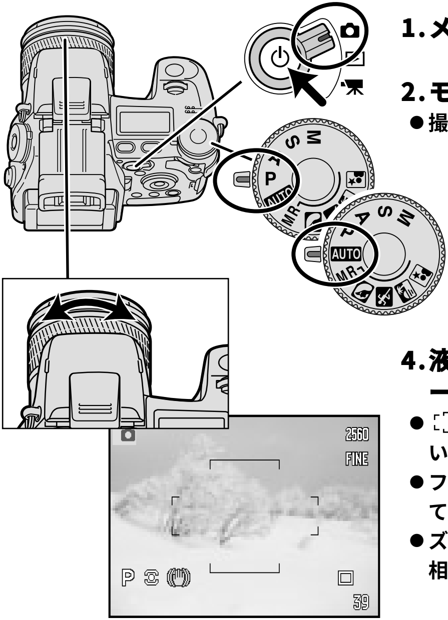
カメラのほとんどすべての機能が、一時的に自動設定になります。新たな設定を加えることは可能ですが、一度他のモードに変えると、新たに加えた設定は解除されます（メインスイッチ切／入では保持）。カメラまかせで気軽に撮影したいときや、他のモードでの設定変更後に一時的に自動設定に戻す場合に便利です。

● AUTO撮影モードでは、メニューを含めほとんどすべての機能が自動で設定されます。自動設定にならない機能は、レバーの位置で決められてしまうものなど以下の通りです。 ※一覧表は →P.236

- ・マクロ撮影
- ・フォーカスモード（AF-S、AF-C、MF）
- ・モニターとファインダー（EVF）に関する設定（切り替え、明るさ）
- ・視度調整
- ・ワイヤレスチャンネル
- ・音の設定（操作音、AF音、シャッター音、音量）

撮影する

ここでは、すべての設定がカメラまかせのフルオート（全自動）撮影について説明しています。



1.メインスイッチを押して電源を入れます。

2.モード切り替えレバーを に合わせます。

● 撮影モードになります。

3.撮影モードダイヤルをPまたはAUTOに合わせます。

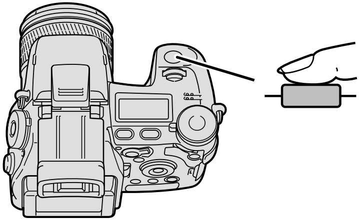
※PとAUTOについて →P.35

4.液晶モニターまたはファインダーをのぞき、ズームリングを回して構図を決めます。

● [　] の中のものにピントが合います。※ピントが合わないときは →P.38

● フラッシュを発光させたいときは、内蔵フラッシュを上げてください。→P.40

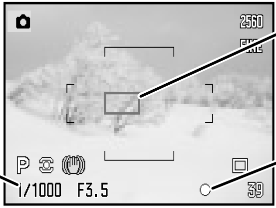
● ズームリング上の焦点距離は、35mmフィルム換算時に相当する値です。※換算表は →P.235



5.シャッターボタンを半押しします。

● シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

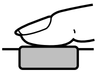
●半押しすると、液晶モニター／ファインダー内に、さまざまな表示が現れます。



ピント合わせに使われたセンサー
（一瞬赤く表示され、ピントの合っている位置をお知らせします。）

シャッター速度・絞り値

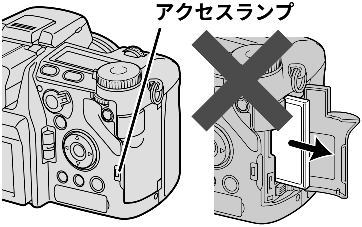
フォーカス表示
（ピントの状態をお知らせします。→P.38）



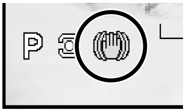
5.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●撮影された画像が自動的にCFカードに記録（保存）されます。書き込み中はアクセスランプが点灯しますので、その間はカードや電池を抜かないでください。

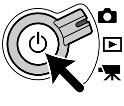
アクセスランプ



●カメラから約50cm以上離れたものにピントが合います。それより近くを撮影する場合は、マクロ撮影を行なってください。→P.50
●画面の表示の有無を切り替えることもできます。→P.45

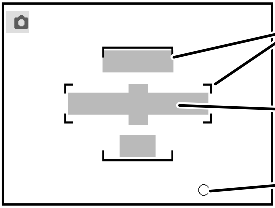


液晶モニター／ファインダー内に、黄色または白色の(手ぶれ警告表示)が出たときは、シャッター速度が遅くなっているので手ぶれの恐れがあります。フラッシュ撮影（P.40）または三脚の使用をおすすめします。　※手ぶれ補正について →P.56



●撮影後は、メインスイッチを少し長めに押して電源を切ってください。
●レンズキャップをはめて保管してください。

ピント合わせ



ワイドフォーカスフレーム［ ］の中には、ピントを合わせるためのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）が11個あります。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合っている部分のセンサーが一瞬赤く点灯して、どこにピントが合っているかをお知らせします。

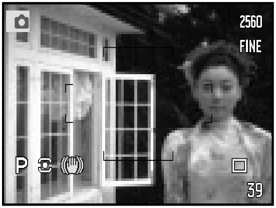
フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、液晶モニターまたはファインダー内のフォーカス表示 ○ がピントの状態をお知らせします。

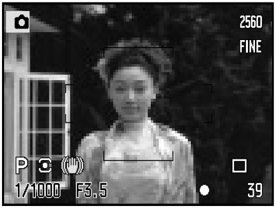
フォーカス表示	状況
○ 白色	ピントが合って固定されています。撮影できます。
● 赤色	ピントが合いません。以下を確認してください。撮影はできます。 撮りたいものに近づき過ぎていませんか？ カメラから約50cm以上離れたものにピントが合います。それより近くの物を撮影するときは、マクロ撮影を行なってください。→P.50 被写体が［ ］から外れていませんか？ ［ ］から外れたりするとピントが合いません。 被写体が動いていませんか？ 動いている物を撮影する時は、コンティニュアスAFをおすすめします。→P.92 オートフォーカスの苦手な被写体ではありませんか？ オートフォーカスの苦手な被写体（P.40）だと、オートフォーカスではピント合わせができません。フォーカスロック撮影（P.39）またはマニュアルフォーカス撮影（P.94）を行なってください。

● ● が赤色の時に撮影すると、フラッシュが発光しない場合は4m〜無限位置に、発光する場合は3.0〜3.8mの間にピントが合います。

被写体が[ ]に入らないときは（フォーカスロック撮影）

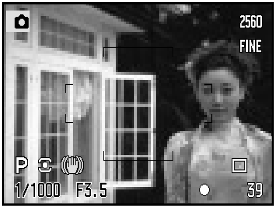


ピントを合わせたいものが[ ]に入らないときに、そのまま撮影すると、[ ]と重なっている背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。



1.ピントを合わせたいものに[ ]を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

● 画面右下に白い○が点灯します。



2.シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

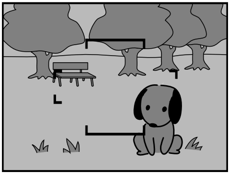
3.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

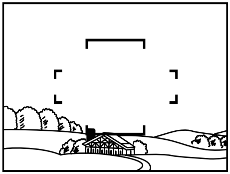
● ピントと同時に露出も固定されます（ワンショットAFで多分割測光時のみ。常に固定させることも可能→P.136）。画面左下のシャッター速度と絞り値が黒く反転してお知らせします。

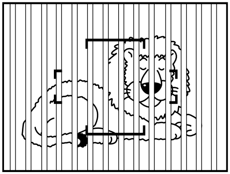
● ピント合わせの方法として、他にも自由にピント合わせの位置が決められるフレックスフォーカスポイント機能（P.91）があります。

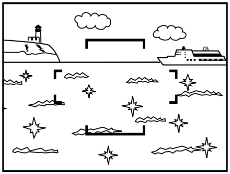
オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは、被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。ピントが合わない場合は、液晶モニターに赤色の ● が点灯します（P.38）。このような場合は、フォーカスロック撮影（P.39）またはマニュアルフォーカス撮影（P.94）を行なってください。

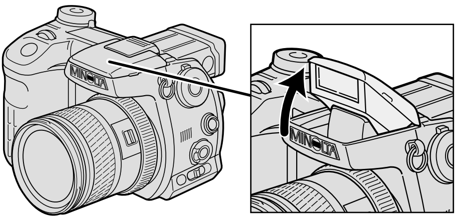

暗すぎるもの


青空や白壁など
コントラストのないもの


［　］の中に
距離の異なるものが
混じっているとき


太陽のように
明るいものや、
車のボディ、水面など
きらきら輝いているもの

フラッシュ撮影



フラッシュを発光させるときは、内蔵フラッシュを手で上げてください。上げていると必ず発光します。

フラッシュを発光させないときは、内蔵フラッシュを手で押し下げてください。

フラッシュ表示

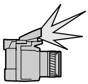


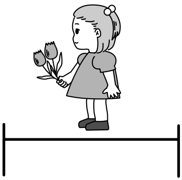
フラッシュ表示	状況
白色	フラッシュの充電が完了しました。撮影できます。
赤色	フラッシュが充電中です。白色になってから撮影してください。
青色（撮影後）	フラッシュ光が被写体に届きました。 撮影後に青い が現れなかった場合は、フラッシュ光が被写体に届いていません。フラッシュ光の届く距離を確認してください。
黄色	逆光で被写体が暗くなっています。フラッシュの使用をおすすめします。

- このカメラではフラッシュの発光量を正確に決めるため、フラッシュ発光時には撮影の直前に一度フラッシュが発光します（プリ発光）。よって本発光と合わせてフラッシュが2回続けて発光します。※詳しくは →P.114

フラッシュ光の届く距離

フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では3.8m、最望遠側では3.0mを目安に撮影してください（撮像感度AUTO時）。





広角側：3.8m
望遠側：3.0m



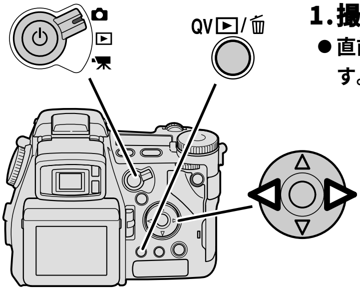
夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

- 撮像感度を変更すると、フラッシュ光の届く距離が変わります。→P.82

撮影した画像を確認する／消去する（クイックビュー）

画像を確認する（クイックビュー）

撮影した画像を簡単に見ることができます。



1.撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。

● 直前に撮影された画像がファインダーまたは液晶モニターに現れます。

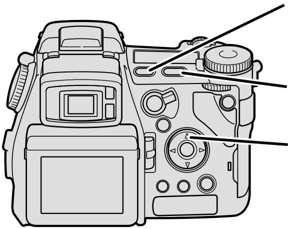
2.十字キーの左右で見たい画像を選びます。

3.シャッターボタンを半押しすると撮影モードに戻ります。

● メニューボタンでも戻ります。

※再生モードに入るときは →P.140

クイックビューでは再生モードと同様の操作が可能です（再生モードメニューを除く）。

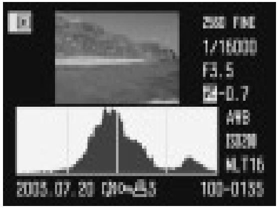


● 表示切り替えボタンを押すと、表示やデータの有無を切り替えることができます。→P.141

● 拡大ボタンを押すと画像を拡大することができます。→P.143

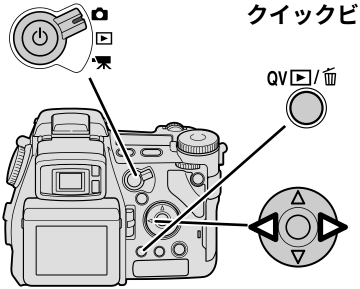
● 十字キーの上側を押すとヒストグラム表示にすることができます。→P.142

● 動画やボイスメモの再生も可能です。→P.140、167



ヒストグラム表示

画像を手早く消去する

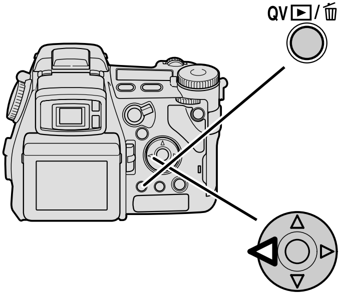


クイックビューの状態で、画像を簡単に消去することができます。

1. 撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。

● 直前に撮影された画像がファインダーまたは液晶モニターに現れます。

2. 十字キーの左右で消去したい画像を選びます。



3. もう一度クイックビュー／消去ボタンを押します。

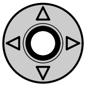
● 右の画面が現れます。

● 消去しない場合は、この状態で十字キー中央の実行ボタンを押してください。



4. 十字キーの左側で「はい」を選びます。





5. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 選んだ画像が消去されます。

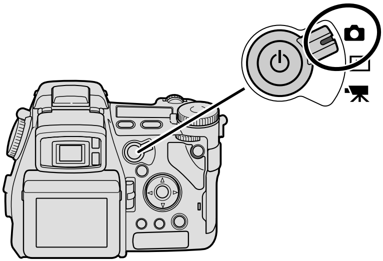
● この後、2に戻って続けて画像を消去することもできます。

6. シャッターボタンを半押しして（またはメニューボタンを押して）通常の撮影モードに戻ります。

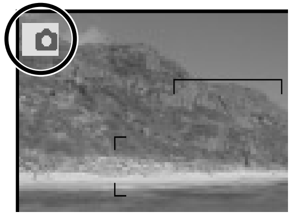
● 消去する際、「はい」を先に選択した状態にすることもできます。→P.195

※複数の画像を一度に消去するときは →P.148

撮影モード



この章では、撮影モードでの各種設定について説明しています。モード切り替えレバーは位置（撮影モード）に合わせてください。



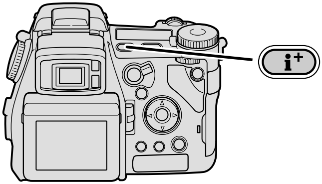
撮影モード設定中は、ファインダー／液晶モニター内の左上にが現れます。

画面表示の切り替え（📷撮影モード時）

画面内の表示の切り替え

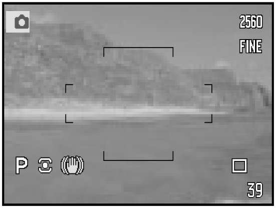
画面内の表示やヒストグラムの有無を切り替えることができます。

※個々の表示内容について →P.20

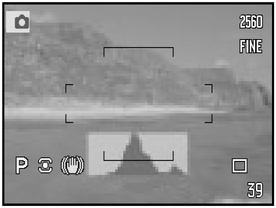


表示切り替えボタンを押します。

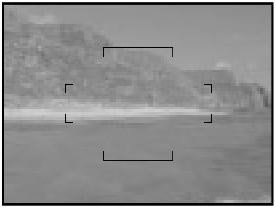
● ボタンを押すごとに画面が以下の順序で切り替わります。



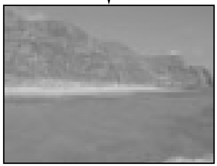
撮影データあり



ヒストグラム
→P.47



フォーカスフレームのみ



表示なし

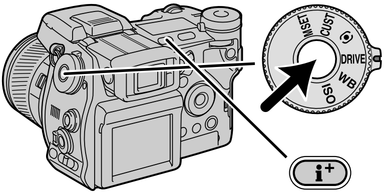
- 「フォーカスフレームのみ」でも、ピントが合った時のセンサーなど、一部の表示は現れます。
- この使用説明書では、撮影データありの状態（左端）で説明しています。
- これらの表示に、方眼や目盛り線を加えることもできます。→次ページ
- このカメラでは、暗いところでも液晶モニターを見やすくするため、一定以下の暗さになるとモニターが自動的に白黒表示になります（モニター自動感度アップ機能）。撮影される画像には影響ありません。この機能を解除することもできます。→P.130

フォーカシングスクリーン（画面の背景表示）の切り替え

画面内に、方眼や目盛り線を表示させることができます。前ページの画面内の表示と自由に組み合わせることが可能です。

方眼：　　構図を決める際の水平線や垂直線を知ることができます。

目盛り線：構図を決める際に大きさのバランスを取ることができます。

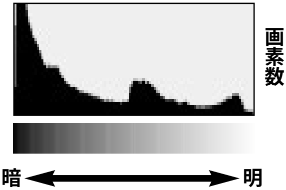


ファンクションボタンを押したまま、表示切り替えボタンを押します。

● ボタンを押すごとに画面が以下の順序で切り替わります。

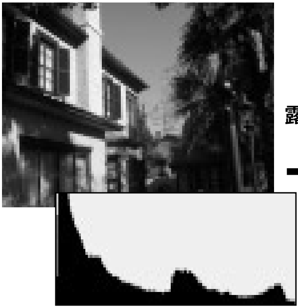


ヒストグラムについて

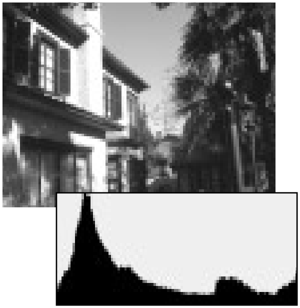


ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。このカメラのヒストグラム表示は、横軸が明るさ（左端が黒、右端が白）、縦軸が画素数を表しています。露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。下はその一例です。

※画素について →P.103



＋側に
露出補正を
かける



＋側に露出補正をかけると画面全体が明るくなるので、ヒストグラムが全体に明るい方（右側）にずれます。－側だと逆にずれます。

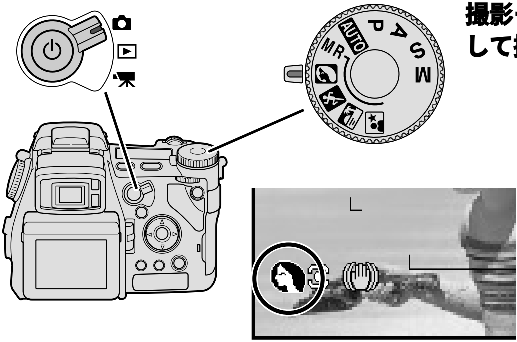
ヒストグラムの左右両端には、黒または白100%のデータ*しか存在しません。よって後でパソコンに取り込んで補正しても、つぶれた部分の再現は不可能だということになります。撮影前にヒストグラムを確認することにより、このような画像の状態を前もって知ることができます。

*正確にはカラー画像の場合RGBで表されるので、白はR255、G255、B255、黒はR0、G0、B0

- 撮影前のヒストグラムは、その時に液晶モニター／ファインダーに表示されている画像（ライブビュー画像）のヒストグラムを表します。よって、ライブビュー画像と実際に撮影される画像の明るさが異なる場合（フラッシュ発光時、撮影モードメニューでMモード時のモニターを「常に適正」にしている時（P.131）、自動感度アップ機能により暗中でモニターが自動的に白黒になっている時（P.130））は、撮影後にヒストグラムを確認してください。→P.142
- 被写体の状況や画像処理により、撮影前と後のヒストグラムに若干の差が生じることがあります。

シーンセレクター

撮影したい場面を絵表示で選ぶだけで、その場面に合った写真を撮ることができます。



撮影モード位置で、撮影モードダイヤルを回して撮影したい場面の絵表示を選びます。

- ポートレート
- スポーツ
- 夕景
- 夜景ポートレート・夜景

● 撮影シーンセレクターでは、選んだ撮影場面に応じてカメラの設定が自動的に行われます。従って測光モード等、機能によっては撮影者による変更ができません（シーンによってその内容は異なります）。

ポートレート



人物を引き立たせるようなやわらかいぼけ味を表現するとともに、人の肌がなめらかに写るようなデジタル処理を行ないます。

● 背景をよりぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。

● 逆光のときはフラッシュの使用をおすすめします。フラッシュを使わない場合は、画面に余分な光が写り込むのを防ぐため、フードの使用をおすすめします。→P.98

スポーツ



速く動いているものでもぶれにくいよう、高速寄りのシャッター速度で撮影を行ないます。

● フォーカスモードレバーはAF-C（コンティニュアスAF）位置に設定することをおすすめします。シャッターボタンを押している間ピントが調整され続けます。→P.93
● フラッシュ光が届かない場合はフラッシュを使用しないでください（内蔵フラッシュを下げてください）。※フラッシュ光の届く距離 → P.41

夕景

夕焼けの赤さを美しく再現することができます。

● レンズを長時間太陽に向けたまま放置しないでください。CCD（撮像素子）を傷める原因となります。やむを得ず置く場合は、レンズキャップを取り付けるか、絞りを絞り気味に（絞り値を大きく）してください。



夜景ポートレート・夜景





明かりのない暗い部分は黒く、明るい部分は明るく写し出すことにより、美しい夜景を描写することができます。

夜景ポートレート撮影（人物＋夜景）

フラッシュを上げて発光させてください。

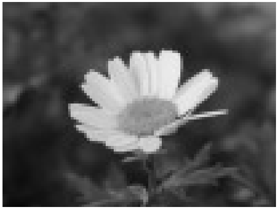
夜景撮影（夜景のみ）

フラッシュは下げたまま発光させずに撮影してください。

● シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用してください。手ぶれ補正機能も効果があります（P.56）。また夜景ポートレート撮影の場合、撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してください。

マクロ撮影

カメラ内のCCD*の位置から約50cm以内の被写体を撮影する場合に使います。レンズの望遠側を使うテレマクロ撮影と、広角側を使うワイドマクロ撮影が可能です。テレマクロ撮影では被写体を中心とした一般的なマクロ撮影、ワイドマクロ撮影では被写体と背景の両方を取り入れたマクロ撮影を行なうことができます。



テレマクロ撮影



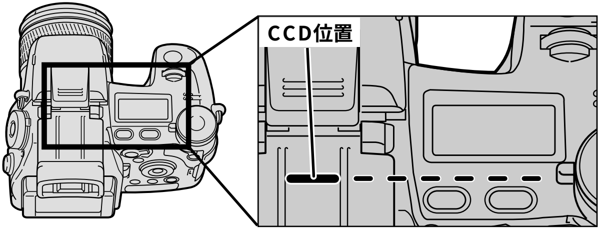
ワイドマクロ撮影

撮影可能範囲

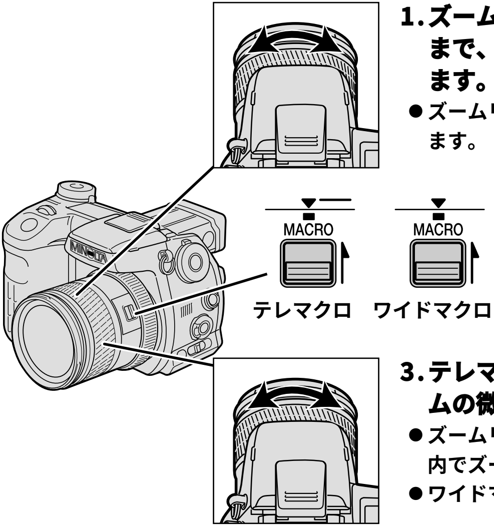
テレマクロ時：　CCD面より約25～60cm
（レンズ先端より約13cm～50cm）

ワイドマクロ時：CCD面より約30～60cm
（レンズ先端より約21cm～51cm）

● 上記の範囲外の被写体にはピントが合いません。



*CCD＝カメラ内で被写体の映像を受け取る部分、つまり通常のカメラのフィルムにあたる役割を果たす部分。このカメラでは、撮影モードダイヤル指標の延長線上にあります。



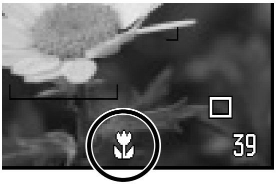
1. ズームリングを、テレマクロの場合は最望遠側まで、ワイドマクロの場合は最広角側まで回します。

- ズームリング上の▼とマクロ切り替えレバー横の■が合います。

2. マクロ切り替えレバーを矢印の方向にスライドさせます。

3. テレマクロの場合、ズームリングを回してズームの微調整を行ないます。

- ズームリング上の ▾── がマクロ撮影範囲です。この範囲内でズームを行なうことができます。
- ワイドマクロではズームを行なうことはできません。



- マクロ撮影になっているときには、液晶モニター／ファインダー下部に ✿ が表示されます。
- 内蔵フラッシュは、レンズにさえぎられて画面下部まで光が届かないのでおすすめできません。フラッシュ撮影が必要な場合にはマクロフラッシュまたはディフューザーの使用をおすすめします。→P.240、241
- マクロ撮影等近距離撮影の場合は、手ぶれ補正機能でもぶれが補正できないことがあります。三脚の使用をおすすめします。

露出補正

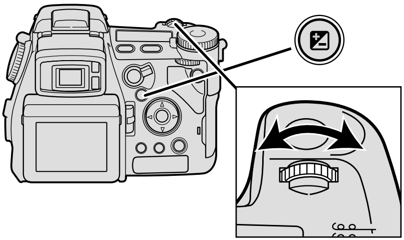
画面全体を明るくしたり暗くしたりします。－2.0～＋2.0の範囲で0.3段ごとに設定できます。
＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
－側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。
2通りの設定方法が可能です。



露出補正＋側



露出補正－側



設定方法1（1つずつ操作する方法）

1.露出補正ボタンを押します。

2.前ダイヤルを回して希望の数値を選びます。

設定方法2（同時に操作する方法）

露出補正ボタンを押したまま前ダイヤルを回して、希望の数値を選びます。





● 0以外に設定すると、設定後、上面データパネルには±が、液晶モニター／ファインダーには±と数値が表示されます。

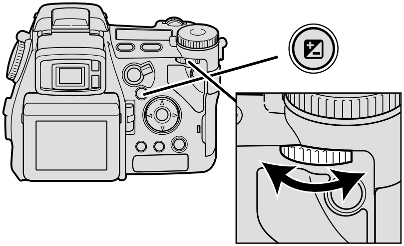
- フラッシュを発光させる場合、次の調光補正も同時に設定することができます。
- 撮影前後に、ヒストグラム表示で露出の状態を確認することもできます。→P.47、142
- 露出補正ボタンを押さなくても、前または後ダイヤルだけですぐに露出補正ができるようにすることもできます。→P.193
- 露出補正は、表示されているシャッター速度と絞り値の変化だけでなく、より細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整（オート設定時のみ）によっても行われています。したがって、露出補正を設定しても表示されているシャッター速度と絞り値は変わらないことがありますが、正確に露出補正は行われています。

露出補正と調光補正（次ページ）の違い

露出補正では、シャッター速度・絞り値・撮像感度（オートの場合）が変化することによって補正が行われます。フラッシュが発光する場合は、それに加えてフラッシュの発光量も同時に変化します。
一方調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。写真全体に対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えばフラッシュ光を少なめに仕上げたいときは、調光補正をややアンダー側（－側）に設定しておき、同時に露出補正をオーバー側（＋側）にかけて全体の明るさを調整する、といった使い方ができます。

調光補正

フラッシュ撮影の際、露出補正とは別に、フラッシュの発光量だけを調整することができます。露出補正と同じく、−2.0〜＋2.0の範囲で0.3段ごとに選択することができます。2通りの設定方法が可能です。



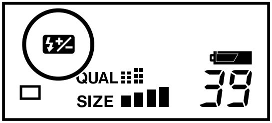
設定方法1（1つずつ操作する方法）

1.露出補正ボタンを押します。

2.後ダイヤルを回して希望の数値を選びます。

設定方法2（同時に操作する方法）

露出補正ボタンを押したまま後ダイヤルを回して、希望の数値を選びます。



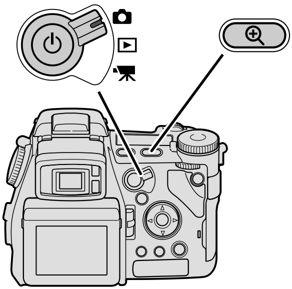


- 0以外に設定すると、設定後、上面データパネルには が、液晶モニター／ファインダーには と数値が表示されます。
- 前ページの露出補正と同時に設定することもできます。

- 特に内蔵フラッシュで調光補正を行なう場合、フラッシュの光量が限られているため、被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近にあるときは、オーバー側の効果が出ないことがあります。同様に近接撮影ではアンダー側の効果が出ないことがあります。

デジタルズーム

画像を2倍に拡大することができます。



撮影モード位置で、拡大ボタンを押します。

- 画像が2倍に拡大されます。もう一度押すと元に戻ります。
- デジタルズームの倍率が黄色く表示されます。



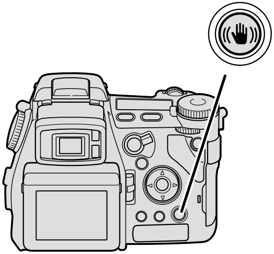
- 撮影後もデジタルズームのままです。戻るときは拡大ボタンを押してください。
- デジタルズーム時には、フレックスフォーカスポイント（P.91）は機能しません。コンティニュアスAF時の自動追尾AFは機能します。またRAW画像と動画のデジタルズームはできません。

ズームリングによるズーム（光学ズーム）では、画像サイズは維持したまま拡大されますが、デジタルズームでは必ずしも画像サイズは維持されません。元の画像サイズに応じて、以下の通りに画像サイズが変更されます。（例：640×480の場合は、デジタルズーム後も画像サイズは維持されるので光学ズームとほぼ同じ効果が得られます。それ以外のサイズだと、元の画像サイズよりも小さくなります。）

<table>
<tr><th>元の画像サイズ</th><th>2倍デジタルズーム後の画像サイズ</th></tr>
<tr><td>2560 × 1920</td><td rowspan="3">1280 × 960</td></tr>
<tr><td>2080 × 1560</td></tr>
<tr><td>1600 × 1200</td></tr>
<tr><td>640 × 480</td><td>640 × 480</td></tr>
</table>

手ぶれ補正

カメラを手持ちで撮影する場合は、この機能により手ぶれを減少させることができます。フラッシュを発光させずに撮影するときや、望遠側で撮影するときに特に威力を発揮します。



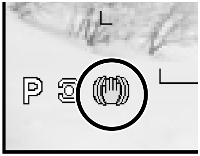
1. 手ぶれ補正ボタンが点灯している（＝手ぶれ補正機能が作動している）のを確認します。

● ボタンの点灯中に手ぶれ補正ボタンを押すと、手ぶれ補正機能は解除されます。もう一度押すと作動します。

2. シャッターボタンを半押しします。

● 半押しすると、手ぶれ補正の効果が画面で確認できます。少なくとも1秒間は半押ししたまま、画像が安定するのを確認してください。

3. シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。



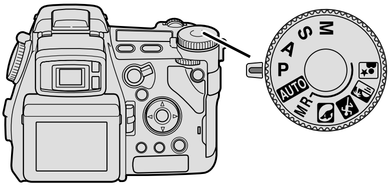
● 液晶モニター／ファインダー内では、手ぶれ補正表示 が手ぶれの状態をお知らせします。

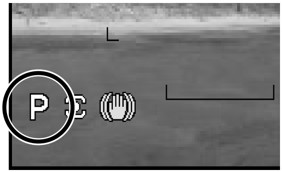
青色	手ぶれ補正機能が作動中です。
黄色	手ぶれ補正機能は作動中ですが、しっかりカメラ構えて撮影してください。シャッター速度が遅い場合は、フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。
白色	手ぶれ補正機能は作動しておらず、手ぶれの可能性があります。手ぶれ補正機能、フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。

● 手ぶれ補正機能は、シャッターボタン半押し中と露光中のみ作動します。半押し中の画像の動きが不自然に感じる場合は、露光中のみの作動に変更することもできます。→P.191
● 三脚使用時には、手ぶれ補正機能を解除されることをおすすめします。
● カメラを構えた直後や被写体を追いながら撮影する場合、夜景撮影などシャッター速度が遅いときには、手ぶれ補正の効果が現れにくいことがあります。
● 高温下で長時間撮影された場合、カメラの温度が上がり、手ぶれ補正機能が自動的に解除されることがあります（解除前に赤色の と手ぶれ補正ボタンが4秒間点滅してお知らせします）。カメラの温度が下がってから撮影を再開してください。

露出モード

同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。撮影モードダイヤルで設定します。





Pモード
シャッター速度と絞り値の両方が自動的に決まります。Pモードで前または後ダイヤルを回すと、プログラムシフトになります。

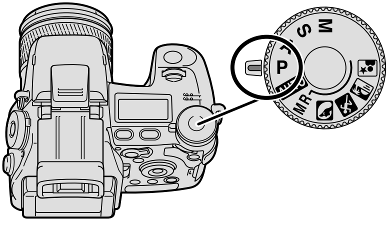
Aモード
希望の絞り値を決めることができます。→P.59

Sモード
希望のシャッター速度を決めることができます。→P.60

Mモード
希望のシャッター速度と絞り値を決めることができます。→P.62

Pモード（プログラムモード）

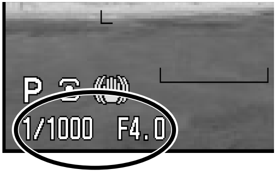
シャッター速度と絞り値が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真など一般撮影に最適です。



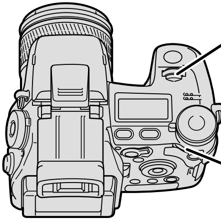
撮影モードダイヤルをPに合わせます。

プログラムシフト

Pモードのままで、一時的に絞り値とシャッター速度の組み合わせを変えることができます（PA／Psシフト）。

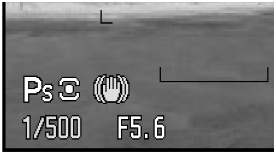


1. Pモードの状態で、シャッターボタンを半押しして、測光値（シャッター速度と絞り値）を表示させます。



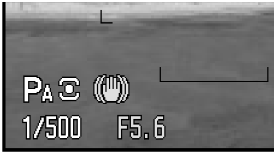
2. 測光値が表示されている状態で、前ダイヤルを回すとPsシフトになります。

● 希望のシャッター速度を選ぶことができます。絞り値は自動的に決まります。



後ダイヤルを回すとPAシフトになります。

● 希望の絞り値を選ぶことができます。シャッター速度は自動的に決まります。



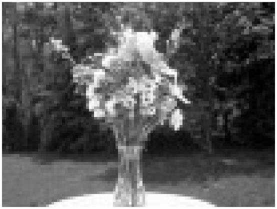
● 数秒経過して測光値が消えると、設定した値も消えます。
● 測光値が表示されていれば、シャッターボタンの半押しを続ける必要はありません。
● フラッシュが発光する場合は、プログラムシフトにはなりません（ダイヤルを回しても何も変わりません）。プログラムシフト中に内蔵フラッシュを上げると、プログラムシフトはキャンセルされます。

Aモード（絞り優先モード）

撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調整するもので、絞り値が変わると被写体の前後のピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。

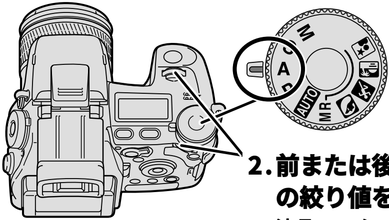


絞り値が小さいとき
（絞りを開けたとき）



絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）

絞り値を2.8などに小さくすると、被写体の前後がぼけやすくなります（写真左）。逆に11などに大きくすると、近くのものから遠くのものまでくっきりと写ります（写真右）。



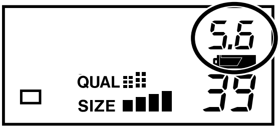
1. 撮影モードダイヤルをAに合わせます。

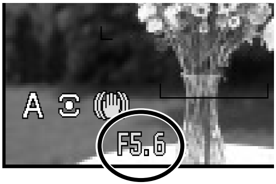
2. 前または後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

- 液晶モニター／ファインダー内では、絞り値は青く表示されます。以下の範囲から選ぶことができます。

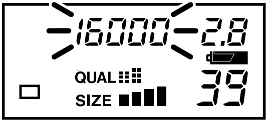
  広角側：2.8～11
  望遠側：3.5～11

  ※数値は1/3段刻みで変わります。





次ページへ続く



●シャッターボタンを半押ししたときにシャッター速度が点滅（上面データパネル）または赤く点灯（液晶モニター／ファインダー）した場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。通常に表示される範囲内で絞り値を設定してください。

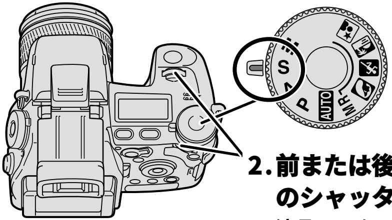
●フラッシュを使用する場合、絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして（開放側で）撮影することをおすすめします。
●絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）とレンズを通る光の量が減少し、シャッター速度が遅くなります。三脚を使って撮影されることをおすすめします。
●撮影状況によっては、絞り値を変えても、それに連動してシャッター速度が変化しないことがあります。これは、表示されている以上に細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整（オート設定時のみ）によるもので、実際には適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。

Sモード（シャッター速度優先モード）

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。
シャッター速度を1/1000秒などに速くすると、動いているものがくっきりと止まって写ります（写真左）。逆に1/15秒などに遅くすると、動いているものが流れるように写ります（写真右）。

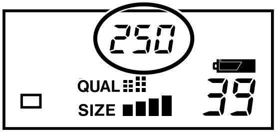

シャッター速度が速いとき


シャッター速度が遅いとき



1.撮影モードダイヤルをSに合わせます。

2.前または後ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

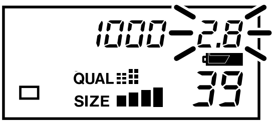




- **液晶モニター／ファインダー内では、シャッター速度は青く表示されます。30秒〜1/16000秒の範囲から選ぶことができます。**

  ※数値は1/3段刻みで変わります。

- **表示部の60、125といった数字は、1/60秒、1/125秒を表わします。2”、4”など「”」の文字が出ている場合は、2秒、4秒を表わします。**

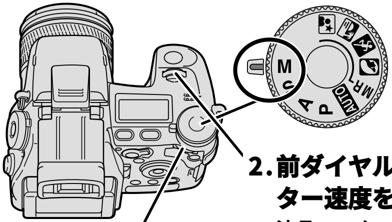


- **シャッターボタンを半押ししたときに絞り値が点滅（上面データパネル）または赤く点灯（液晶モニター／ファインダー）した場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。通常に表示される範囲内でシャッター速度を設定してください。**

- **フラッシュを発光させる場合、シャッター速度が高速になるほど、実際の露光に使われるフラッシュ光量は減少し、露出アンダーになることがあります。内蔵フラッシュで1/1000秒、別売りのプログラムフラッシュだと1/250秒かそれより低速側での使用をおすすめします。**
- **Sモードでは、黄色と白色の手ぶれ警告は表示されません（青色のみ表示）。**
- **バルブ撮影（長時間露光）はMモードで行なってください。****→P.97**
- **被写体の状況によっては、シャッター速度を変えても、それに連動して絞り値が変化しないことがあります。これは撮像感度の調整（オート設定時のみ）によるもので、実際には適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。**

Mモード（マニュアルモード）

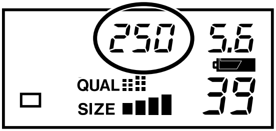
Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影するときなどに便利です。

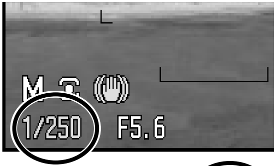


1.撮影モードダイヤルをMに合わせます。

2.前ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

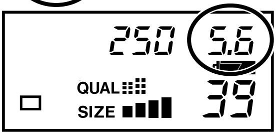
- 液晶モニター／ファインダー内では、シャッター速度は青く表示されます。30秒～1/16000秒の範囲から選ぶことができます。
- 30秒の次にはbulb（バルブ撮影）が表示されます。→P.97

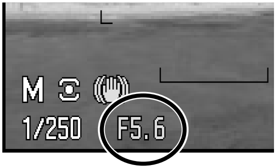




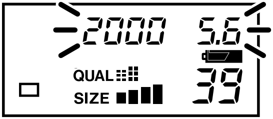
3.後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

- 液晶モニター／ファインダー内では、絞り値は青く表示されます。以下の範囲から選ぶことができます。
  広角側：2.8～11
  望遠側：3.5～11





- Mモードでフラッシュを発光させない場合は、設定されたシャッター速度と絞り値に応じて画面の明るさが変化します。そのまま撮影すると写真が大幅に露出オーバー／アンダーになる場合は、シャッターボタンを半押しするとシャッター速度と絞り値の両方が点滅（上面データパネル）または赤く点灯（液晶モニター／ファインダー）してお知らせします。

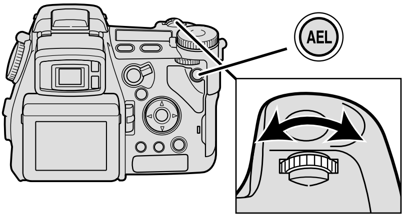


- フラッシュを発光させる場合は、被写体が確認できるよう自動的に画面が明るくなります。またフラッシュを発光させない場合でも、画面の明るさを自動的に調整して被写体が確認できるようにすることもできます。→ P.131

- フラッシュを発光させる場合、シャッター速度が高速になるほど、実際の露光に使われるフラッシュ光量は減少し、露出アンダーになることがあります。内蔵フラッシュで1/1000秒、別売りのプログラムフラッシュだと1/250秒かそれより低速側での使用をおすすめします。
- Mモードでは、撮像感度（P.82）をオートにしていると、常にISO 100相当に固定されます。
- Mモードでは、黄色と白色の手ぶれ警告は表示されません（青色のみ表示）。
- Mモードでの露出補正（P.52）はできません。Mモードのままで露出補正的な効果を出す場合は →プログラムドマニュアル、P.194
- 前後ダイヤルの機能を入れ替えて、前ダイヤルで絞り値、後ダイヤルでシャッター速度が選べるようにすることもできます。→P.194

マニュアルシフト

Mモードに設定後、露出はそのままでシャッター速度と絞り値の組み合わせを変えることができます。

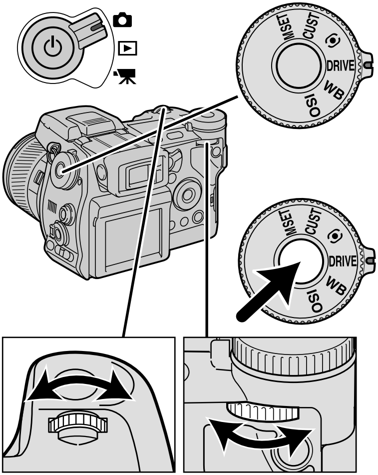


1. Mモードでシャッター速度と絞り値を選びます。

2. AEロックボタンを押しながら前ダイヤルを回し、希望のシャッター速度と絞り値の組み合わせを選びます。

ファンクション設定

カメラ側面のファンクションダイヤルにより、ドライブモードやホワイトバランス等、撮影時の主な設定を変更することができます。



1. 撮影モード位置 で、ファンクションダイヤルを回して変更したい項目を選びます。

MSET	登録設定（新規）
CUST	カスタムポジション
◉	測光モード
DRIVE	ドライブモード
WB	ホワイトバランス
ISO	撮像感度

設定方法1（1つずつ操作する方法）

2. ファンクションボタンを押します。

3. 前ダイヤルを回して希望の設定（次ページ記載）を選びます。

4. 必要な場合は後ダイヤルを回して、希望の詳細設定（各ページ記載）を選びます。

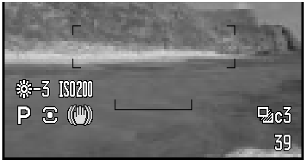
設定方法2（同時に操作する方法）

2. ファンクションボタンを押したまま前ダイヤルを回して、希望の設定（次ページ記載）を選びます。

3. 必要な場合はファンクションボタンを押したまま後ダイヤルを回して、希望の詳細設定（各ページ記載）を選びます。

- 設定後は、上面データパネルと液晶モニター／ファインダー内に、変更された設定が表示されます。





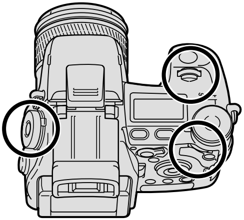
ﾀﾞｲﾔﾙ	項目	上面ﾃﾞｰﾀﾊﾟﾈﾙ	ﾌｧｲﾝﾀﾞｰ・ﾓﾆﾀｰ	設定
DRIVE	ドライブモード →P.66			○1コマ撮影
				ブラケット撮影
				連続撮影
		Int		インターバル撮影
				セルフタイマー撮影
WB	ホワイトバランス →P.77	WB	表示なし	○オート（自動設定）
				昼光
				白熱灯
				蛍光灯
				曇天
				日陰
				フラッシュ
				カスタムホワイトバランス
ISO	撮像感度 →P.82	表示なし	表示なし	○オート（自動設定）
		ISO	ISO 100	手動設定（ISO 100相当）
		ISO	ISO 200	手動設定（ISO 200相当）
		ISO	ISO 400	手動設定（ISO 400相当）
		ISO	ISO 800	手動設定（ISO 800相当）
	測光モード →P.83	表示なし		○多分割測光
				中央重点的平均測光
				スポット測光
CUST	カスタムポジション →P.179	（設定内容に応ずる）	（設定内容に応ずる）	画像サイズ
				画質
				フラッシュモード
				調光モード
				シャープネス
				○カラーモード
MSET	登録操作 →P.85	表示なし	1～5	1～5に登録する

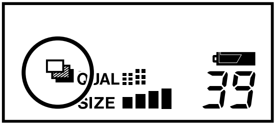
○印は初期設定値です。

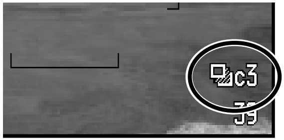
ホワイトバランスと撮像感度の自動設定は、撮影中は表示なしですが、設定中はAuto等と表示されます。

ドライブモード

連続撮影やセルフタイマーなど、シャッターの切れるタイミングを変更することができます。ファンクションボタンと前後ダイヤルで設定します。







<table>
<tr><th>前ダイヤルで設定</th><th>後ダイヤルで設定</th></tr>
<tr><td>1コマ撮影
シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。
初期設定は1コマ撮影です。</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ブラケット（ずらし）撮影
露出やコントラスト等をずらした撮影が簡単にできます。
→P.67</td><td>○ 連続露出ブラケット</td></tr>
<tr><td>1コマ露出ブラケット</td></tr>
<tr><td>デジタルエフェクトブラケット</td></tr>
<tr><td rowspan="2">連続撮影
シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。→P.70</td><td>○ 通常連続撮影（2.0コマ／秒）</td></tr>
<tr><td>Hi連続撮影（2.8コマ／秒）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Int インターバル撮影
一定時間ごとに自動的に撮影が行われます。→P.72</td><td>○ 静止画のみ</td></tr>
<tr><td>動画付きインターバル</td></tr>
<tr><td rowspan="2">セルフタイマー撮影
シャッターボタンを押してから一定時間後に撮影されます。
→P.75</td><td>○ 10秒セルフタイマー</td></tr>
<tr><td>2秒セルフタイマー</td></tr>
</table>

○印は初期設定値です。

ブラケット（ずらし）撮影

露出や彩度等をずらした撮影が簡単にできます。以下の3種類のブラケット撮影が可能です。

連続露出ブラケット：　シャッターボタンを押し続けている間、連続して露出をずらした撮影ができます。

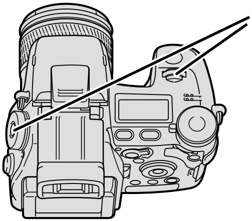
1コマ露出ブラケット：　1コマずつシャッターボタンを押して、露出をずらした撮影を行ないます。

デジタルエフェクトブラケット：デジタルエフェクトレバーで選択されている効果（コントラスト・彩度・フィルター）を自動的にずらした写真ができます。

連続露出ブラケット

シャッターボタンを押し続けている間、連続して露出をずらした撮影ができます。

● フラッシュ発光時は、連続でなく1枚ずつの撮影（1コマ露出ブラケット）となります。

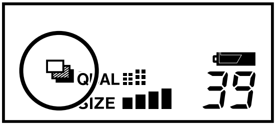


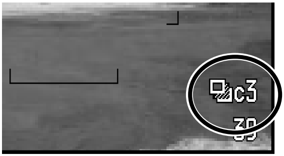
1. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルでブラケット撮影を選びます。

● 1コマ露出ブラケットを表すSや、デジタルエフェクトブラケットを表すCnt、COL、FILが表示されている場合は、後ダイヤルで消してください。

● 液晶モニター／ファインダーには、の横に連続を表すC*と、ブラケットの残り枚数を表す3が表示されます。

*C ＝ Continuousの略





2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

● 初期設定では0段、－0.3段、＋0.3段の順に3枚撮影されます。段数を0.5段に変更することも可能です。→P.118

● 基準値（0）は、1枚目を撮影するときに固定されます。あらかじめずらしておくことも可能です。

● フラッシュ発光時は、1コマずつシャッターボタンを押して撮影してください。

● 途中で指を離すとブラケット撮影は終了します。

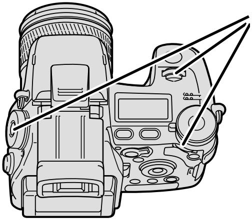
次ページへ続く

露出ブラケット時の注意（連続／1コマとも）

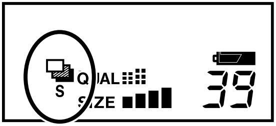
- 撮影中にカードの空きがなくなると、その後の撮影はされずにブラケット撮影は途中で終了します。
- フラッシュが発光する場合はフラッシュの光量が変化してブラケットを行ないます。Mモードでは、通常はシャッター速度が変化しますが、露出補正ボタンを押しながら撮影すると絞り値が変化します。

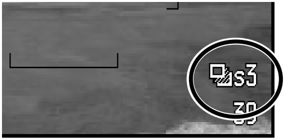
1コマ露出ブラケット

1コマずつシャッターボタンを押して、露出をずらした撮影を行ないます。



1. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルでブラケット撮影、後ダイヤルで1コマ露出ブラケット S を選びます。





- 液晶モニター／ファインダーには、の横に1コマを表すS*と、ブラケットの残り枚数を表す3が表示されます。
  *S ＝ Singleの略

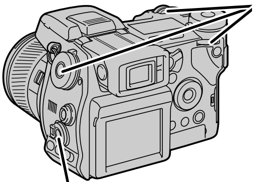
2. シャッターボタンを1コマずつ押して撮影します。

- 基準値（0）は、1枚目を撮影するときに固定されます。あらかじめずらしておくことも可能です。

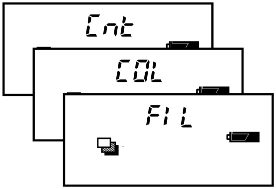
その他の注意は連続露出ブラケットと同じです。

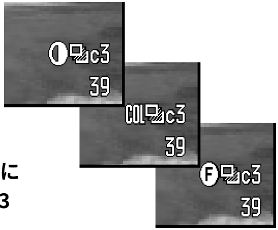
デジタルエフェクトブラケット

デジタルエフェクトレバーで選択されている効果（コントラスト・彩度・フィルター）を自動的にずらした写真ができます。

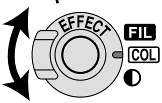


1. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルでブラケット撮影、後ダイヤルでデジタルエフェクトブラケットを選びます。





- 上面データパネルと液晶モニター／ファインダーに、以下のいずれかの文字を表示させます。
  - Cnt ◐ ：コントラストブラケット
  - COL COL ：彩度ブラケット
  - FIL Ⓕ ：フィルターブラケット
- 液晶モニター／ファインダーには、の横にCまたはSと、ブラケットの残り枚数を表す3が表示されます。



2. デジタルエフェクトレバーで、ブラケット撮影を行ないたい項目を選びます。

3. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- 0、－1、＋1の順に3枚撮影されます。
- フラッシュが発光する場合は、1コマずつ撮影してください。
- 基準値（0）はあらかじめずらしておくことも可能です。

- 撮影中にカードの空きがなくなると、その後の撮影はされずにブラケット撮影は途中で終了します。
- 各項目の詳細については、コントラスト P.89、彩度 P.90、フィルター効果 P.90をご覧ください。

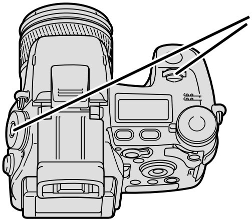
連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影できます。通常の連続撮影では毎秒約2.0コマ、Hi連続撮影では毎秒約2.8コマの速度で撮影されます。

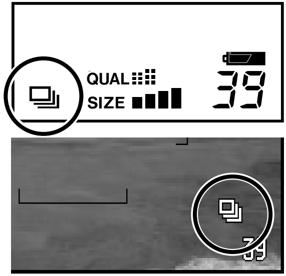
連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約2.0コマの速度で連続3枚まで撮影されます。連続撮影中も液晶モニター／ファインダーで被写体を確認することができます。

- 3枚撮影後もシャッターボタンを押し続けていると、約2秒後に再び3枚撮影されます。
- 画質をRAWに設定すると、連続5枚までの撮影が可能になります。→P.104



1. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルで連続撮影を選びます。
   - Hi連続撮影を表す Hi や が表示されている場合は、後ダイヤルで消してください。
2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

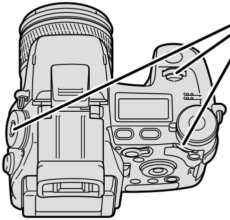


- 内蔵フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- ピントと露出は1コマ目で固定されます。オートフォーカスモードをコンティニュアスAF（AF-C）に変更すると、1コマごとにピントと露出が変わります。→P.93
- 撮影直後は、カメラの内蔵メモリ容量の関係上、撮影残り画像数が黄色になって撮影できない場合があります。白色に戻るのを待ってから撮影を続けてください。

Hi連続撮影

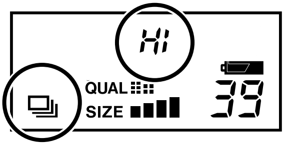
シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約2.8コマ（画像サイズ2560×1920設定時）の速度で連続3枚まで撮影されます。連続撮影中は液晶モニター／ファインダーの画像は固定されます。

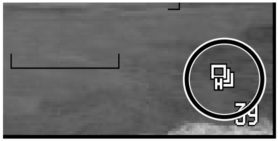
- 3枚撮影後もシャッターボタンを押し続けていると、約2秒後に再び3枚撮影されます。
- 画質をRAWに設定すると、連続5枚までの撮影が可能になります。→P.104
- 画像サイズを2560×1920以外に設定すると、連続撮影の速度はやや遅くなります。



1. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルで連続撮影、後ダイヤルでHi連続撮影を選びます。

2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。





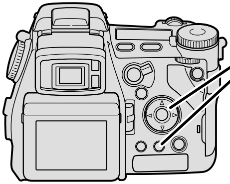
- 内蔵フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- ピントと露出は常に1コマ目で固定されます。
- 撮影直後は、カメラの内蔵メモリ容量の関係上、撮影残り画像数が黄色になって撮影できない場合があります。白色に戻るのを待ってから撮影を続けてください。

インターバル撮影

一定時間ごとに自動的に撮影が行われます。撮影間隔は30秒〜60分、撮影枚数は2〜240枚、開始時刻は0〜24時間後の中から選ぶことができます。花が開いていく様子の撮影など、定点観測に便利です。動画を同時に作成することもできます。

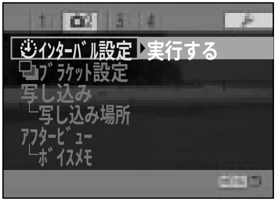
静止画のみ

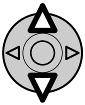
動画なしの、通常の静止画のみのインターバル撮影が行われます。



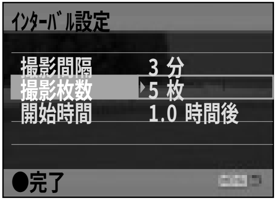
間隔・枚数・開始時間の設定

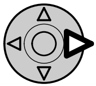
1. P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 2」→「インターバル設定」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

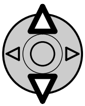




2. 十字キーの上下で設定したい項目（撮影間隔・枚数・開始時間）を選びます。

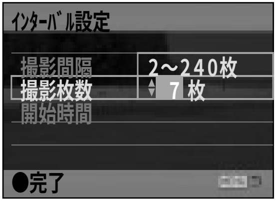


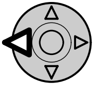




3. 十字キー右側→上下で数値を選択します。

- 以下の範囲内で設定することができます。
  撮影間隔：30秒、1〜10、15、20、30、45、60分
  撮影枚数：2〜240枚
  撮影開始時間：0〜24時間後（30分刻み）
- 十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。





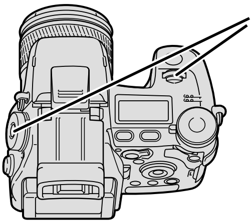
4. 最初の項目の設定が終われば、十字キー左側で2の状態に戻ります。

5. 2～4の要領で必要な設定をすべて行ないます。

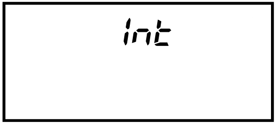
6. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

7. メニューボタンを押してメニュー画面を終了させます。

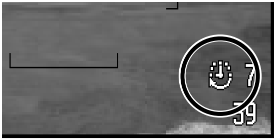
インターバル撮影を行なう



8. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルでインターバル撮影 Int ⏱ を選びます。

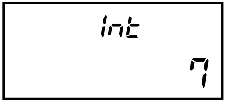


- 動画付きインターバルを表す Int＋や⏱ が表示されている場合は、後ダイヤルで消してください。
- 液晶モニター／ファインダーには、⏱ の横に撮影枚数が表示されます。



9. ピントが合っているのを確認し、シャッターボタンを押してインターバル撮影を開始します。

- 設定した撮影開始時間後に1枚目の撮影が行われます。撮影開始時間を「今から」（0時間）にしていると、シャッターボタンを押すと同時に1枚目の撮影が行われます。その後は設定された撮影間隔ごとに撮影が行われ、設定された枚数分が終わると撮影は終了します。
- インターバル中は、上面データパネルには Int とインターバルの残り枚数が表示されます。液晶モニター／ファインダーは消灯します。



- 各撮影の直前に、オートフォーカスの作動やフラッシュ充電など撮影に必要な準備が始まります。
- 撮影間隔・枚数・開始時間を変更しない場合、次回からは8、9の操作のみでインターバル撮影ができます。
- インターバル中にメインスイッチまたはシャッターボタンを押したり、カードの空きがなくなったりすると、インターバルは途中で終了します。
- 撮影が長時間になるとき、枚数が多いとき、フラッシュ撮影を行なう場合は、ACアダプターの使用をおすすめします。
- カードの種類や撮影条件等により、撮影間隔は若干変動することがあります。
- AEロックボタン（P.96）は、インターバル撮影2コマ目以降は機能しません。メニューで「再押し」（P.116）を選択していても同様です。

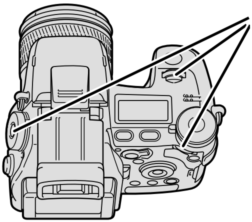
動画付きインターバル

インターバル撮影で、通常の静止画像に加え、動画（画像サイズ640×480）も同時に作成することができます。再生時には1秒間に4コマの速度で再生されます。花の開花など、ゆっくり変化するものを時間を短縮して見るのに便利です。

間隔・枚数・開始時間の設定

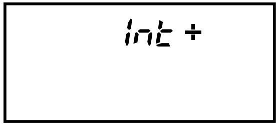
1. P.72の静止画のみのインターバル撮影1～7の要領で、撮影間隔・枚数・開始時間を設定します。

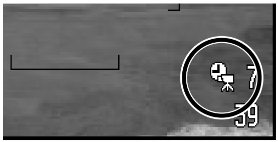
インターバル撮影を行なう



2. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルでインターバル撮影 int 、後ダイヤルで動画付きインターバル int ÷ を選びます。

● 液晶モニター／ファインダーには、 と撮影枚数が表示されます。





3. シャッターボタンを押して撮影します。

● 音声は記録されません。

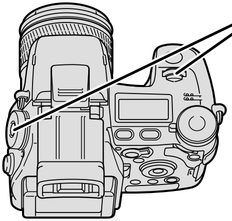
※インターバルで撮影した動画の再生について →P.167

セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから10秒後または2秒後に撮影されます。

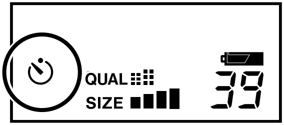
10秒セルフタイマー

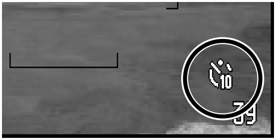
シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。



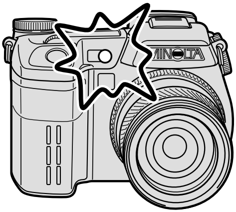
1. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルでセルフタイマー撮影 ⏲ を選びます。

- 2秒セルフタイマーを表す2や ⏲2が表示されている場合は、後ダイヤルで消してください。





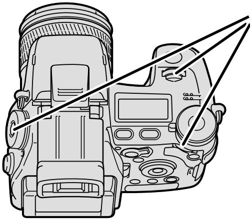
2. 被写体にピントが合っているのを確認してから、シャッターボタンを押します。



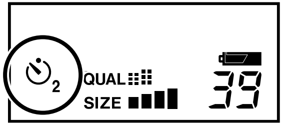
- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- セルフタイマー作動中は、ランプと同様に音でもお知らせします。
- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、メニューボタンまたはファンクションボタンを押してください。

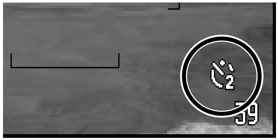
2秒セルフタイマー

シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影されます。シャッターボタンを押す際のカメラぶれを和らげるのに便利です。



1. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルでセルフタイマー撮影 、後ダイヤルで2秒セルフタイマー 2を選びます。
2. シャッターボタンを押して撮影します。





- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが作動します。ランプと同様に音でもお知らせします。
- 撮影後もセルフタイマーは解除されません。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、メニューボタンまたはファンクションボタンを押してください。

ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽくなったりします。これが白くなるように調整するのがホワイトバランスです。オートにすると自動的に調整されますが、光源を選択したり（プリセット）、ご自分で最適な値をカメラに記憶させたり（カスタム）することもできます。

オートホワイトバランス

ホワイトバランスは自動的に調整されます。初期設定はオートホワイトバランスです。

P.64の要領で、ホワイトバランスWB選択後、前ダイヤルでオートホワイトバランス（AutoまたはAWB*）を選びます。





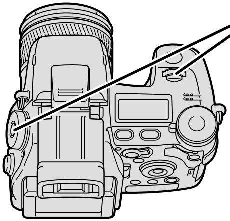
- オートホワイトバランス設定中は、上面データパネルにAuto、液晶モニター／ファインダーにAWBの文字が現れますが、撮影中の表示はありません。

  *AWB ＝ Auto White Balance（オートホワイトバランス）の略。

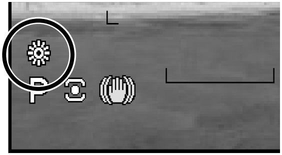
次ページへ続く

プリセットホワイトバランス

被写体を照射している光源を選ぶことができます。オートで思うような色が出ないときにお使いください。



P.64の要領で、ホワイトバランスWB選択後、前ダイヤルで光源を選びます。



液晶モニター ファインダー	上面データパネル （設定中のみ）	
	dAY (daylight)	昼光（晴れた明るい屋外）
	tun9 (tungsten)	白熱灯（タングステン光）
	FLor (fluorescent)	蛍光灯
	CLud (cloudy)	曇天（曇った屋外）
	SHAd (shade)	日陰（晴れた明るい屋外の日陰）
	FLSH (flash)	フラッシュ

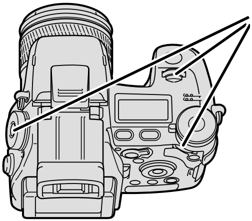
● 設定後、液晶モニター／ファインダーには選んだホワイトバランスが、上面データパネルにはWBが表示されます。



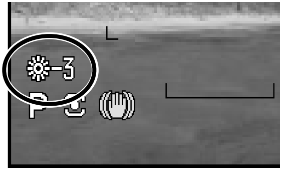
● 水銀灯やナトリウムランプの場合、光源の特性上それらだけでは正確なホワイトバランスは得られません。フラッシュの使用をおすすめします。

プリセットホワイトバランスの微調整

プリセットホワイトバランスの選択後、より実物の色に近づけるよう、－3～＋3の範囲で微調整を行なうことができます。蛍光灯の場合はその種類を選ぶことができます。



プリセットホワイトバランス選択後、P.64の要領で後ダイヤルで微調整を行ないます。



- ＋側にするほど色温度が上がり、被写体が赤っぽく写ります。－側にするほど色温度が下がり、青白く写ります。
- 蛍光灯設定時に上記の操作を行なった場合は、微調整でなく、以下の通り蛍光灯の種類を選ぶことになります。＋側ほど赤っぽく、－側ほど青白く写ります。

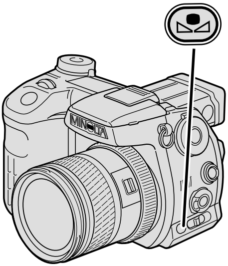
－2	蛍光灯（三波長電球色）	＋2	昼白色蛍光灯（三波長）
－1	温白色蛍光灯（三波長）	＋3	昼光色蛍光灯（三波長）
0	白色蛍光灯	＋4	昼光色蛍光灯
＋1	昼白色蛍光灯		

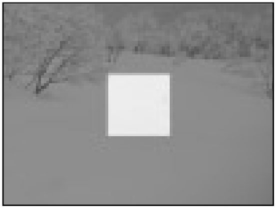
カスタムホワイトバランス

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。カスタム1～カスタム3の3つまでをカメラに登録させることができます。

● P.85の登録機能とは関係ありません。

カスタムホワイトバランス値を登録する



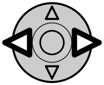


1.白く写したいものを画面中央に配置して、カスタムホワイトバランスボタンを押し続けます。

● あらかじめカスタムホワイトバランスを設定しておく必要はありません。

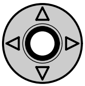
● ボタンを押すと同時に、白く写る部分が画面中央に表示されます。枠の中が白く覆われるようにしてください。

● 約1秒後にシャッターの切れる音がして、カスタムホワイトバランス値がカメラに仮登録されます。





2.十字キー左右または前後ダイヤルのいずれかで、登録先の番号（1～3）を選びます。



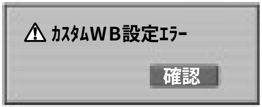
3.十字キー中央の実行ボタンを押して、仮登録した値を登録します。

● 登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影画面に戻ります。

● メニューボタンを押すと登録されません。

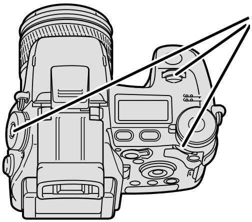
● 「カスタムWB設定エラー」が出たときは →次ページ

- この操作で登録されたカスタムホワイトバランス値は、次に同じ操作で同じ番号に別の値が登録されるまで有効です（メインスイッチを切ってもキャンセルされません）。
- 仮登録する時（シャッターの切れる音がした時）にフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。実際の撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。

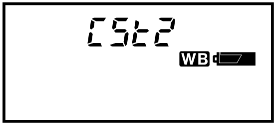


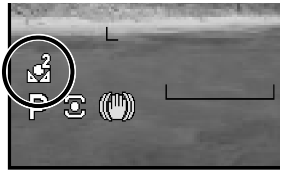
- 左のメッセージが表示されたときは、登録しようとしている値が想定外であることを表します（近距離でフラッシュを発光させた場合や、鮮やかな色の被写体に向けた場合など）。十字キー中央の実行ボタンを押してメッセージを消してください。その後その値を登録した場合、液晶モニター／ファインダー内の と数字が黄色になります。この状態でも撮影はできますが、より正確なホワイトバランスを得るには、再度設定し直すことをおすすめします。またエラーを起こりにくくするには、A／S／MモードよりもPモードをおすすめします。

記憶させたカスタムホワイトバランス値を呼び出す



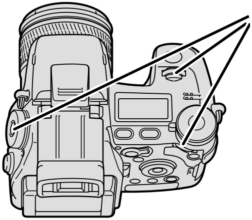
P.64の要領で、ホワイトバランスWBを選択後、前ダイヤルでカスタムホワイトバランス、後ダイヤルで記憶先の番号を選びます。





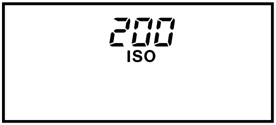
撮像感度

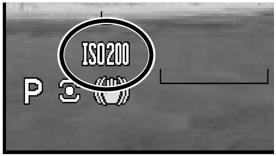
撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。オートに設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには、感度を上げると有効ですが、画像が粗くなります。



P.64の要領で、撮像感度ISOを選択後、前ダイヤルまたは後ダイヤルで希望の数値を選びます。

- 初期設定はオート（自動設定）です。
- 感度は以下の範囲から選ぶことができます。
  オート（Auto）、ISO 100、200、400、800





- オートの場合、設定中はAutoの文字が現れますが、撮影中の表示はありません。撮像感度はISO 100～200の範囲で自動的に設定されます。Mモード時にはISO 100で固定されます。
- オート以外を設定した場合は、上面データパネルにISOの文字が、液晶モニター／ファインダー内にはISOと数値が表示されます。

撮像感度を変更すると、内蔵フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）は左図の通りになります。

撮像感度（フィルム換算値）	内蔵フラッシュの調光距離	
	広角側	望遠側
オート	0.5～3.8m	0.5～3.0m
ISO 100	0.5～2.7m	0.5～2.1m
ISO 200	0.5～3.8m	0.5～3.0m
ISO 400	0.5～5.4m	0.5～4.2m
ISO 800	0.5～7.6m	0.5～6.0m

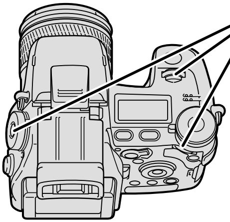
シャッター速度と撮像感度の関係

暗い場面でフラッシュを使わずに撮影する場合、絞りを開ける（絞り値を小さくする）、シャッター速度を遅くする（P.60）、撮像感度を上げるという方法があります。高撮像感度で長秒時撮影を行なうとノイズが目立ちやすくなるため、可能な場合は撮像感度を上げずに絞り値とシャッター速度で調整することをおすすめします。例えばISO 800・4秒で撮影するよりは、ISO 200・15秒で撮影したほうがよりノイズの少ない画像を得ることができます。

測光モード

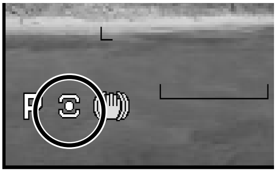
測光モード（カメラが被写体の明るさを測る方法）を以下の3つの中から選ぶことができます。

多分割測光：	画面を細かく分割して測光します。
中央重点的平均測光：	画面の中央部に重点を置きながら、全体の明るさを平均的に測光します。
スポット測光	中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行ないます。



P.64の要領で、測光モード を選択後、前ダイヤルまたは後ダイヤルで希望の設定を選びます。

- 液晶モニター／ファインダー内に選んだ測光モードが表示されます。
- シーンセレクター選択中は、測光モードを選ぶことはできません。



- AEロックボタンにより、各測光モードで測った測光値（シャッター速度と絞り値）を一時的に固定することができます。→P.96

次ページへ続く

多分割測光

CCDを細かく分割（300分割）して測光を行ないます。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確に把握します。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光です。

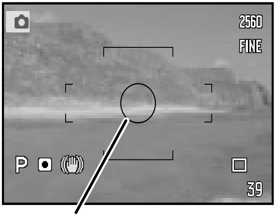
- 多分割測光では、シャッターボタン半押しでピントが固定されると、同時に露出（シャッター速度と絞り値）も固定されます（オートフォーカス、ワンショットAF時のみ）。

中央重点的平均測光

画面の中央部に重点を置きながら、画面全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や被写体が画面中央にない場合などは、露出補正が必要になります。→P.52

スポット測光

画面中央部にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみで測光を行ないます。コントラストの大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。測光したい部分が画面中央にないときは、AEロックボタンを使用して測光値を固定してください（P.96）。フレックスフォーカスポイントとスポット測光サークルとを連動させて動かすこともできます（P.137）。



スポット測光サークル

登録

最もよく使うモードや数値設定等の組み合わせを、5通りまでカメラに登録して、必要に応じて呼び出すことができます。同条件下での撮影を頻繁に行なうときに便利です。
登録機能を使うと、以下の設定すべてが自動的にカメラに登録されます。一部だけの登録はできません。また、以下に記載されている設定以外の登録もできません。

登録できる項目	ページ	補足
画面表示	45	画面内の表示、フォーカシングスクリーンの両方が登録されます。
露出補正・調光補正	52	—
露出モード	57	Aモードでは絞り値が、Sモードではシャッター速度が、Mモードでは絞り値とシャッター速度が同時に登録されます。シーンセレクター、プログラムシフト、マニュアルシフト、プログラムドマニュアルは登録できません。
ドライブモード	66	ブラケット撮影：　ブラケットの種類（連続／1コマ／デジタルエフェクト）と、段数が同時に登録されます。 連続撮影：　連続撮影の種類（通常／Hi）が同時に登録されます。 インターバル撮影：動画の有無、撮影間隔、枚数、開始時間が同時に登録されます。 セルフタイマー：　秒数が同時に登録されます。
ホワイトバランス	77	プリセットホワイトバランスの微調整値とカスタムホワイトバランス値も同時に登録されます。
撮像感度	82	—
測光モード	83	—
コントラスト補正	89	—
彩度補正	90	—
フィルター効果	90	カラーフィルターとモノクロフィルターはそれぞれ別に登録できます。
フォーカスフレーム	91	フレックスフォーカスポイントの場合、画面内のピント位置も同時に登録されます。
画像サイズ	102	—
画質	104	—
フラッシュモード	108	ワイヤレスフラッシュのチャンネルは登録されません。
調光モード	114	内蔵マニュアル発光の発光量も同時に登録されます。
カラーモード	126	—
シャープネス	129	—



登録1〜5

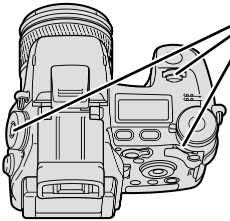
このカメラでは5通りまでの登録が可能です。例えば、1には人物を撮るためのポートレート用の登録、2にはスポーツシーン用の登録、などと使い分けることができます。

初期設定では、1〜5いずれもフルオートの状態が登録されています。登録機能を使う場合は、以下の方法で任意の設定を登録してください。

- 1〜5のすべてに登録する必要はありません。登録機能を使わない場合、１つも登録しなくても差し支えありません。
- 登録された内容は、カメラの電源を切っても電池を抜いても保持されています。設定値リセット（P.188）でフルオートに戻ります。
- フォーカスモードレバー（AF-S／AF-C／MF）等、レバーの位置で設定が決まってしまう機能は登録できません。

新しい設定を登録する

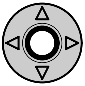
1. 撮影モード位置で、前ページの項目すべてを登録したい状態に設定します。



2. P.64の要領で、登録設定MSET（=Memory Set）を選択後、十字キー左右、前ダイヤル、後ダイヤルのいずれかで登録先の番号を選びます。



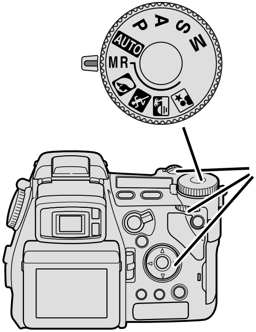
- 液晶モニター／ファインダーには、これから登録しようとしている登録内容一覧が表示されます。
- メニューボタンを押すと、登録されずに元の撮影モードに戻ります。



3.十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 設定が登録されます。

登録を呼び出す



1.撮影モードダイヤルを登録呼び出しMR（＝Memory Recall）に合わせます。

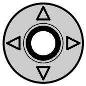
● 最後に呼び出した登録番号が呼び出されます（初期設定では登録1）。登録番号を変更しないときは、このまま撮影できます。

2.十字キー左右、前ダイヤル、後ダイヤルのいずれかで呼び出したい番号を選びます。

● 番号を選ぶと、その番号の登録内容一覧が表示されます。

● 呼び出しを中止するときは、撮影モードダイヤルをMR以外に合わせてください。





3.十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 設定が呼び出されます。

● 登録を呼び出した後、そこからさらに設定の変更を加えることができます。変更を加えた後、前ページの要領で再度それを登録することもできます。改めて登録しない限り、新たに加えた変更が登録されることはありません。

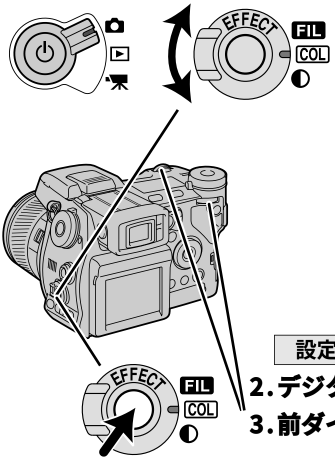
● 続けて別の登録を呼び出す場合は、撮影モードダイヤルを一度MR以外に変えてから、再度MRに合わせてください。

● デジタルエフェクトブラケットを登録した場合、呼び出す際にデジタルエフェクトレバーでブラケット撮影したい項目（コントラスト、彩度、フィルター効果）を選んでください。これらのレバーの位置を登録することはできません。

● 登録の呼び出しを頻繁に行なう場合は、撮影モードダイヤルに直接登録1～5を割り当てることができます。→P.134

デジタルエフェクトコントロール

カメラ側面のデジタルエフェクトレバーにより、コントラスト補正、彩度補正、フィルター効果の設定を変更することができます。



1. 撮影モード位置 で、デジタルエフェクトレバーを回して変更したい項目を選びます。

◐ コントラスト補正

コントラスト（明暗差）を調整します。→P.89

COL 彩度補正

彩度（色の鮮やかさ）を調整します。→P.90

FIL フィルター効果

赤や青のフィルターをかけたような効果を出します。→P.90

設定方法1（1つずつ操作する方法）

2. デジタルエフェクトボタンを押します。

3. 前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、希望の設定を選びます。

設定方法2（同時に操作する方法）

2. デジタルエフェクトボタンを押したまま前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、希望の設定を選びます。

- 設定後は、上面データパネルに EFFECT が、液晶モニター／ファインダー内に、変更された設定が表示されます。





コントラスト補正

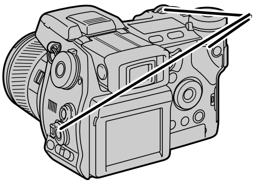
コントラスト（明暗差）を調整します。－5〜＋5の11段階から選択することができます。
＋側にするとコントラストが強くなります。メリハリの効いたくっきりした画像になります。
－側にするとコントラストが弱くなります。白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。



コントラスト
強

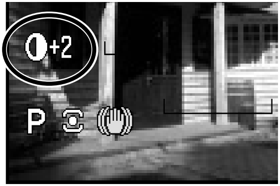


コントラスト
弱



P.88の要領で、コントラスト補正◐から希望の数値を選びます。

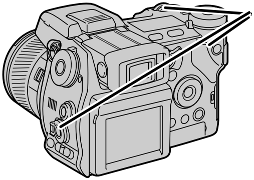
- 0以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーに◐と数値が表示されます。



- 画質でファインやスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

彩度補正

彩度（色の鮮やかさ）を調整します。－5～＋5の11段階から選択することができます。
＋側にすると彩度が強くなります。鮮やかなくっきりした画像になります。
－側にすると彩度が弱くなります。落ち着いた画像になります。



P.88の要領で、彩度補正COLから希望の数値を選びます。

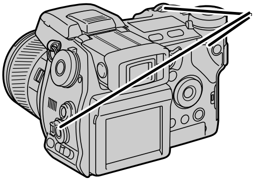
- 0以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーにCOLと数値が表示されます。



- 画質でファインやスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

フィルター効果

カラー画像の場合、画面に赤や青の色フィルターをかけたような効果を出します。－5～＋5の11段階から選択することができます。＋側にするほど赤みが、－側にするほど青みが増します。
モノクロ画像の場合は色調を選ぶことができます。11種類の中から選ぶことができます。
※カラーモードの設定 →P.126、カラー写真参照 →P.2



P.88の要領で、フィルター効果FILから希望の数値を選びます。

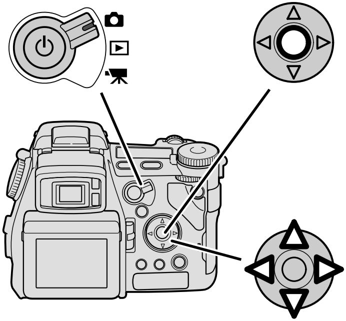
- 0以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーにⒻと数値が表示されます。



画面内の任意の位置にピントを合わせる（フレックスフォーカスポイント）

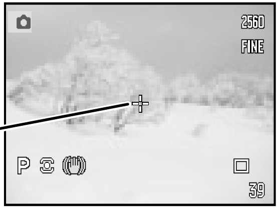
画面内でピントの位置を自由に決めることができます（フレックスフォーカスポイント、FFP）。

FFP ＝ Flex Focus Point（フレックスフォーカスポイント）の略



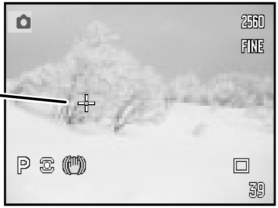
1. 撮影モード位置で、十字キー中央の実行ボタンを押し続けます。

- **液晶モニター／ファインダー内に＋が表示されます。**



2. 十字キーの上下左右でピントを合わせたい位置を選びます。

3. シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。



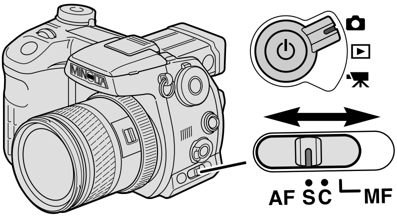
- **ピントが合うと、白い＋が一瞬赤い［+］に変わります。**
- **2の状態で十字キー中央の実行ボタンを押すと、ピント位置が中央に戻ります。実行ボタンを押し続けると、元のワイドフォーカスフレーム［ ］に戻ります。**
- **フレックスフォーカスポイントにすると、シャッターボタンを押さなくても、カメラを構えると自動的にピント合わせが開始されます（フルタイムAF、P.192）。この機能を解除することもできます。**
- **デジタルズーム（P.55）時には、＋の位置を移動させることはできません。**
- **スポット測光（P.83）時に、＋と一緒にスポット測光サークルを移動させることもできます。→P.137**

フォーカスモード

このカメラには、2種類のオートフォーカスモードとマニュアルフォーカスモードがあり、撮影者の意図や使い方に応じて切り替えることができます。

AF*-S	ワンショットAF	シャッターボタン半押しでピントが固定されます。
AF-C	コンティニュアスAF	シャッターボタンを半押ししている間、ピントが動き続けます。
MF**	マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせます。

*AF = Autofocus（オートフォーカス）の略
**MF = Manual focus（マニュアルフォーカス）の略



撮影モード位置 📷 で、フォーカスモードレバーで希望の設定を選びます。

● フォーカスモードを登録（P.85）することはできません。

オートフォーカスモード

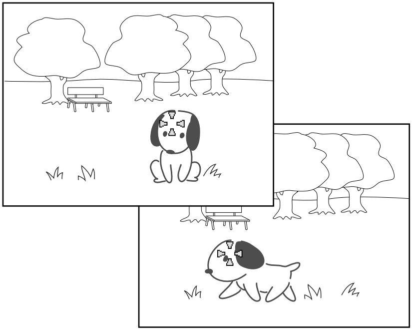
シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われます。

ワンショットAF（AF-S）

シャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われ、ピントが合うとピント位置はそこで固定されます。静止している被写体の撮影に適しています。

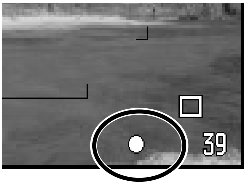
コンティニュアスAF（AF-C）

シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続けます。動いている被写体の撮影に便利です。



- **ワイドフォーカスフレーム［ ］は使えず、ピント位置は常に で表されます。**
- **コンティニュアスAFにすると、シャッターボタンを押さなくても、カメラを構えると自動的にピント合わせが開始されます（フルタイムAF、P.192）。また、被写体の動きに合わせて自動的に画面内のピント位置 も移動します（自動追尾AF、P.135）。これらの機能を解除することもできます。**
- **コンティニュアスAFでも、激しく動く被写体にはピントを合わせることができません。**

フォーカス表示

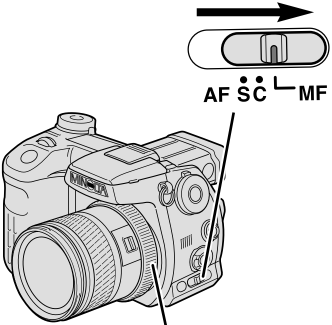


コンティニュアスAFにすると、液晶モニター／ファインダー内のフォーカス表示が変わります。シャッターボタン半押しで表示されます。

ワンショットAF	○ 白色	ピントが合って固定されています。
	● 赤色	ピントが合っていません。
コンティニュアスAF	((○)) 白色	ピントが合っています。 被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
	● 赤色	ピントが合っていません。

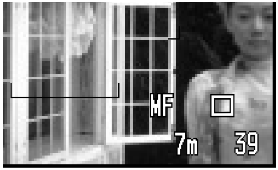
マニュアルフォーカスモード

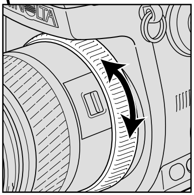
オートフォーカスを使わずに、被写体までの距離を自由に設定することができます。



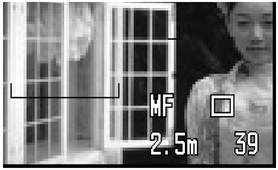
1. 撮影モード位置📷で、フォーカスモードレバーでMFを選びます。

● 液晶モニター／ファインダー内に、MFと現在のピント位置までの距離が目安として表示されます。∞は無限遠を表します。





2. 被写体が最もはっきり見えるように、フォーカスリングを回します。

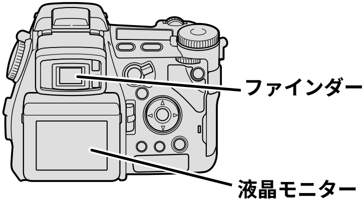


● 表示される距離はCCD（撮像素子）からの距離の目安です。ピントの調整は画像を見ながら行なってください。※CCDの位置について →P.50

● ピントの状態が見えにくい場合は、拡大ボタンの機能を変更した後、その拡大ボタンを押すことにより一時的に中央部を2倍または8倍に拡大して、ピントの状態を見やすくすることもできます。→マニュアルフォーカス時のピント確認、P.132

● 暗い中での撮影などピントの確認が難しい状況では、確認しやすい同等の距離の被写体にピントを合わせた後、構図を変えて撮影することをおすすめします。

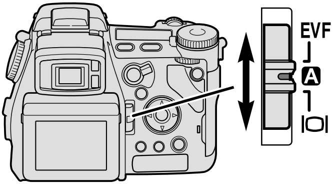
液晶モニターとファインダー（EVF）



撮影される画像は、カメラ背面の液晶モニターまたは電子ビューファインダー（EVF*、以下ファインダー）に表示されます。両者の表示内容は同じです。
初期設定ではファインダーをのぞけばファインダーが点灯し、ファインダーから目を離せば液晶モニターが点灯します。

*EVF = Electronic Viewfinder（電子ビューファインダー）の略

液晶モニターとファインダー（EVF）の切り替え



ディスプレイ切り替えレバーで、画像の表示場所を選ぶことができます。

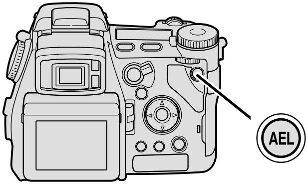
EVF　ファインダーにのみ表示
A　自動切り替え
ファインダーをのぞいているときはファインダーに表示、のぞいていないときは液晶モニターに表示
|□|　液晶モニターにのみ表示

- ファインダーをのぞいているかいないかの判別は、ファインダー横のアイセンサーによって行われます。
※アイセンサーとグリップセンサーについて →P.177
- 電池の消耗量を減らしたいときは、液晶モニターの表示をなくして、のぞいているときのみファインダーを点灯させる方法もあります。→P.176

露出を固定する（AEロック撮影）

AE*ロックボタンを押すと、その時の測光値（シャッター速度と絞り値）が固定されます。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合や、露出を一定に保ったまま連続撮影したい場合などに使用します。

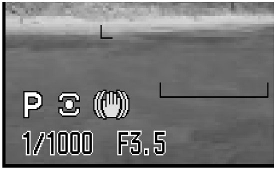
*AE = Auto exposure（自動露出）の略
AEL = Auto exposure lockの略



1. 測光したい状態にカメラを構えます。

- 多分割測光、中央重点的平均測光、スポット測光のいずれも使用可能です。

2. AEロックボタンを押します。

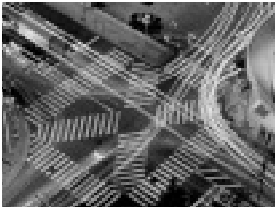


- 液晶モニター／ファインダー内のシャッター速度と絞り値が黒く反転し、ロック（固定）されていることをお知らせします。

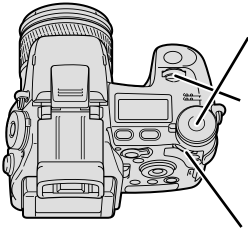
3. AEロックボタンを押したまま、必要なら構図を変え、シャッターボタンを押して撮影します。

- 撮影後もAEロックボタンを押し続けていると、同じ露出で連続して撮影できます。指を離すと解除されます。
- P／Aモードでのフラッシュ発光時は、AEロックと同時にスローシンクロ撮影（夜景ポートレートと似た効果）になります。
- AEロックボタンから指を離しても測光値が固定されたままになるように(押し続けなくてもいいように)することができます。→P.116
- どの測光モードを選択していても、AEロックボタンを押すと一時的にスポット測光で露出が固定される（スポットAEロック）ようにすることもできます。→P.116

バルブ（長時間露光）撮影



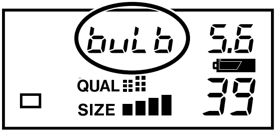
シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります（最長30秒）。カメラを三脚に取り付けて撮影してください。Mモードでのみ撮影可能です。→P.62



1.撮影モードダイヤルをMに合わせます。

※Mモードの詳細について →P.62

2.前ダイヤルを左に回して、bulbを選びます。

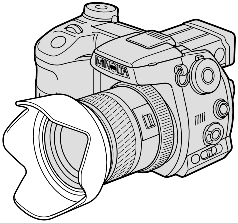


3.後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

4.必要な時間シャッターボタンを押し続けて撮影します。

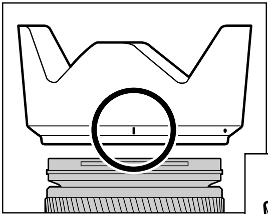
- カメラぶれを少なくするため、別売りのリモートコードの使用をおすすめします。→P.243
- バルブ撮影後は、ノイズ軽減処理のため、最長30秒間液晶モニター／ファインダーが消灯します（ノイズリダクション）。その間は撮影できません。※この機能を解除するには →P.130
- 高感度域で長秒時露光する場合は、画面内のノイズが一部強調されることがあります。※ノイズを減らすコツについて（シャッター速度と撮像感度の関係）→P.83

レンズフード

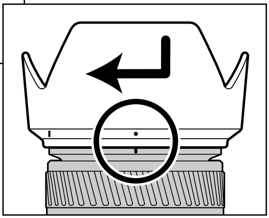


フラッシュを使わずに撮影する場合、特にレンズの広角側で逆光時に撮影する場合は、画面外にある光がレンズに入って描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。

● 内蔵フラッシュ使用時（P.40）にはフードは使わないでください。画面下部までフラッシュ光が届かなくなります。



1. フードの｜の部分を上にして、フードをレンズ先端に合わせます。

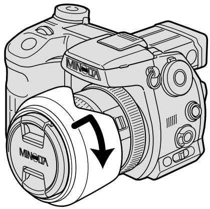


2. フードの●の部分が上に来るまで、フードを時計方向に回します。

● カチッと音がするまで回してしっかり固定してください。

フードは音がするまで回してしっかりと固定させてください。

中途位置のまま使用すると、フードの効果が出なかったり、画面の一部にフードが写り込むことがあります。

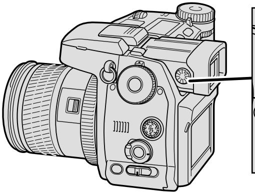
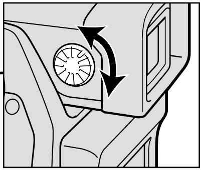


● フードを収納するときは逆向きに取り付けることができます（右図）。

視度調整

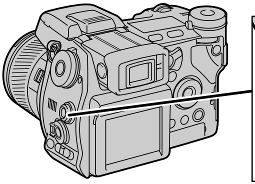
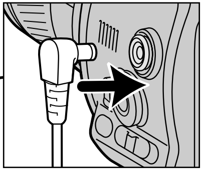
近視等によりファインダーの像がはっきりと見えないときは、視度を調整して見やすくすることができます。

● ファインダー（EVF）にのみ有効です。液晶モニターには影響しません。

ファインダーをのぞいて、表示されている数値等がはっきり見えるように視度調整ダイヤルを回します。

シンクロターミナル

このカメラにはシンクロターミナルが付いているので、シンクロコード付きフラッシュを使った撮影が可能です。

● 露出モードはMモードで、シャッター速度は1/125秒またはフラッシュ側の推奨する値のどちらか遅い方、またはそれより低速側に設定してください。

● 画面が暗くて被写体の確認が難しい場合には明るくすることができます。→P.131

● シンクロ電圧は400V以下でご使用ください。

● オートホワイトバランスはおすすめできません。より正確なホワイトバランスを得るには、カスタムホワイトバランスをお使いください。カスタムホワイトバランスの設定には、実際に撮影される照明条件と絞り値を用いて、色の偏りのないグレーの紙や板などをお使いください。反射率の高い白い紙や板では測定可能な光量を超え、「カスタムWB設定エラー」が出て正しく設定されない場合があります。

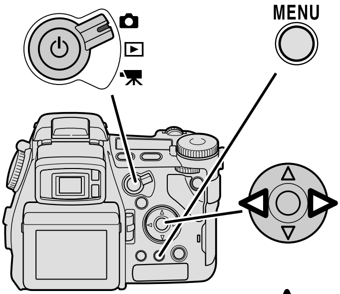
● シンクロコードをシンクロターミナルに接続するときは、コードと接続したフラッシュの電源をOFFにしてください。ONのままだと、コードを接続した瞬間にフラッシュが発光することがあります。

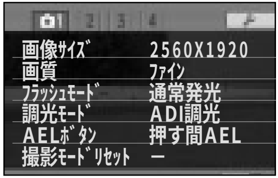
● フラッシュのシンクロ端子の極性が逆のタイプでもご使用になれます。

● 赤目軽減発光および後幕シンクロ撮影はできません。

撮影モードメニュー

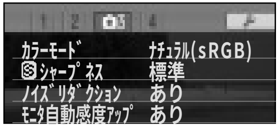
モード切り替えレバーが撮影モード位置 📷 にあるときにメニューボタンを押すと、次ページの設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。



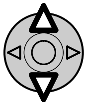


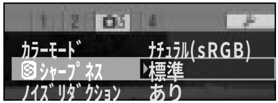
1. 撮影モード位置 📷 で、メニューボタンを押します。

- メニュー画面が現れます。

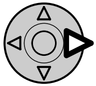


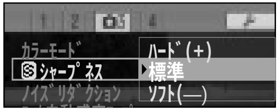
2. 十字キーの左右で、📷 1～4のいずれかを選びます。



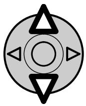


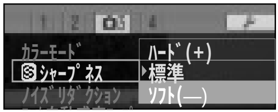
3. 十字キーの上下で、希望の項目を選びます。



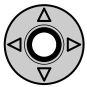


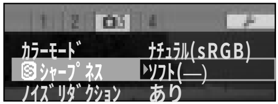
4. 十字キーの右側で、設定内容を表示させます。





5. 十字キーの上下で、希望の設定を選びます。





6. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。



7. メニューボタンを押して元の画面に戻ります。

- シャッターボタンの半押しでも戻ります。

- 設定中にメニューボタンを押すと、設定が中断され、撮影モードに戻ります。

📷1	
画像サイズ（P.102）	◯2560×1920 2080×1560 1600×1200 640×480
画質（P.104）	RAW TIFF エクストラファイン ◯ファイン スタンダード
フラッシュモード（P.108）	◯通常発光 赤目軽減発光 後幕シンクロ ワイヤレス
調光モード（P.114）	◯ADI 調光 P-TTL調光 内蔵マニュアル
AEロックボタン（P.116）	◯押す間AEL 再押しAEL 押す間スポットAEL 再押しスポットAEL
撮影モードリセット（P.117）	実行する

📷2	
インターバル設定（P.72）	実行する
ブラケット設定（P.118）	◯0.3段 0.5段
写し込み（P.119）	◯なし 年月日 月日時刻 文字 文字＋通し番号
写し込み場所（P.122）	◯画像上＋Exif Exifのみ
アフタービュー（P.123）	10秒 2秒 ◯なし
ボイスメモ（P.124）	あり ◯なし

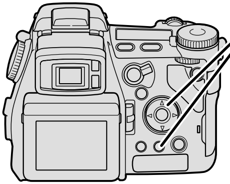
📷3	
カラーモード（P.126）	ビビッド（sRGB） ◯ナチュラル（sRGB） AdobeRGB AdobeRGB（ICC） モノクロ ソラリゼーション
シャープネス（P.129）	ハード（＋） ◯標準 ソフト（－）
ノイズリダクション（P.130）	◯あり なし
モニター自動感度アップ（P.130）	◯あり なし
Mモード時のモニター（P.131）	◯露出設定に従う 常に適正
拡大ボタン（P.132）	ピント確認（MF） ◯デジタルズーム

📷4	
シーンセレクター設定（P.134）	◯シーン選択 登録呼び出し
自動追尾AF（P.135）	◯あり なし
半押しAEロック（P.136）	◯標準 常にロック
スポット測光エリア（P.137）	◯中央固定 FFP連動
DMF（P.137）	あり ◯なし

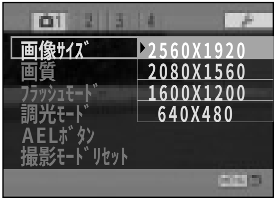
◯印は初期設定値です。

画像サイズ

画像の大きさを指定することができます。4通りの中から選ぶことができます。

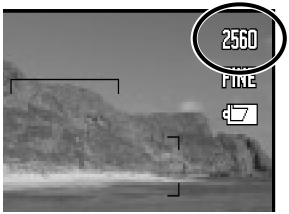


P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷1」→「画像サイズ」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



● 選んだ画像サイズは、上面データパネルでは棒グラフで、液晶モニター／ファインダーでは大きい方の数値で表示されます。
● 画質をRAWにする（P.104）と、画像サイズは2560×1920で固定されます。画像サイズは表示されません。
● 頻繁に画像サイズを変更する場合、撮影モードメニューに入らなくても、ファンクションボタンとダイヤルで画像サイズが変更できるようにすることができます。→カスタムポジション、P.179





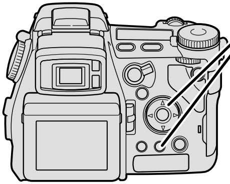
デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ2560×1920ピクセルの場合、画像は横に2560、縦に1920に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数（記録画素数）を表し、画素またはピクセル、ドットといった単位で表されます。大きくプリントする場合は画像サイズを大きく設定する必要がありますが、画像サイズを大きくすると1枚あたりのファイルサイズ（データ量）も大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。
このカメラでは、画像サイズを以下の4通りの中から選ぶことができます。

上面 データパネル	モニター ファインダー	画像サイズ （単位ﾋﾟｸｾﾙ）	説明
SIZE ■■■■	2560	2560×1920	このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする場合*におすすめします。約490万画素の画像が撮影できます。 *2L版（178×127mm)〜A4（297×210mm）程度
SIZE ■■■	2080	2080×1560	パソコンに取り込んで編集するときや、やや大きめにプリントする場合におすすめします。約320万画素の画像が撮影できます。
SIZE ■■	1600	1600×1200 (UXGA)	パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする場合**におすすめします。約190万画素の画像が撮影できます。 **L版（127×89mm)〜A5（210×148mm）程度
SIZE ■	640	640×480 (VGA)	1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

ここでいうプリントとは、印刷解像度150dpi〜300dpiの場合を指しています。
※画像サイズを変更した場合のファイルサイズと撮影画像数について →P.106

画質

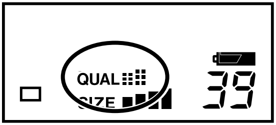
画像の圧縮率を指定することができます。5通りの中から選ぶことができます。



P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷1」→「画質」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



- 選んだ画像サイズは、上面データパネルでは棒グラフで、液晶モニター／ファインダーではアルファベットの短縮形で表示されます。
- 頻繁に画質を変更する場合、撮影モードメニューに入らなくても、ファンクションボタンとダイヤルで画質が変更できるようにすることができます。→カスタムポジション、P.179





画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ（次ページ）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。このカメラでは、初期設定（ファイン、FINE）で撮影するとJPEG形式で圧縮されます。高画質になるほど1枚あたりのファイルサイズも大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。
このカメラでは、画像サイズを以下の5通りの中から選ぶことができます。

上面 データパネル	モニター ファインダー	ファイル形式	説明
RAW QUAL	RAW	RAW （生データ）	より専門的な用途に合わせた加工を行なうための素材となる形式です。付属のディマージュビューアーCD-ROM内の DiMAGE Viewerで開くことができます。→詳細はP.107
QUAL	TIFF	TIFF （非圧縮）	画像が圧縮されずにTIFF形式で記録されます。パソコンに取り込んで編集する場合におすすめです。画質は最高ですがファイルサイズは大きくなるため、記録できる枚数が少なくなったり、カードへの記録にかかる時間が長くなったりします。
QUAL	エクストラ ファイン X.FIN	JPEG （圧縮率極小）	画像がJPEG（ジェイペグ）形式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。 JPEG形式で保存すると、圧縮率が大きいほど画質は劣化します。いったん劣化した画質を撮影後にパソコン等で戻すことはできませんので、特に後で画像の加工や編集を行なう場合、画質設定は慎重に行なってください。 一般的な目安は以下の通りです。 画像加工用：エクストラファイン プリント用（大伸ばし）：エクストラファイン、ファイン プリント用（L版〜2L版程度）：ファイン、スタンダード メール添付用：スタンダード
QUAL	ファイン FINE	JPEG （圧縮率小）	
QUAL	スタンダード STD.	JPEG （圧縮率中）	

※画質を変更した場合のファイルサイズと撮影画像数について →P.106

ファイルサイズと撮影画像数

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と、例として16MBの1枚のCFカードに記録できる撮影画像数は以下の通りです。（ボイスメモなし、RAW選択時は画像サイズは常に2560×1920）

● 下記の値は被写体によって異なるため、あくまでも目安とお考えください。

ファイルサイズ

	2560x1920	2080x1560	1600x1200	640x480
スタンダード	1,491KB	1,025KB	656KB	240KB
ファイン	2,520KB	1,704KB	1,058KB	320KB
エクストラファイン	4,920KB	3,289KB	1,995KB	420KB
TIFF	14,520KB	9,506KB	5,625KB	900KB
RAW	7,373KB	—	—	—
動画	522KB／秒			

16MB CFカード使用時の撮影画像数

	2560x1920	2080x1560	1600x1200	640x480
スタンダード	約10コマ	約14コマ	約23コマ	約63コマ
ファイン	約5コマ	約8コマ	約14コマ	約47コマ
エクストラファイン	約2コマ	約4コマ	約7コマ	約35コマ
TIFF	約1コマ	約1コマ	約2コマ	約15コマ
RAW	約2コマ	—	—	—
動画	約19秒			

RAWについて

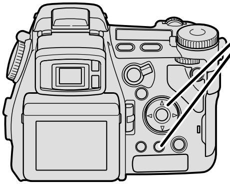
デジタルカメラでは、被写体の映像を受け取る部分、すなわち通常のカメラのフィルムにあたる役割を果たすのがCCD（撮像素子）です。そのCCDに記録された、デジタル処理等の加工をしていないそのままのデータがRAW（ロー）形式のファイルです。これはJPEGやTIFFのような一般的なファイル形式でなく、より専門的な用途に合わせた加工を行なうための素材となる形式です。このカメラで撮影したRAW画像はミノルタ規格のRAW画像であり、これを開くには付属のディマージュビューアーCD-ROM内の DiMAGE Viewer（ディマージュビューアー）※などが必要です。このソフトを使えば、RAWファイルを開いた後、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換することも可能です。

RAW形式の画像を撮影する際には、以下のような制限があります。

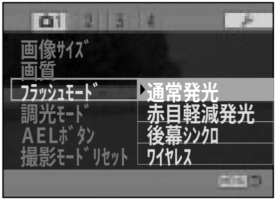
- 画像サイズの指定はできません。常に最大サイズ（2560×1920）になります。
- デジタルズーム、画像への写し込み、拡大再生、DPOF（プリント）指定はできません。
- ホワイトバランス、コントラスト補正、彩度補正、カラーフィルター効果、シャープネスについては、DiMAGE Viewerにて画像を表示させる際に再調整することができます。モノクロフィルターには対応していません。
- RAW画像にはJPEG等で行われている一般的な画像処理が加えられていないため、再生・クイックビュー・アフタービュー画面では色が正確に再現されません。データは正確に記録されているので、パソコン上では正しい色で再現されます。

フラッシュモード

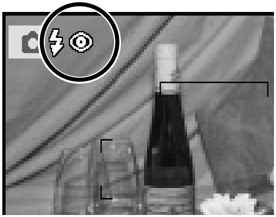
フラッシュモードを、通常発光、赤目軽減発光、後幕シンクロ、ワイヤレスフラッシュの中から選ぶことができます。



P.100の要領で、撮影モードメニュー →「1」→「フラッシュモード」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



- 内蔵フラッシュを上げていると、液晶モニター／ファインダーに、赤目軽減発光の場合は、後幕シンクロの場合はREAR、ワイヤレスフラッシュの場合はWLが、それぞれ表示されます。
- 頻繁にフラッシュモードを変更する場合、撮影モードメニューに入らなくても、ファンクションボタンとダイヤルで変更できるようにすることができます。→カスタムポジション、P.179



通常発光

内蔵フラッシュを上げていれば必ず発光します。初期設定は通常発光です。

👁 赤目軽減発光

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。赤目軽減発光では、撮影の直前に小光量のフラッシュが何回か発光し、この現象をやわらげることができます。

● 赤目軽減発光は内蔵フラッシュでのみ可能です（別売りのプログラムフラッシュでは目が赤く写ることはほとんどないため）。

REAR 後幕シンクロ


後幕シンクロ


通常発光

通常発光では、シャッターが開いた直後にフラッシュが発光し、その後にフラッシュ光以外で照らされた部分が写ります。よってシャッター速度が遅い場合には、光の流れなどが不自然に写ることがあります。
後幕シンクロでは、先にフラッシュ光以外で照らされた部分が写り、最後にフラッシュが発光します。動いている被写体を低速のシャッター速度でフラッシュ撮影するときに用いると、光の流れや被写体の軌跡をより自然に描写することができます。

ワイヤレスフラッシュ撮影



フラッシュをカメラに
取り付けて撮影（写真①）

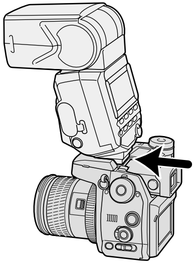


ワイヤレスフラッシュ撮影
（写真②）

ワイヤレスフラッシュ撮影には、別売りのプログラムフラッシュ5600HS（D）、3600HS（D）のいずれかが必要です。

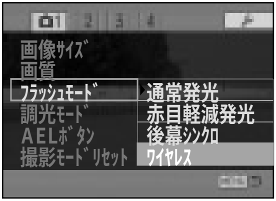
内蔵フラッシュで撮影したり別売りのフラッシュをカメラの上に取り付けて撮影すると、平面的な写真になることがあります（写真①）。このような場合にフラッシュをカメラから取り外して離して撮影すると（写真②）、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます。
一般的にこのような撮影をする場合はカメラとフラッシュをコードで接続しなければならないことが多いのですが、このカメラではコードがなくてもこのような撮影ができます。これは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用して行なうことができるからです。この撮影をワイヤレス※フラッシュ撮影といいます。もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。

※ワイヤレス＝Wireless（コードのない、の意味）



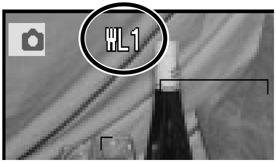
ワイヤレスフラッシュの設定

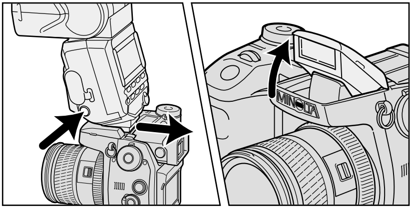
1. フラッシュをカメラに取り付け、両方の電源をONにします。



2. P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 1」→「フラッシュモード」→「ワイヤレス」を選択し、実行ボタンを押します。

● WLの横の数字はチャンネルを表します。→P.113





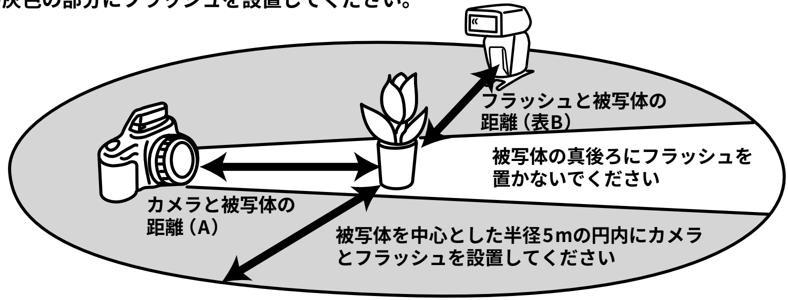
3. フラッシュをカメラから取り外し、カメラの内蔵フラッシュを上げます。

ワイヤレスフラッシュで撮影する

4. カメラとフラッシュの位置を決めます。

このカメラは内蔵フラッシュの発光を信号として、カメラから離したプログラムフラッシュを発光させます。信号が正しく受け取れるよう、以下の点に気をつけてください。

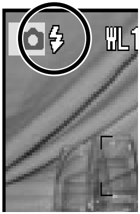
- 室内など暗いところで撮影してください。
- 下図の灰色の部分にフラッシュを設置してください。

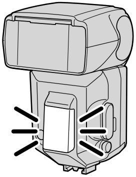


	5600HS（D）使用時				3600HS（D）使用時			
ﾌｨﾙﾑ感度	オート、ISO 200		ISO 100		オート、ISO 200		ISO 100	
絞り値	カメラー被写体（A）	フラッシュー被写体（B）	カメラー被写体（A）	フラッシュー被写体（B）	カメラー被写体（A）	フラッシュー被写体（B）	カメラー被写体（A）	フラッシュー被写体（B）
2.8	2－5m	1.4－5m	1.4－5m	1－5m	2－5m	1.4－5m	1.4－5m	1－5m
4	1.4－5m	1－5m	1－5m	0.7－5m	1.4－5m	1－5m	1－5m	0.7－5m
5.6	1－5m	0.7－5m	0.7－5m	0.5－5m	1－5m	0.7－5m	0.7－5m	0.5－3.5m

- ISO 400、800の場合は、A、Bとも最短距離が長くなります。

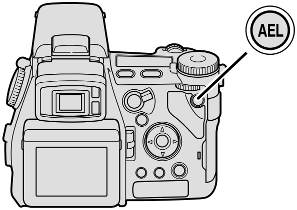
次ページへ続く





5.カメラの内蔵フラッシュとプログラムフラッシュの充電完了を確認します。

- 内蔵フラッシュは、シャッターボタンを半押しして、液晶モニター／ファインダーの⚡が白色になると充電完了です。
- プログラムフラッシュは、背面の⚡が点灯し、前面の赤いランプが点滅すると充電完了です。



6.カメラのAEロックボタンを押して、カメラから離したフラッシュが発光することを確認します（テスト発光）。

- 発光しない場合は、カメラ・フラッシュ・被写体の配置場所を変えてください。

AEロックボタンの機能と操作を変更している場合

ワイヤレスフラッシュご使用の際には、撮影モードメニューのAEロックボタンの機能と操作（P.116）を、「押す間AEL」または「押す間スポットAEL」に設定しておくことをおすすめします。ボタンから指を離してもその機能が残る設定（再押しAEL／再押しスポットAEL）だと、最初に押すとテスト発光・測光値のロックを同時に行ない、2度目に押すとテスト発光せずにロックした測光値を解除します。

7.もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● ワイヤレスフラッシュ撮影後は、ワイヤレスフラッシュを解除しておいてください。（カメラとフラッシュを別々に解除する、P.110〜111の要領でフラッシュをカメラに取り付けてワイヤレス以外を設定する、のどちらの方法でも可能。）ワイヤレスフラッシュ設定のまま内蔵フラッシュで撮影しても、適正露出は得られません。

● P.110〜111の方法でワイヤレスフラッシュを設定すると、設定すると同時にフラッシュのチャンネル情報がカメラに転送されます。撮影会などで近くに別にワイヤレスフラッシュ撮影をしている人がいて、その人の内蔵フラッシュの信号光でお使いのフラッシュが発光してしまうような場合は、フラッシュのチャンネルを変更してください。
チャンネルの変更は、5600HS（D）の場合はフラッシュ側のカスタム設定で、3600HS（D）の場合はワイヤレスフラッシュボタンを押し続けて行います。詳しくはフラッシュの使用説明書をご覧ください。チャンネルの変更後、再度フラッシュをカメラに取り付けてワイヤレス設定にすると、フラッシュのチャンネルがカメラに転送されます。

フラッシュとカメラを別々にワイヤレス設定にする

P.110〜111ではフラッシュをカメラに取り付けて設定する方法を説明しましたが、いったんこの方法でワイヤレス設定を行なう（＝フラッシュのチャンネル情報をカメラに転送する）と、その後はカメラとフラッシュを別々にワイヤレスに設定することもできます。

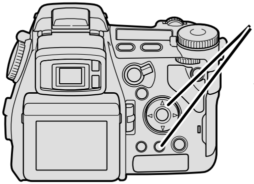
カメラのワイヤレス設定
カメラの撮影モードメニューで設定する（P.110〜111の要領で「フラッシュモード」→「ワイヤレス」を選択する）。

フラッシュのワイヤレス設定
5600HS（D）：モードボタンで［TTL］または［M］を表示させた後、セレクトボタンで［WL］を点滅させ、＋または－ボタンで［WL On］を選択、セレクトボタンで確定。
3600HS（D）：ワイヤレスフラッシュボタンを押して、WL CH1またはCH2のランプを点灯させる。
（フラッシュの操作方法については、詳しくはフラッシュの使用説明書をご覧ください。）

調光モード

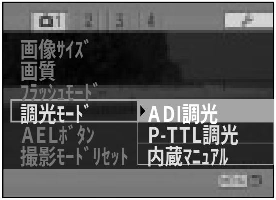
フラッシュの調光モードを、ADI調光、P-TTL調光、マニュアル発光のいずれかに設定することができます。

ADI ＝ Advanced Distance Integrationの略
P-TTL ＝ Pre-flash, Through the lensの略



P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷1」→「調光モード」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- **頻繁に調光モードを変更する場合、撮影モードメニューに入らなくても、ファンクションボタンとダイヤルで変更できるようにすることができます。→カスタムポジション、P.179**



ADI調光

撮影の直前にフラッシュを一度発光（プリ発光）させてその反射光を測光、被写体までの距離情報も合わせて調光演算に反映するため、被写体の反射率にほとんど影響されない正確な調光が可能です。初期設定はADI調光です。

- **被写体とフラッシュ間の距離が定まらない場合（別売りのプログラムフラッシュでワイヤレスフラッシュ撮影・ケーブルを使ったオフカメラ撮影などを行なう場合や、マクロツインフラッシュ2400・マクロリングフラッシュ1200使用時など）は、自動的にP-TTL調光になります。**

P-TTL調光

ADI調光と同じく、撮影の直前にプリ発光が行われますが、被写体までの距離情報は加味されません。以下の場合はADI調光だと正確な距離情報が得られませんので、P-TTL調光に設定してください。

- **プログラムフラッシュ3600HS（D）にワイドパネルを取り付けた場合**
- **プログラムフラッシュ2500（D）でバウンス撮影を行なう場合**
- **フラッシュ発光部にディフューザーを取り付けた場合**
- **露出倍数のかかるフィルター（ND等）使用時**
- **クローズアップレンズ使用時**

内蔵マニュアル発光

ADI調光やP-TTL調光では、被写体が適正露出になるようにフラッシュの発光量が自動的に調整されますが、マニュアル発光にすると、被写体の明るさに関係なく、常に一定の発光量を得ることができます（内蔵フラッシュでのみ可能）。

発光量は右の5つから選択することができます。プリ発光が行われないので、シャッターレリーズまでのタイムラグを短くしたい場合や、日中シンクロ撮影*などの補助フラッシュ、スレーブフラッシュ撮影**での信号光としてお使いください。

*日中シンクロ撮影 ＝ 昼間の撮影で、太陽光を主としながら補助光としてフラッシュを発光させる撮影。

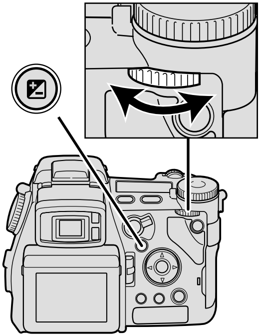
**スレーブフラッシュ撮影 ＝ 市販のスレーブユニットを使用、内蔵フラッシュ等を信号光として、他のストロボを発光させる撮影。

発光量	ｶﾞｲﾄﾞﾅﾝﾊﾞｰ (ISO 100、m)
1/1	約8
1/2	約6
1/4	約4
1/8	約3
1/16	約2

- 赤目軽減発光・ワイヤレスフラッシュ選択時は、内蔵マニュアル発光は設定できません。（後から赤目軽減・ワイヤレスを選択すると、調光モードは自動的にADI調光になります。）
- マニュアル発光ではフラッシュの発光量があらかじめ決められてしまうため、設定によっては適正露出が得られないことがあります。

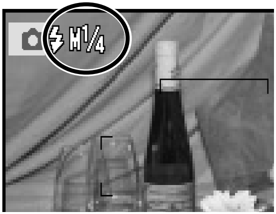
内蔵マニュアル発光の発光量の設定

1.前ページの要領で、内蔵マニュアル発光を設定します。



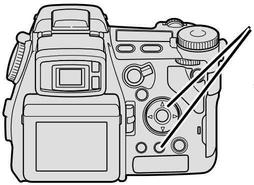
2.露出補正ボタンを押したまま後ダイヤルを回して、希望の発光量を選びます。

- マニュアル発光の場合は、液晶モニター／ファインダー内にMと発光量が表示されます。

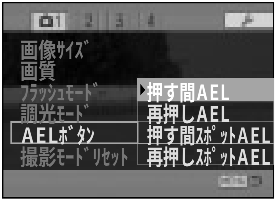


AEロックボタンの機能と操作

AEロックボタンの機能と操作方法を変更することができます。



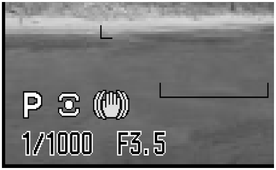
P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷1」→「AELボタン」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



AEロックボタンの機能には、測光モードにかかわらず測光値（シャッター速度と絞り値）をロックするAEL※、一時的にスポット測光になってその測光値をロックするスポットAEL※の2つがあります。操作方法には、押している間のみ機能する押す間、一度押して機能・再度押して解除という再押しの2つがあります。これらを以下の通り組み合わせることができます。

押す間 AEL （初期設定）	押し続けている間、選択されている測光モードでその時の測光値がロック	AEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影してください。露出を一定に保ちたい場合に便利です。
再押し AEL	一度押して放すと、選択されている測光モードでその時の測光値がロック、再度押すと解除	シャッターを切るときにAEロックボタンを押し続ける必要がありません。露出を一定に保ちたい場合に便利です。
押す間 スポット AEL	押し続けている間、どの測光モードにしていても一時的にスポット測光になり、その時の測光値がロック	AEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影してください。通常は多分割または中央重点的平均測光を使用するが、被写体により一時的にスポット測光を行なう場合に便利です。
再押し スポット AEL	一度押して放すと、どの測光モードにしていても一時的にスポット測光になり、その時の測光値がロック。再度押すと解除。	シャッターを切るときにAEロックボタンを押し続ける必要がありません。通常は多分割または中央重点的平均測光を使用するが、被写体により一時的にスポット測光を行なう場合に便利です。

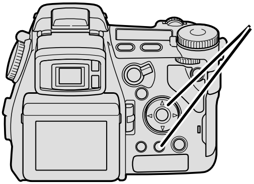
＊AE＝Auto Exposure（自動露出）の略
　L＝Lock（ロック、固定）の略



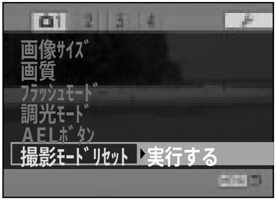
- 測光値がロックされている間は、液晶モニター／ファインダー内のシャッター速度と絞り値が黒く反転します。特に再押しを選んでいる場合は、解除し忘れのないようにしてください。
- P／Aモードのフラッシュ発光時は、AEロックでなくスローシンクロ撮影（夜景ポートレートと似た効果）になります。
- ここでの設定は、Mモードでのマニュアルシフト（P.63）には影響しません。

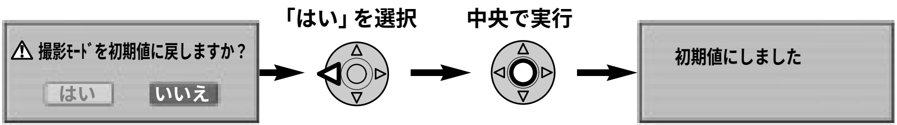
撮影モードリセット

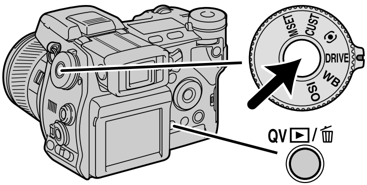
撮影モードリセットを行なうと、カメラの撮影モードの主な設定がフルオートに戻ります。



P.100の要領で、撮影モードメニュー →「1」→「撮影モードリセット」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。







- ファンクションボタンを押しながらクイックビュー／消去ボタンを押しても、撮影モードリセットが実行されます。（その場合は、「はい」「いいえ」の確認画面は現れません。）

次ページへ続く

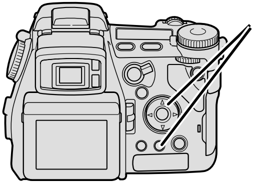
● 撮影モードリセットを実行すると、以下の項目がフルオートに戻ります。

- 露出補正（±0）
- 調光補正（±0）
- デジタルズーム（解除）
- 手ぶれ補正（作動）
- ドライブモード（1コマ撮影）
- ホワイトバランス（オート）
- 測光モード（多分割測光）
- コントラスト補正（±0）
- 彩度補正（±0）
- フィルター効果（±0）
- フォーカスエリア（ワイドフォーカス）
- フラッシュモード（通常または赤目軽減）
- 調光モード（ADI調光）
- シャープネス（標準）

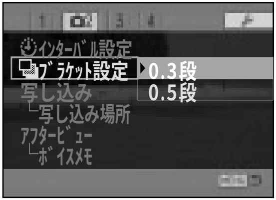
※一覧表は →P.236

ブラケット撮影のずらし段数と枚数の変更

ブラケット撮影（P.67）で、ずらし段数を変更することができます。0.3段または0.5段が選べます。



P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷2」→「ブラケット設定」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



写し込み



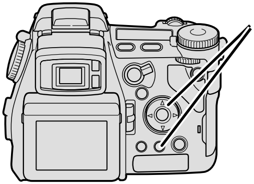
撮影の年月日や任意の文字を、画像の右下に入れることができます。
初期設定では写し込みはされません。

年月日：　撮影の年月日が入ります（例：2003.7.20）。
月日時刻：　撮影の月日と時刻が入ります（例：7.20　13:24）。
文字：　任意のカタカナと英数字を用いて、最大16文字を写し込むことができます（例：ｷｾﾂﾉｶﾞｿﾞｳ）。
文字＋通し番号：　任意のカタカナと英数字を用いて最大10文字と、5桁の通し番号を写し込むことができます（例：ｷｾﾂﾉｶﾞｿﾞｳ-00001）。

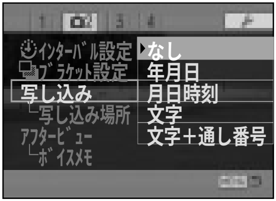
- 写し込みなしに設定していても、撮影時の年月日時刻は記録され、再生時には画面左下に表示されます。
- TIFF画像、RAW画像、および動画では画像への写し込みはできません。
- 「文字」および「文字＋通し番号」の場合、画像への写し込みとは別に、同じ情報が撮影情報（Exif情報）として画像に付加されます。画像への写し込みを行なわずにExif情報のみ付加させることもできます。→P.122

※年月日や時刻、年月日の並びを変更するときは →P.187

写し込みを選択する



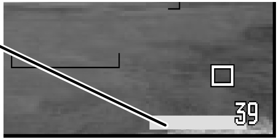
1. P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷2」→「写し込み」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



「なし」「年月日」「月日時刻」の場合
メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

「文字」「文字＋通し番号」の場合
2に進んで文字を設定

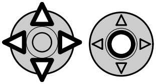
●写し込みありのときは、液晶モニター／ファインダー右下に黄色のバーが表示されます。



写し込みの文字を設定する



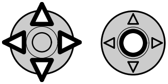
abc
切り替えボタン
（この場合はアルファベット小文字の意味）



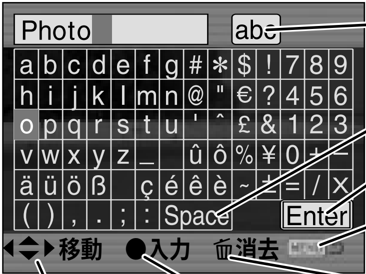
2.前ページの1で実行ボタンを押すと、アルファベット（大文字）と数字の一覧が表示されます。十字キーで切り替えボタンを選んで中央の実行ボタンを押し、希望の文字の種類を選びます。

●切り替えボタンを押すたびに、アルファベット（大文字）→ アルファベット（小文字）→ カタカナ、の順に切り替わります。

3.十字キーの上下左右で文字を選択し、中央の実行ボタンで文字を1つずつ確定して行きます。



●促音（ッ）、拗音（ャュョ）等の小さい文字は入りません。



切り替えボタン：アルファベット大文字、小文字、カタカナの3つを切り替えます。

Space：1文字分空けます。

Enter：文字を入れた後、最後に押すと確定されます。

MENU：メニューボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

反転されている文字、または入力直後の文字を消去

十字キー上下左右で文字を選択

十字キー中央で文字を決定

文字の種類の切り替え

入力の途中でも、切り替えボタン（ABC、abc、アイウのいずれか）を押すと文字の種類を切り替えることができます。

入力した文字の削除

1. カーソルを入力済み部分（前ページの場合は「Photo」）に移動させます。
2. 十字キーの左右で、削除したい文字を反転させます。
3. QV▶/🗑 ボタンを押して削除します。

文字の上書き

1. カーソルを入力済み部分（前ページの場合は「Photo」）に移動させます。
2. 十字キーの左右で、上書きしたい部分を反転させます。
3. 上書きする文字を選び、十字キーの中央を押して上書き文字を決定します。

4. 文字を入れ終わると、「Enter」を選び、十字キー中央の実行ボタンで確定させます。

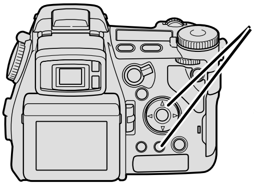
- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、入力した文字はキャンセルされます。
- 「文字＋通し番号」の場合、通し番号は00001から始まります。変更することはできません。文字を変更すると、通し番号も自動的に00001にリセットされます。

5. メニューボタンを押すかシャッターボタンを半押しして、元の画面に戻ります。

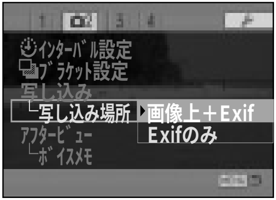
文字の写し込み場所

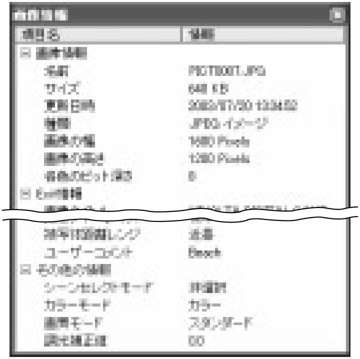
「文字」または「文字＋通し番号」を選択すると、その内容が画像に写し込まれると同時に、撮影情報（Exif*情報）として画像に付加されます。付加されたExif情報はユーザーコメントとして、付属のソフトウェアDiMAGE Viewerで編集・保存・印刷等行なうことができます。この写し込み内容を画像には写し込まずに、Exif情報としてだけ付加させることもできます。

*Exif（エグジフ） ＝ Exchangeable Image File Formatの略。デジタルカメラの画像に撮影情報を埋め込めるように規格化された画像形式。



P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷2」→「写し込み場所」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

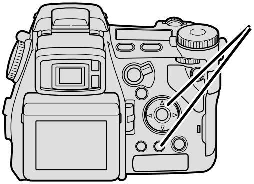




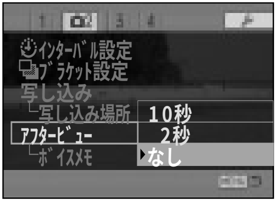
- **「Exifのみ」を選択すると、画像への写し込みは行われません。写し込みを表す黄色のバーも表示されません。**
- **動画にExif情報を付加させることはできません。**
- **撮影年月日および時刻の情報は、常に画像に付加されます。**
- **DiMAGE Viewerでの撮影情報の表示については、DiMAGE Viewerの使用説明書をご覧ください。**

アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を確認したり消去したりすることができます。



P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 2」→「アフタービュー」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

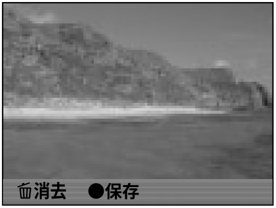


アフタービューなし

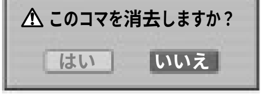
撮影後、すぐに画像が保存され、ライブビュー画面（その時にレンズが向けられている被写体が画面に表示される）に戻ります。初期設定はアフタービューなしです。

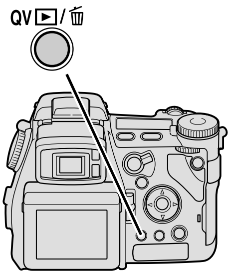
アフタービュー2秒／10秒

撮影後、約2秒間または約10秒間撮影した画像が表示され、その後自動的に保存されます。アフタービュー中に消去や保存を行なうこともできます。

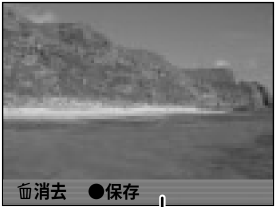


消去するときは、左の画面が現れている間にクイックビュー／消去ボタンを押してください。
下の画面が出たら十字キーの左側で「はい」を選んで、中央の実行ボタンを押すと消去されます。





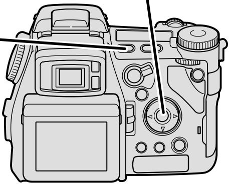
次ページへ続く





保存するときは、左の画面が現れている間に、十字キー中央の実行ボタンを押してください。

- 2秒／10秒経過後、またはシャッターボタンの半押しでも自動的に保存されます。

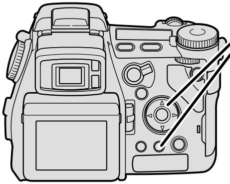


表示切り替えボタン i⁺ で表示の有無を切り替えることができます。

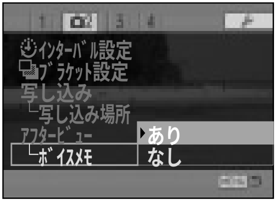
- 連続撮影や連続ブラケット撮影時にアフタービューありにすると、インデックス表示になります。前ページの要領で消去すると、一連のコマがすべて消去されます。

ボイスメモ

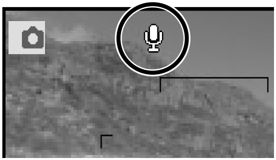
撮影した画像に、最長15秒間の音声メモを付けることができます。撮影のメモ代わりなどにお使いいただけます。アフタービュー2秒または10秒設定時のみ有効です。アフタービュー表示終了後に録音が始まります。



P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 2」→「ボイスメモ」から「あり」を選択し、実行ボタンを押します。



● ボイスメモを設定すると、液晶モニター／ファインダーには が表示されます。

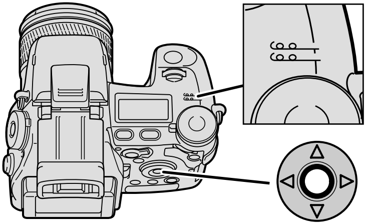


操作方法

1. 撮影します。

● アフタービュー表示終了後（2秒または10秒経過後、または実行ボタンで保存後）、右の画面が現れ、録音が始まります。





2. マイクに向かって話します。

● マイクから20cmくらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

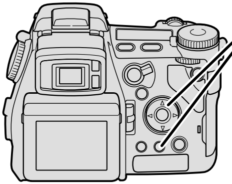
3. 話し終えたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 録音が終了します。
● 15秒間経過すると、録音は自動的に終了します。

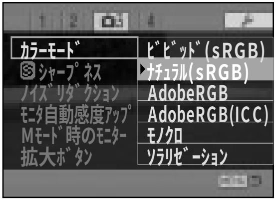
● 音声を再生するには、再生モードで画像を表示させ、十字キー中央の実行ボタンを押してください。→P.140
● アフタービュー中にシャッターボタンを半押しすると、画像は保存されますが、ボイスメモは録音されません。
● 連続撮影と連続ブラケット撮影の場合は、最終コマにのみボイスメモを付けることができます。動画に付けることはできません。

カラーモード

撮影する画像の色を、ナチュラル、ビビッド、Adobe RGB、モノクロ、ソラリゼーションの中から選ぶことができます。



P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 3」→「カラーモード」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



- **カラーモードの設定は静止画のみに有効です（動画には影響しません）。**
- **頻繁にカラーモードを変更する場合、撮影モードメニューに入らなくても、ファンクションボタンとダイヤルで変更できるようにすることができます。**
  →カスタムポジション、P.179

ナチュラル（sRGB）

24bitの自然な色のカラー画像（sRGB※）として記録されます。初期設定はこの設定です。

※sRGB ＝ 平均的なモニターの特性を反映させた色空間。ホームページなどWeb表示用の画像を扱う場合に適しています。

ビビッド（sRGB）

24bitのカラー画像ですが、標準より色が鮮やかに再現されます。さらに彩度補正を加えることも可能です。

- **液晶モニター／ファインダーに VIVID が表示されます。**
- **彩度が高い被写体の場合、ビビッドカラーにすると再現できる限界を超えてしまうことがあります。**

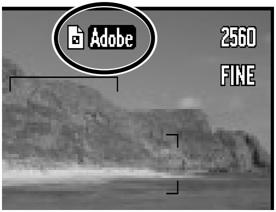


※カラー写真参照 →P.3

Adobe RGB

Adobe RGB (ICC)

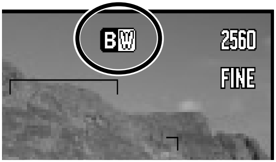
Adobe RGBは、ナチュラルやビビッドのsRGBに比べて広い色再現範囲を持っています。プリントを主目的とする撮影、特に鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果があります。
画像の表示やプリントには、DiMAGE Viewer等カラーマネジメントに対応したソフトをお使いください。



- 液晶モニター／ファインダーに Adobe が表示されます。ICCプロファイル（カラープロファイル）が付く場合は 🗎 も表示されます。
- これらのカラーモードで撮影した画像の表示、編集・加工、プリントには、DiMAGE Viewer※などカラーマネジメントに対応したアプリケーションソフトをご利用ください。カラーマネジメント非対応のソフトでは、正しい色で表示やプリントができなかったり、ファイルが開かなかったりすることがあります。お持ちでない場合は、ナチュラルまたはビビッドでの撮影をおすすめします。
  ※DiMAGE Viewerの場合、Version 2.2以降をお使いください。それ以前のバージョンは DiMAGE A1のICCプロファイルに対応していません。
- 「Adobe RGB (ICC)」を選択して、カラーマネジメントとICCプロファイルの両方に対応しているソフトを使うと、最も正確な色情報が得られます。
  「Adobe RGB」で撮影した場合や、カラーマネジメント対応でもICCプロファイルに対応していないソフトの場合は、ソフト側で設定を行なう必要があります。「Adobe RGB」で撮影してDiMAGE Viewerを使われる場合は、カラー設定の色空間を「カメラオリジナル色空間（Adobe RGB）」に設定してください。それ以外のソフトをお使いの場合は、ソフトの使用説明書をご覧ください。
- 「Adobe RGB (ICC)」で撮影すると、画像ファイル名には拡張子 ".JPE" が付きます。DPOF指定（P.159）はできません。

モノクロ

白黒画像として記録されます。
- 液晶モニター／ファインダーに BW が表示されます。
- モノクロにしてもファイルサイズはカラーと同じです。



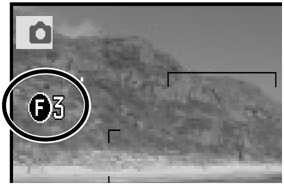
次ページへ続く

カラーモード（続き）

モノクロでのフィルター効果

モノクロ画像にフィルター効果をかけると、色調が調整され、セピア色などの画像を得ることができます。F0～F10の11種類の中から選ぶことができます。

※フィルター効果 →P.90、カラー写真参照 →P.3

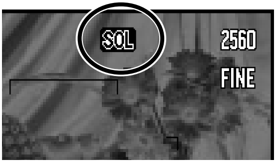


- F0以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーに F と数値が表示されます。
- ブラケット撮影（P.69）を行なうと、選んだ番号、－側、＋側の順に3枚撮影されます。例えばF0から開始するとF0、F10、F1の順に、F3から開始するとF3、F2、F4の順に撮影されます。

ソラリゼーション

明るい部分の色が補色（反対の色彩）に反転されます。ネガフィルムとポジフィルムが混在したような特殊効果を得ることができます。

※カラー写真参照 →P.3




ソラリゼーション

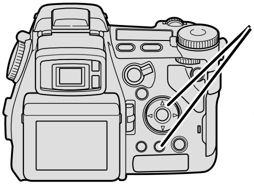

標準カラー

- ソラリゼーションにすると、液晶モニター／ファインダーに SOL が表示されます。
- コントラスト補正、彩度補正、フィルター効果の設定はできません。

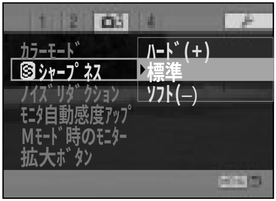
シャープネス

撮影する画像のシャープネス（鮮鋭度）を調整することができます。3段階から選択することができます。

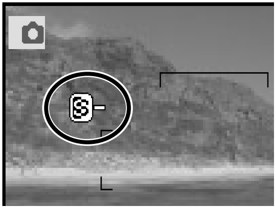
ハード（＋）： 輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像になります。
標準： 標準的な鮮明さの画像になります。初期設定は標準です。
ソフト（−）： 輪郭のやわらかな画像になります。



P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷3」→「シャープネス」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



- 標準以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーにはⓈと＋または−が表示されます。

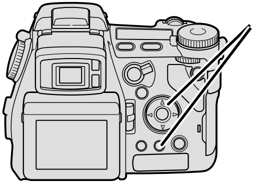


- 画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。
- 頻繁にシャープネスを変更する場合、撮影モードメニューに入らなくても、ファンクションボタンとダイヤルで変更できるようにすることができます。→カスタムポジション、P.179

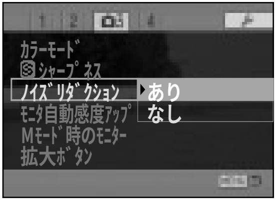
ノイズリダクション

長時間露光時にはノイズが目立ちやすくなります。このカメラでは、シャッター速度が1秒以上の場合はノイズリダクション*が機能して、長時間露光時に目立ちやすい粒状ノイズを低減させます。このノイズリダクションの有無を切り替えることができます。初期設定は「あり」です。

*リダクション ＝ Reduction（低減、削減）



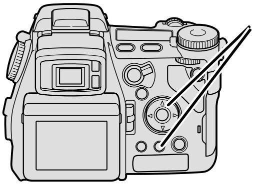
P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 3」→「ノイズリダクション」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



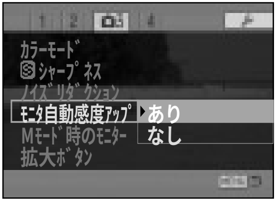
- ノイズリダクションが「あり」の状態で1秒以上の撮影を行なうと、撮影後最長30秒間ノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行われます。この間は液晶モニターが消灯し、次の撮影はできません。
- ノイズリダクションを「なし」にすると、ノイズ軽減処理が行われません。撮影のタイミングを優先させたい場合に便利ですが、ノイズが目立ちやすくなるので、長時間露光時にはノイズリダクション「あり」をおすすめします。

モニター自動感度アップ

このカメラでは、暗い場所でも液晶モニターを見やすくするため、一定以下の暗さになるとモニターが自動的に白黒表示になります（モニター自動感度アップ機能）。この機能の有無を切り替えることができます。初期設定は「あり」です。



P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 3」→「モニタ自動感度アップ」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

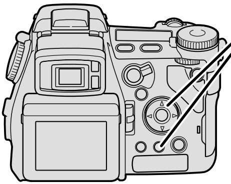


- 白黒表示になるのは液晶モニターだけです。撮影される画像には影響ありません。
- モニター自動感度アップ機能を「なし」にすると、画像は常にカラーで表示されます。暗い場所だと被写体が見にくくなることがあります。
- モニター自動感度アップ機能時（白黒表示になったとき）は、撮影前のヒストグラム（P.45）とマニュアルフォーカス時のピント確認（P.132）は使えません。

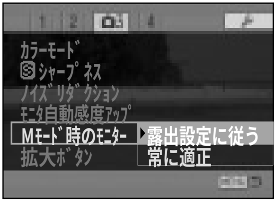
Mモード時のモニター

Mモードでフラッシュが発光しない場合は、露出設定（実際に設定されたシャッター速度と絞り値）に応じて画面の明るさが変化します。撮影される画像の明るさを前もって確認することができます。初期設定「露出設定に従う」では、このように露出設定に応じて画面の明るさが変化しますが、これを常に一定の明るさ「常に適正」にすることができます。フラッシュを発光させずに暗い被写体を撮影する場合や、シンクロターミナルを使ってシンクロコード付きフラッシュを使用する（P.99）場合に便利です。

- 内蔵フラッシュまたはプログラムフラッシュを発光させる場合は、ここでの設定にかかわらず、被写体が確認できるよう自動的に画面が明るく（常に適正に）なります。



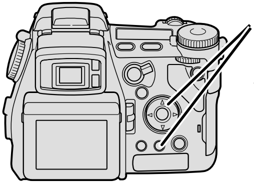
P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷3」→「Mモード時のモニター」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



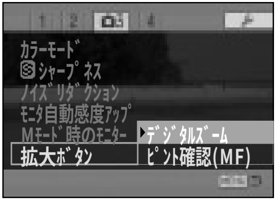
- 「常に適正」を選択すると、液晶モニター／ファインダー内のMが赤くなり、画面の明るさと実際に撮影される画像の明るさが異なることをお知らせします。また、撮影前のヒストグラムは使えません。

拡大ボタンの機能

拡大ボタンの機能を、デジタルズームまたはマニュアルフォーカス時のピント確認に変更することができます。



P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷3」→「拡大ボタン」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

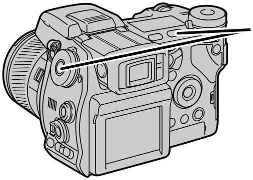


デジタルズーム

拡大ボタンを押すと、画像が2倍に拡大されます。そのまま撮影できます。→P.55
初期設定はデジタルズームです。

- 拡大ボタンを押してデジタルズームを設定すると、液晶モニター／ファインダー内に黄色のX2.0が表示されます。

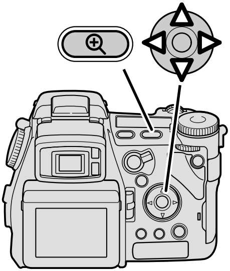




- 拡大ボタンの機能をデジタルズームにしている場合でも、マニュアルフォーカス時にファンクションボタンを押しながら拡大ボタンを押すと、一時的にピント確認が可能です。デジタルズームなしの時は8倍、デジタルズーム時には4倍（表示はX8.0）に画像が拡大されます。拡大後の画像表示範囲（次ページ）は現れません。

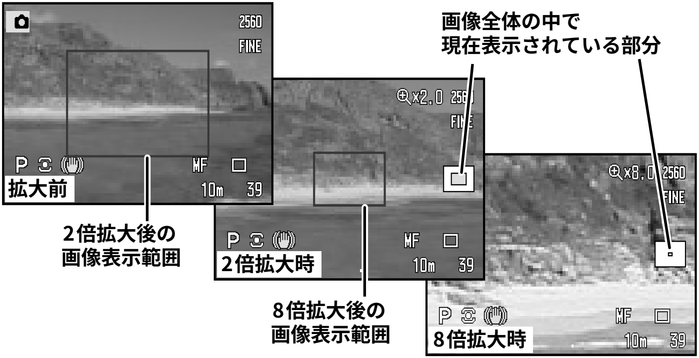
マニュアルフォーカス時のピント確認（フレックスデジタルマグニファイヤー）

マニュアルフォーカス時（MF、P.94）またはダイレクトマニュアルフォーカス時（DMF、P.137）に拡大ボタンを押すと、画像の任意の場所を一時的に2倍または8倍に拡大します。正確にピントを確認する場合に使用します。撮影される画像は拡大前のものです。



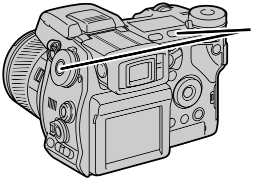
1.拡大ボタンと十字キーで、拡大倍率と場所を決めます。

● 拡大ボタンを押すたびに、1倍→2倍→8倍→1倍･･･と倍率が変わります。
● 十字キーで、拡大場所の移動ができます。中央の実行ボタンを押すと、拡大場所は中央部に戻ります。
● ピント確認中は、液晶モニター／ファインダー内には🔍と倍率が表示されます。



2.シャッターボタンを押して撮影します。

● シャッターボタンを半押しすると、元の撮影画面に戻ります。

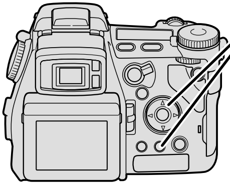


● 拡大ボタンの機能をピント確認にしている場合でも、拡大前にファンクションボタンを押しながら拡大ボタンを押すと、デジタルズームを行なうことができます。デジタルズーム後にピント確認を行なうと、倍率は4倍（表示はX8.0）になります。拡大後の画像表示範囲は現れません。

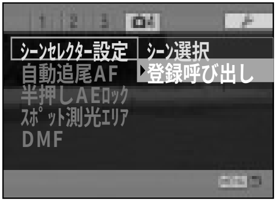
● この機能はピントの確認用です。明るさ等露出関係の確認は、拡大しない状態で行なってください。
● オートフォーカス時およびモニター自動感度アップ機能時（暗いところで液晶モニターが白黒になっているとき）には、拡大ボタンを押しても画像は拡大されません。

シーンセレクターの設定（登録のダイヤル操作）

初期設定では、撮影モードダイヤルのシーンセレクター位置（絵表示部分）には、シーンセレクターが設定されています。これを登録呼び出し番号（P.87）に変更することができます。登録を頻繁に使われる場合に便利です。

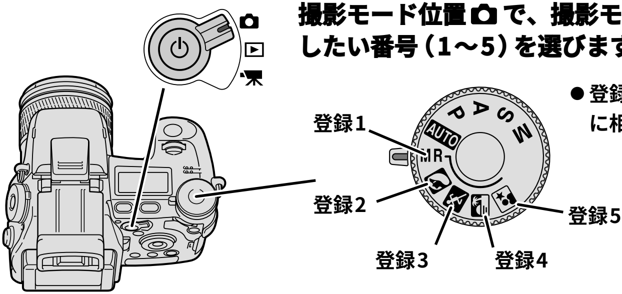


P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷4」→「シーンセレクター設定」から「登録呼び出し」を選択し、実行ボタンを押します。



呼び出し方法

撮影モード位置📷で、撮影モードダイヤルを回して呼び出したい番号（1〜5）を選びます。



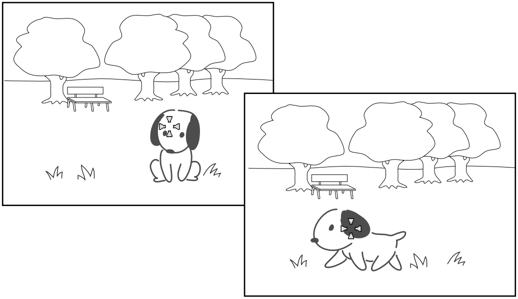
● 登録1〜5は、それぞれ左図の各絵表示に相当します。

● シーンセレクター位置を登録呼び出しに設定していても、新規登録方法は変わりません（P.86）。ただし登録番号は絵表示で表されます。
● シーンセレクター（P.48）は使えません。

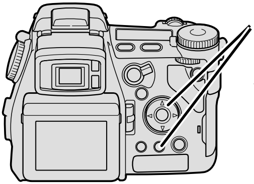
コンティニュアスAF時の自動追尾AF

コンティニュアスAF（AF-C、P.93）設定時には、初期設定では、被写体の動きに合わせてピント合わせを行なう位置 が動き続けます（自動追尾AF）。

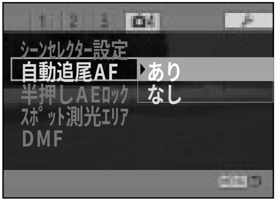
● 被写体が暗い場合は自動追尾AFは機能しません。



自動追尾AFは解除することもできます。 の位置を固定させたい場合にお使いください。



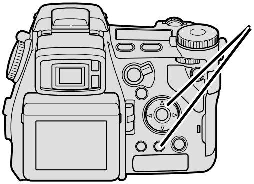
P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷4」→「自動追尾AF」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



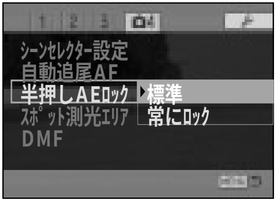
● 自動追尾AFを「なし」にしても、AF-Cを選んでいる間は、ピントは常に動き続けます（フルタイムAF）。

シャッターボタン半押しによるAEロック

シャッターボタンを半押しした時に、その時の測光値（シャッター速度と絞り値）をロックするかどうかを選ぶことができます。多分割測光でワンショットAF（AF-S）時のみロックされる標準設定か、常にロックされるかの2通りがあります。



P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷4」→「半押しAEロック」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



標準

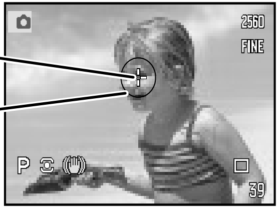
測光モードが多分割測光でフォーカスモードがワンショットAF（AF-S）設定時のみ、シャッターボタン半押しで測光値が固定（ロック）されます。それ以外の場合は、AEロックボタンまたはシャッターボタンを押し込んだ時に測光値が決まります。ピントと測光値を別にコントロールするのに便利です。

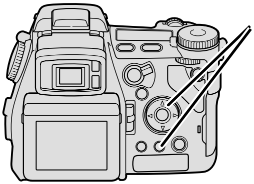
常にロック

測光モードやフォーカスモードにかかわらず、シャッターボタン半押しで常に測光値が固定（ロック）されます。ピント合わせと測光を常に同じ被写体で行なう場合に便利です。

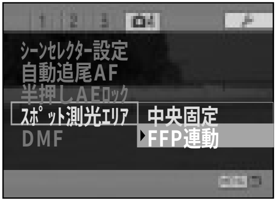
スポット測光エリアの位置

スポット測光を行なうスポット測光エリア（サークル）の位置を選ぶことができます。初期設定では画面中央ですが、フレックスフォーカスポイント（FFP、P.91）に連動させて動かすこともできます。ポートレート撮影時など、ピントを合わせたい場所と露出を合わせたい場所が同じ場合に便利です。





P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷4」→「スポット測光エリア」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

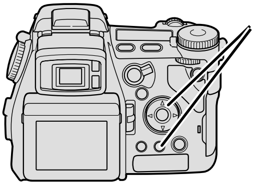


● フレックスフォーカスポイントととスポット測光サークルを連動させた場合、通常のフレックスフォーカスポイントと比べると、動き方が若干粗くなります。

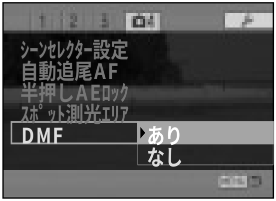
ダイレクトマニュアルフォーカス（DMF）

オートフォーカスでピントを合わせた後、手動でピントの微調整ができます。マクロ撮影時などで意図したものとは違う被写体にピントが合った場合などに便利です。

DMF ＝ Direct Manual Focus（ダイレクトマニュアルフォーカス）の略

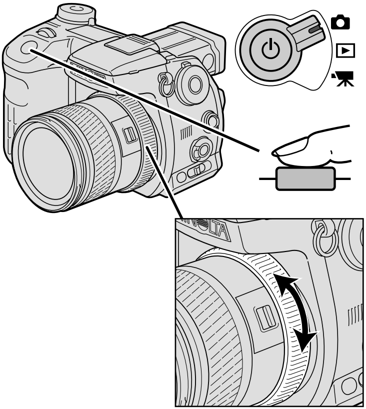


P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷4」→「DMF」から「あり」を選択し、実行ボタンを押します。



次ページへ続く

撮影方法



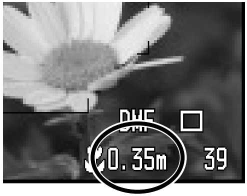
1.撮影モード位置 で、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

- 液晶モニター／ファインダー内にDMFが点灯します。



2.シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回します。

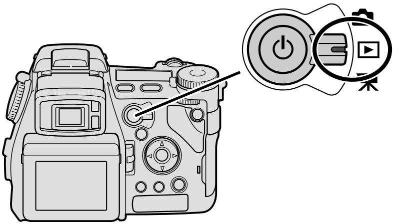
- 現在のピント位置までの距離が目安として表示されます。∞は無限遠を表します。



3.そのままシャッターボタンを押し込んで撮影します。

- シャッターボタンから指を離すと、次にシャッターボタンを半押しした時に再度ピント合わせが行われます。
- 表示される距離はCCD（撮像素子）からの距離です。　※CCDの位置について →P.50
- コンティニュアスAF（AF-C）設定時は、ピントを固定させることができないので、ダイレクトマニュアルフォーカスはできません。
- マニュアルフォーカス用のピント確認（画面を2倍または8倍に拡大、P.132）も行なうことができます。

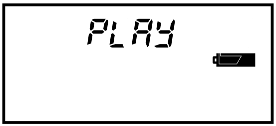
再生モード



この章では、再生モードでの各種設定について説明しています。モード切り替えレバーは ▶ 位置（再生モード）に合わせてください。

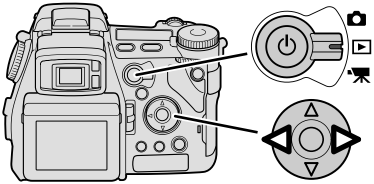


再生モード設定中は、ファインダー／液晶モニター内の左上に ▶ が現れます。



上面データパネルには、PLAYの文字が現れます。

1コマ再生



再生モードにすると、撮影した画像が液晶モニター／ファインダー内に表示されます。

十字キーの左右で、見たい画像を選びます。

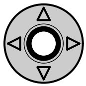


古い画像　新しい画像

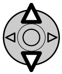
- 十字キーを押し続けると、画像が早送りされます。
- 最新画像を表示中に十字キーの右を押すと、最も古い画像に戻ります。逆も同様です。
- クイックビュー（P.42）でも再生モードと同じ操作が可能です（再生モードメニューを除く）。

音声（ボイスメモ）付き画像の再生

液晶モニター／ファインダーに[♪]が表示されている画像には、ボイスメモ（P.124）が付いています。音声を再生するには、十字キー中央の実行ボタンを押してください。







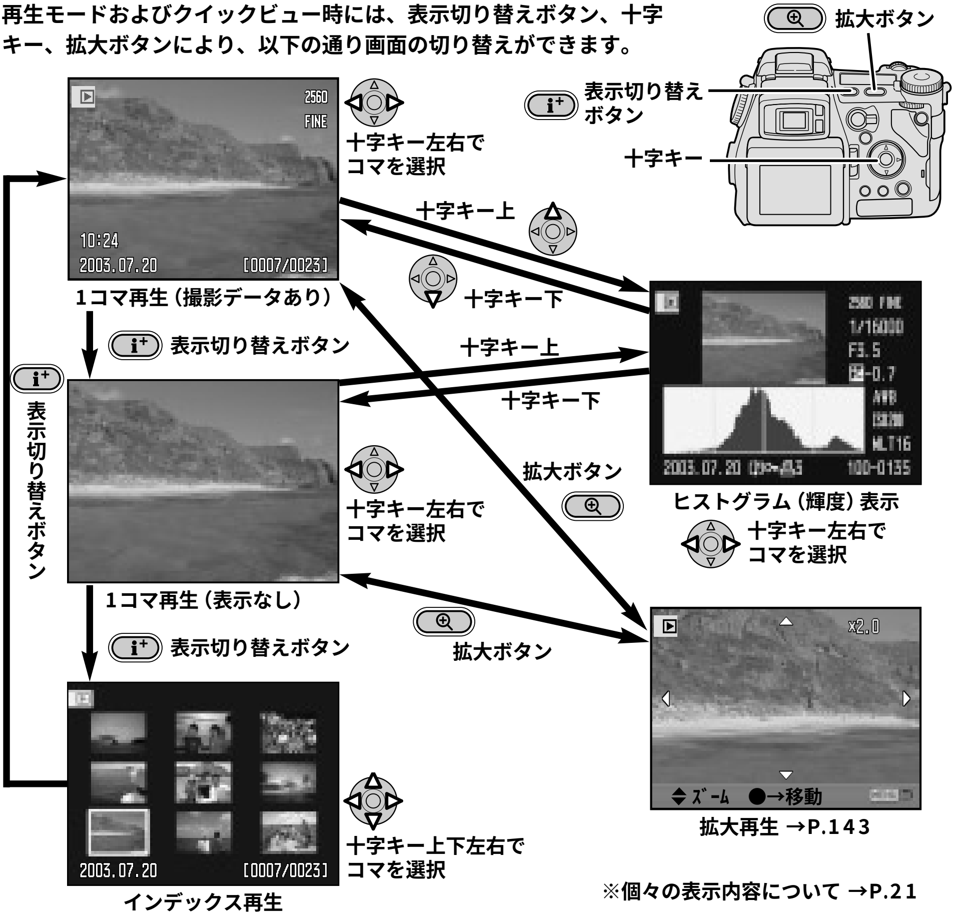
再生中、十字キーの上下で音量の調節ができます。



音声の再生を途中で終えるときは、メニューボタンを押してください。

画面表示の切り替え（▶再生モード時）

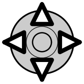
再生モードおよびクイックビュー時には、表示切り替えボタン、十字キー、拡大ボタンにより、以下の通り画面の切り替えができます。



※個々の表示内容について →P.21

インデックス再生

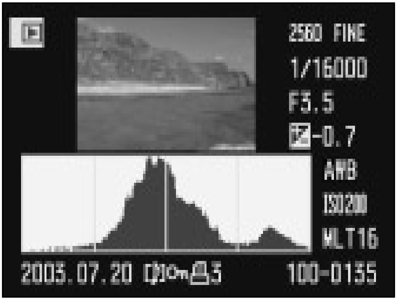




9コマ分を一度に液晶モニター／ファインダーに表示します。十字キーの上下左右でコマの移動ができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。

- 一度に再生されるコマ数を9コマから4コマにすることもできます。→P.156
- インデックス中に動画が含まれる場合は、動画開始時の画像が静止画として現れます。

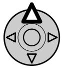
ヒストグラム（輝度）表示



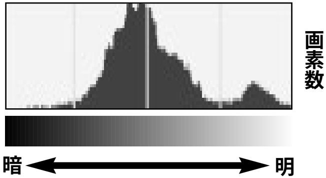
画像のヒストグラム（輝度分布）と撮影データが表示されます。

1コマ再生時およびクイックビュー中に、

・十字キーの上側を押すとヒストグラム表示になります。下側を押すと元に戻ります。



・左右キーを押すとコマを選択することができます。

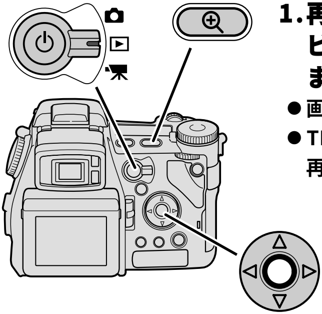


- 動画のヒストグラム表示はありません。
- 撮影前にヒストグラムを確認することもできます（フラッシュ非発光時のみ有効、詳しくは →P.45）。

※ヒストグラムについて →P.47

拡大再生

再生モードおよびクイックビュー中に、画像の一部を拡大することができます。



1. 再生モード位置またはクイックビュー中に、拡大ボタンを押します。

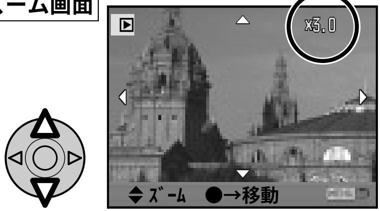
- 画像が2倍に拡大されます。
- TIFF画像、RAW画像および動画は拡大再生できません。



2. 十字キー中央の実行ボタンで、ズーム画面と移動画面を切り替えます。

- ズーム画面ではX2.0等の倍率が、移動画面では上下左右の△が青くなります。
- 実行ボタンを押すたびにこれらの画面が切り替わります。

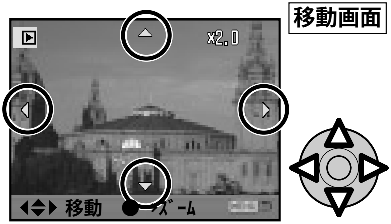
ズーム画面



ズーム画面では、十字キーの上下で倍率を選ぶことができます。

- 1.2倍～8倍（画像サイズによる、次ページ参照）の範囲内で、0.2倍ごとに倍率が選択できます。押し続けると早送りされます。
- 「●→移動」は、中央の実行ボタンで移動画面になる、という意味です。

移動画面



移動画面では、十字キーの上下左右で表示エリアを移動させることができます。

- 「●→ズーム」は、中央の実行ボタンでズーム画面になる、という意味です。

次ページへ続く

- ズーム画面での拡大倍率は画像サイズによって右の通りに変わります。
- ズーム画面では、前後ダイヤルを回しても倍率を変更することができます。

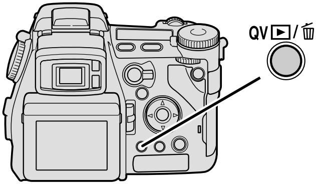
画像サイズ	拡大倍率範囲
2560×1920	1.2〜8倍
2080×1560	1.2〜6.4倍
1600×1200	1.2〜5倍
1280×960 (ﾃﾞｼﾞﾀﾙｽﾞｰﾑ時)	1.2〜4倍
640×480	1.2〜2倍



3.拡大ボタンまたはメニューボタンを押すと、通常の1コマ再生に戻ります。

- 表示切り替えボタン（i⁺）を押すと、拡大再生中の画面内の表示を消すことができます。

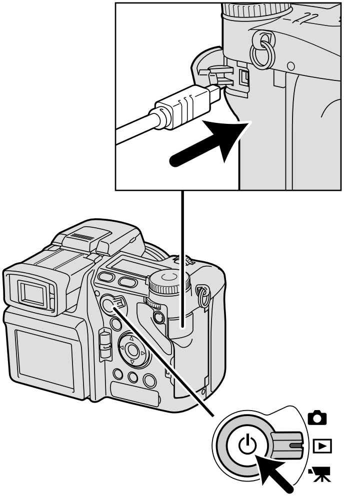
画像を手早く消去する



再生モード位置またはクイックビュー中にクイックビュー／消去ボタンを押すと、画像を1コマずつ簡単に消去することができます。操作方法についてはクイックビューの項目をご覧ください。→P.43

画像をテレビで見る

付属のAVケーブルAVC-400でカメラとテレビを接続して、撮影した画像をテレビに映して見ることができます。



1. テレビとカメラの電源を切ります。

2. AVケーブルのミニプラグ側を、カメラのAV出力端子に差し込みます。

● ミニプラグの△マークをカメラの背面側にしてください。

3. AVケーブルのもう一方の、黄色のプラグをテレビのビデオ入力端子（通常は黄色）に、白色のプラグを音声入力端子（通常は白色）に差し込みます。

4. テレビの電源を入れ、テレビの［入力切り替え］などで、ビデオ入力端子からの入力に切り替えます。

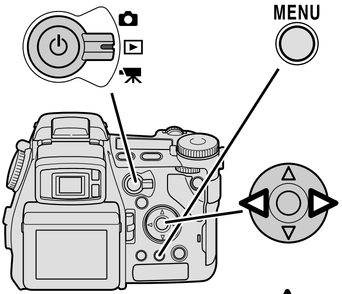
● 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

5. カメラのメインスイッチを入れ、モードダイヤルを ▶ 位置（再生モード）に合わせます。

● 上記の操作で、カメラの液晶モニターやファインダーに現れる画像が、そのままテレビに映ります。通常の再生モードと同様に表示の切り替えや音声の再生等行なうことができます。
● 音声はテレビ側から再生されます。
● カメラ背面の液晶モニターやファインダーは点灯しません。
● テレビに映る画像はパソコンの画像と比べると、システムの違いにより画質が多少劣化します。
● 上記の操作で万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→P.178

再生モードメニュー

モード切り替えレバーが再生モード位置 ▶ にあるときにメニューボタンを押すと、次ページの設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

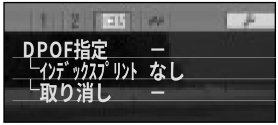


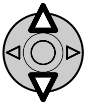
1.再生モード位置 ▶ で、メニューボタンを押します。

● メニュー画面が現れます。

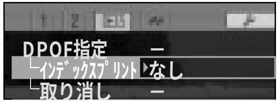


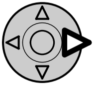
2.十字キーの左右で、▶ 1～3のいずれかを選びます。



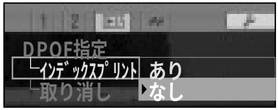


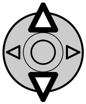
3.十字キーの上下で、希望の項目を選びます。



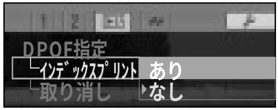


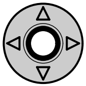
4.十字キーの右側で、設定内容を表示させます。



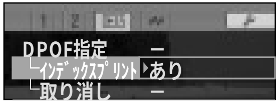


5.十字キーの上下で、希望の設定を選びます。





6.十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。





7.メニューボタンを押して元の画面に戻ります。



● 設定中にメニューボタンを押すと、設定が中断され、再生モードに戻ります。

▶1	
消去（P.148）	このコマ 全コマ コマを指定
フォーマット（P.150）	実行する
再生フォルダ（P.151）	○100MLT16
プロテクト（P.152）	このコマ 全コマ コマを指定 全コマ取り消し
画像コピー（P.154）	このコマ コマを指定
インデックス画面（P.156）	○9コマ 4コマ

▶2	
スライドショー（P.157）	実行する
スライドショー再生画像（P.158）	○全コマ コマを指定
スライドショー間隔（P.158）	1〜4秒 ○5秒 6〜60秒
スライドショー繰り返し（P.158）	あり ○なし

○印は初期設定値です。

▶3	
DPOF指定（P.159）	このコマ 全コマ コマを指定
DPOF指定インデックスプリント（P.162）	あり ○なし
DPOF指定取り消し（P.163）	フォルダ内全コマ カード内全コマ

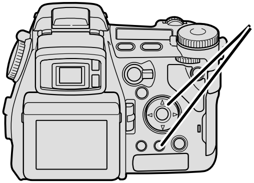
画像送信（P.216）	実行する
画像送信コマを指定	実行する
画像送信送信先	（ユーザー設定）
画像送信アクセスポイント	（ユーザー設定）
画像送信ダイヤル設定	実行する
画像送信設定読み込み	実行する

は通信モードメニューです。

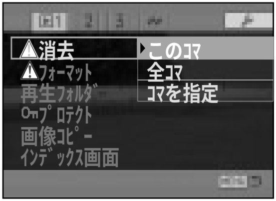
画像の消去

画像を消去します。以下の3通りの消去方法があります。
このコマ（1コマ消去）：再生中の画像を1コマだけ消去します。
全コマ消去：　　　　　フォルダ内の画像すべてを消去します。
コマを指定：　　　　　指定した画像だけを消去します。
※1コマずつ手早く消去する方法もあります。→P.43

いったん消去した画像を復活させることはできません。



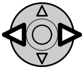
1. P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶1」→「消去」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



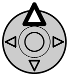
「このコマ」「全コマ」の場合
3の確認画面へ

「コマを指定」の場合
2でコマを指定後、3の確認画面へ

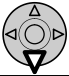
2.「コマを指定」の場合、十字キーで消去するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。



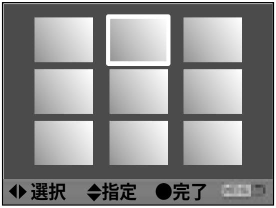
左右で
画像を選択

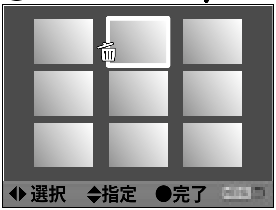


上側で
画像を指定

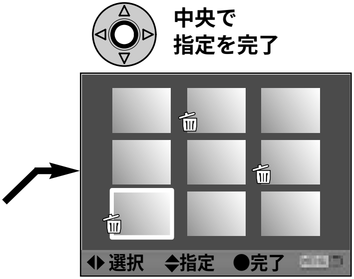


下側で
指定を解除



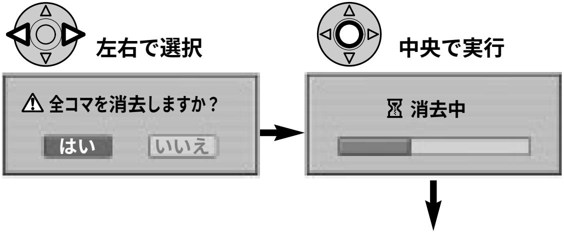


消去を指定したコマには🗑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

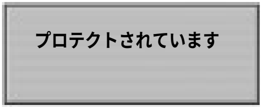


- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、3の確認画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

3.確認後、消去します。（下図は全コマ消去の場合）



消去完了
メニューボタンで元の画面へ



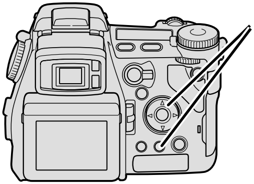
上のメッセージが現れる場合は、画像がプロテクト（誤消去防止）されています。該当する画像は消去できません。→P.152

- 3の画面で、「はい」を常に先に選択した状態にすることもできます。→P.195

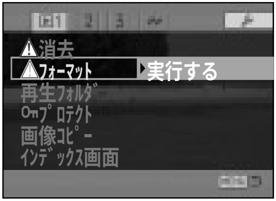
CFカードのフォーマット（初期化）

カード内の画像やフォルダをすべて消去するときには、CF（コンパクトフラッシュ）カードのフォーマットが便利です。

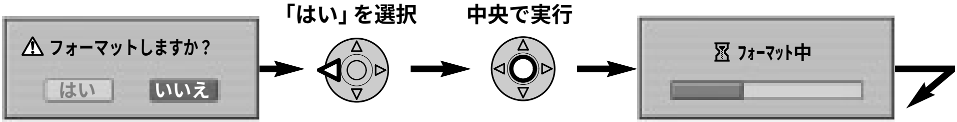
フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。



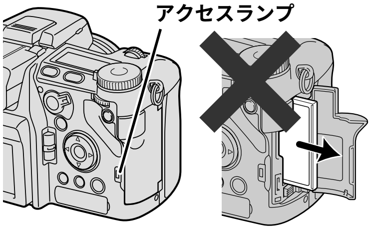
P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶1」→「フォーマット」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。



2.十字キーでカードのフォーマットを行ないます。







● フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はカードを抜かないでください。

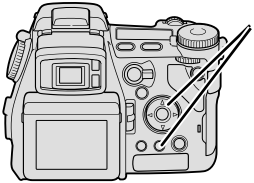
● カードのフォーマットは、原則としてこのページの要領でカメラ側で行なうことをおすすめします。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、フォーマットの形式によっては、カメラでカードが読めないことがあります。

※カメラでカードが読めないときは →裏表紙「よくあるお問い合わせ」のF28ページへ

再生フォルダの選択

画像を撮影すると、画像ファイルが作成され、カード内のフォルダに保存されます。画像の再生やスライドショー、全コマ消去や全コマプロテクト等は、カード単位でなくフォルダ単位で行われます（DPOF指定取り消しのカード内全コマを除く）。
フォルダが2つ以上存在する場合、再生モードにすると、通常は撮影した画像が保存されるフォルダ（撮影フォルダ）の画像が再生されます。異なるフォルダの画像を見たい場合、一時的に再生するフォルダ（再生フォルダ）を選ぶことができます。

※フォルダ構成、フォルダ名とファイル名、撮影フォルダ選択について →P.180〜182



P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶ 1」→「再生フォルダ」から希望のフォルダを選択し、実行ボタンを押します。



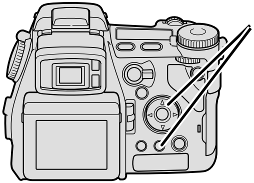
● ここで選んだ再生フォルダは、その時のみ有効です。いったん撮影モードに切り替えると、選んだ再生フォルダは解除されます。

※撮影フォルダを選択するときは →フォルダ選択、P.182

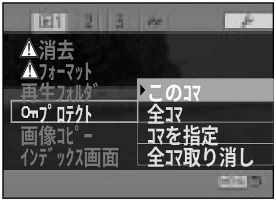
プロテクト（誤消去防止）

撮影した画像をロックし、間違って消去しないようにすることができます。以下の4通りのプロテクト方法があります。

このコマ（1コマプロテクト）：再生中の画像1コマだけにプロテクトをかけます。
1コマだけプロテクトを取り消す場合にも使用します。
全コマプロテクト：フォルダ内の画像すべてにプロテクトをかけます。
コマを指定：指定した画像だけにプロテクトをかけます。
全コマプロテクト取り消し：フォルダ内の画像すべてのプロテクトを取り消します。



1. P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶1」→「プロテクト」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



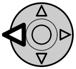
「このコマ」「全コマ」の場合
メニューボタンで元の画面へ

「コマを指定」の場合
2に進んでコマを指定

「全コマ取り消し」の場合



「はい」を選択



中央で実行



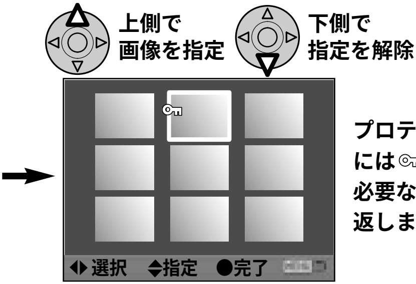
メニューボタンで元の画面へ

● 再生時、プロテクトのかかった画像には、液晶モニター／ファインダー内に🔑が表示されます。

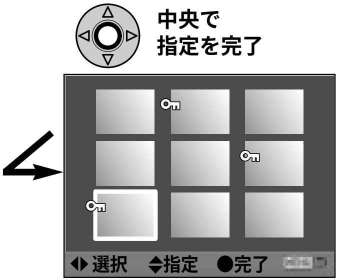


2.「コマを指定」の場合、十字キーでプロテクトをかける（または取り消す）コマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。





プロテクトを指定したコマには🔑が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

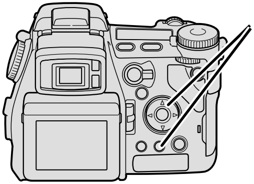


- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プロテクトが完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

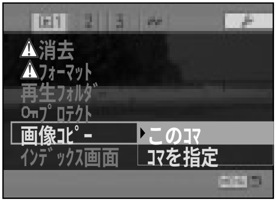
画像のコピー

あるCFカードに記録された画像を、別のCFカードにコピーすることができます。
このコマ（1コマコピー）：再生中の画像を1コマだけコピーします。
コマを指定：　指定した画像だけをコピーします。

1. コピーする画像が入ったCFカードをカメラに入れます。



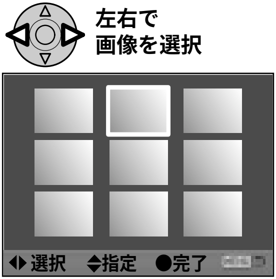
2. P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶ 1」→「画像コピー」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

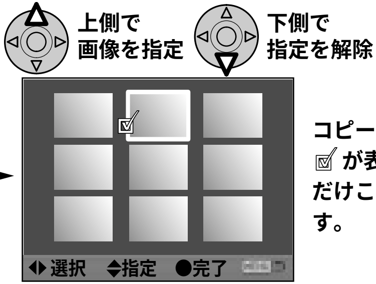


「このコマ」の場合
4のコピー実行へ

「コマを指定」の場合
3でコマを指定後、4のコピー実行へ

3.「コマを指定」の場合、十字キーでコピーするコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

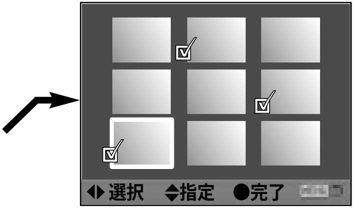




コピーを指定したコマには☑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。



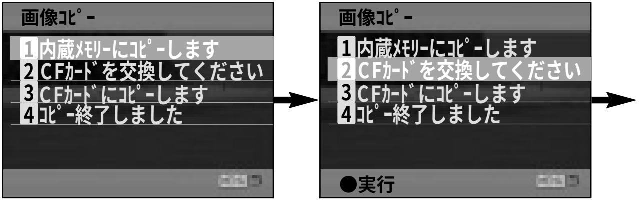
中央で
指定を完了



● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、4のコピー実行画面に進みます。
● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

4. 画面の指示に従ってコピーを続けます。

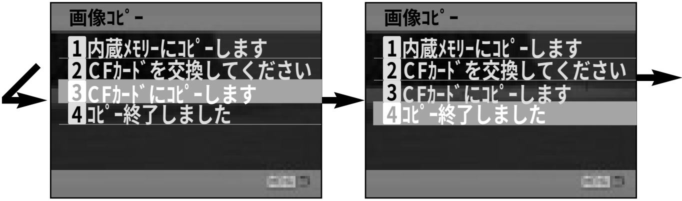
この状態でしばらく待ちます。





CFカードを交換した後、十字キー中央の実行ボタンを押します。
● CFカードを交換せずに同一カード内でコピーすることも可能です。
● メニューボタンで元に戻ります。

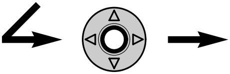
この状態でしばらく待ちます。





コピー先のフォルダ名が表示されます。
● コピーするたびに新しいフォルダが作成されます。

中央を押す



メニューボタンで
元の画面へ

次ページへ続く

画像のコピー（続き）

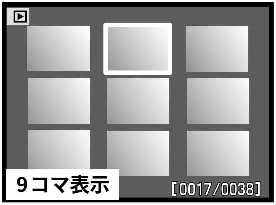
コピー中またはコピー後に、液晶モニターに以下のメッセージが現れた場合は

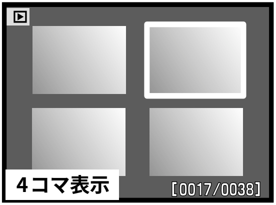
画像が多すぎます 指定し直してください	指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリにコピーできません。画像の数を減らして指定し直してください。（内蔵メモリには約29MBコピーできます。）
カードに空きがありません	指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリからCFカードにすべての画像をコピーすることはできませんでした。（一部コピーされた場合もあります。）

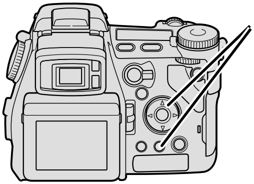
● コピーした画像が見つからない場合は、再生フォルダの選択で、"101MLTCP" 等 "MLTCP" の付いたフォルダを選んでください。→P.151

インデックス画面の切り替え

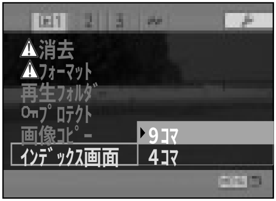
インデックス画面を、9コマ表示または4コマ表示に設定することができます。初期設定は9コマ表示です。





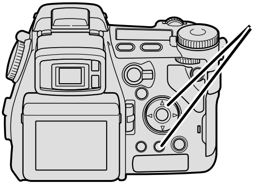


P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶1」→「インデックス画面」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



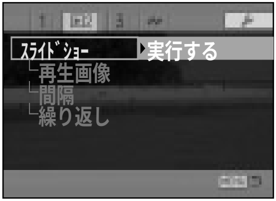
スライドショー（画像の自動再生）

カードに記録されている画像を、自動的に順番に表示させることができます。初期設定では、フォルダ内のすべての画像が最初から順に5秒ずつ表示されます。

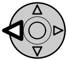


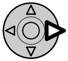
1. P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶2」→「スライドショー」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

● スライドショーが開始されます。



スライドショー再生中の操作

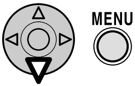

十字キー左で巻き戻し


十字キー右で早送り


十字キー中央で
一時停止・再生開始の繰り返し



現在の画像／総再生画像数



2. スライドショーを終えるときは、十字キーの下側またはメニューボタンを押します。

● 元の再生モードに戻ります。

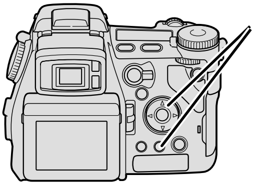
● 動画はスライドショーでは再生されません。

次ページへ続く

スライドショーの設定変更

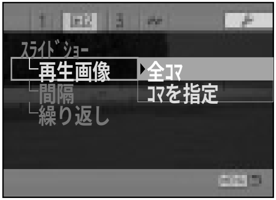
スライドショーの設定を以下の通り変更することができます。

再生画像：　全コマ再生／再生コマを指定
間隔（画像表示時間）：　1～60秒
繰り返し：　あり／なし



1. P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶2」から希望の項目と設定を選択し、実行ボタンを押します。

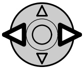
● 秒数を設定する際は、十字キーを押し続けると数値が早送りされます。

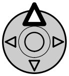


「再生画像」で「コマを指定」を選んだ場合
2に進んでコマを指定

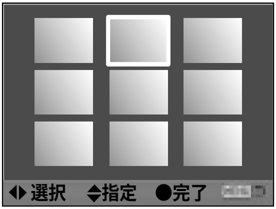
左記以外
続けて「スライドショー」「実行する」で
スライドショー再生 →前ページ

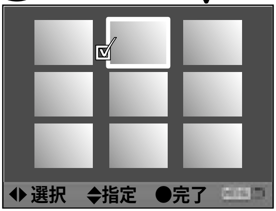
2.「コマを指定」の場合、十字キーでスライドショー再生するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。


左右で
画像を選択


上側で
画像を指定


下側で
指定を解除

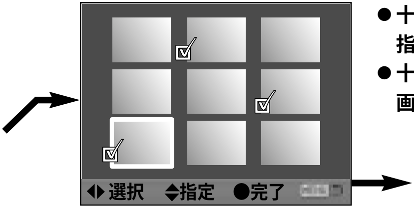




スライドショーを指定したコマには☑が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。



中央で
指定を完了



- **十字キー中央の実行ボタンを押すと、スライドショーのコマ指定は完了します。**
- **十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。**

続けて「スライドショー」「実行する」で
スライドショー再生 **→P.157**

- **動画を指定することはできません。**

DPOF（プリント）指定

このカメラでDPOF*指定したCF（コンパクトフラッシュ）カードを、DPOF対応のプリント店に渡せば、画像のプリントをしてもらうことができます。またDPOF対応のプリンタにCFカードをセットすると、パソコンを使わずに直接画像をプリントすることができます。このような場合に、どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめカメラで指定しておくことができます。

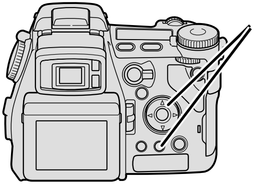
*DPOF＝ディーポフ、Ditigal Print Order Formatの略。CFカード等のメディアに入っているデータのうち、どれを印刷するのかを指定する方法。

次ページへ続く

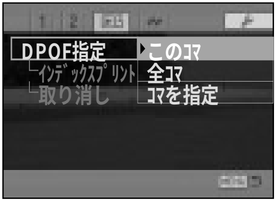
DPOF指定

どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の3通りの指定方法があります。
このコマ（1コマプリント）： 再生中の画像を1コマだけプリントします。
全コマプリント： フォルダ内の画像すべてをプリントします。
コマを指定： 指定した画像だけをプリントします。

● RAW画像と動画、およびAdobe RGB（ICC）で撮影した画像にはDPOF指定はできません。



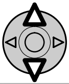
1. P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶ 3」→「DPOF指定」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



「このコマ」「全コマ」の場合
2に進んで枚数を指定

「コマを指定」の場合
3に進んでコマと枚数を指定

2.「このコマ」「全コマ」の場合、十字キーで希望の枚数を選んで実行します。
● 1コマプリントの場合、指定した1コマのプリント枚数を選ぶことができます（0～9枚）。
● 全コマプリントの場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0～9枚）。



上下で枚数を選択



中央で決定



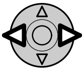
メニューボタンで元の画面へ



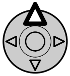
● 再生時、DPOF指定された画像には、液晶モニター／ファインダー内に🖶と枚数が表示されます。

3.「コマを指定」の場合、十字キーでDPOF指定するコマを指定して枚数を選び、中央の実行ボタンで実行します。

● コマ指定プリントの場合、各コマごとに希望のプリント枚数を選ぶことができます（0～9枚）。



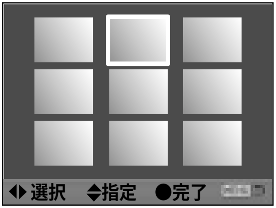
左右で
画像を選択

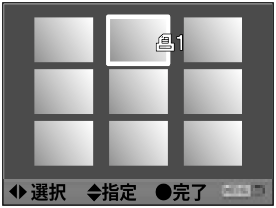


上側で
枚数を指定
（増やす）



下側で
枚数を指定
（減らす）

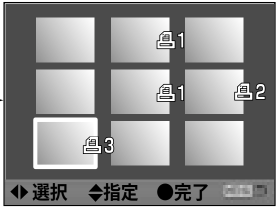




DPOF指定したコマには🖶が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。



中央で
指定を完了



● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プリント指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。



● 再生時、プリント指定された画像には、液晶モニター／ファインダー内に🖶と枚数が表示されます。

● 他のデジタルカメラでDPOF指定したカードをこのカメラに入れると、他のカメラでの設定はキャンセルされます。

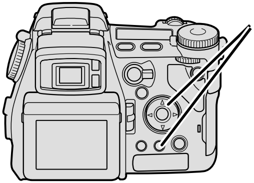
DPOF指定

インデックスプリント

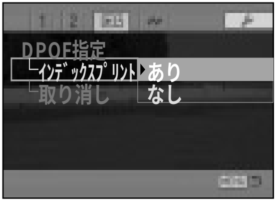


フォルダに記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます（インデックスプリント）。このカメラでは、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントの有無を指定することができます。初期設定ではインデックスプリントはされません。

- 1枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンタによって異なります。
- インデックスプリント設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。改めて設定してください。



P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶3」→「インデックスプリント」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



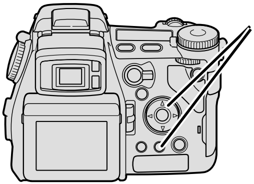
プリント指定の取り消し

159～162ページで指定したプリント指定をすべて取り消すことができます。インデックスプリントも取り消されます。

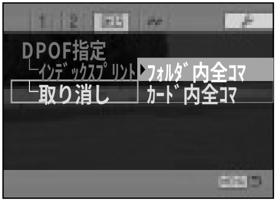
フォルダ内全コマ： フォルダ内のすべての画像のプリント指定を取り消します。

カード内全コマ：　CFカード内のすべての画像のプリント指定を取り消します。

※カードとフォルダの関係について →P.180



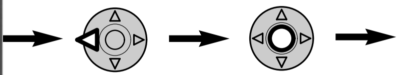
P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶3」→「取り消し」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



2.十字キーでプリント指定の取り消しを行ないます。

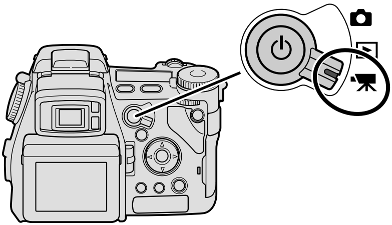


「はい」を選択　中央で決定



取り消し完了
メニューボタンで元の画面へ

動画撮影モード



この章では、動画撮影モードでの各種設定について説明しています。モード切り替えレバーは位置（動画撮影モード）に合わせてください。

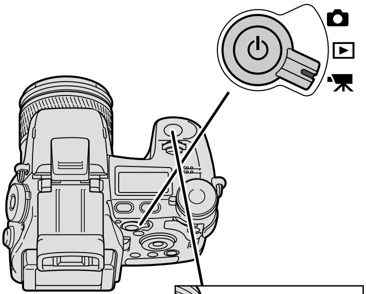
●動画の再生は、再生モード ▶ で行ないます。



動画撮影モード設定中は、ファインダー／液晶モニター内の左上にが現れます。

動画撮影

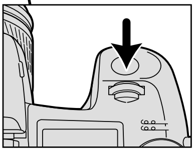
連続最長15分までの動画撮影を行なうことができます。音声（モノラル）も同時に記録されます。



1. モード切り替えレバーを🎥に合わせます。

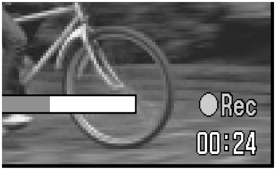
● 液晶モニター／ファインダーと上面データパネル右下に、撮影可能な残り秒数が表示されます。

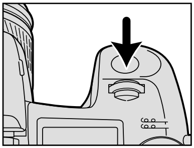




2. シャッターボタンを押して撮影を開始します。

● 撮影中は ● Recが表示されます。右下の数値は経過秒数です。





3. 撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

● 15分経過するかカードがいっぱいになると、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

● 動画のファイルサイズは、1秒あたり約522KBです。16MBのCFカードには、約19秒間記録することができます。

● 暗い場所で動画撮影を行なうと、撮像感度を上げるため自動的に画像がモノクロになります（ナイトムービー）。この機能を変更するには →P.168

次ページへ続く

動画撮影時の設定について

撮影中も切り替え可能	光学ズーム（ズームリングによるズーム）、マクロ撮影、手ぶれ補正、フォーカスモード
撮影前に設定可能、撮影中は切り替え不可	画面表示の切り替え、露出補正、ホワイトバランス、デジタルエフェクトコントロール（コントラスト補正、彩度補正、フィルター効果）、液晶モニターとファインダーの切り替え
動画での設定は固定	画像サイズ（QVGA / 320×240）、ファイル形式（Motion JPEG / MOV）、露出モード（Pモード）、撮像感度（オート）、測光モード（中央重点的平均測光）
動画での設定は不可	スポットAEロック、自動追尾AF、フルタイムAF、マニュアルフォーカス時のピント確認、ダイレクトマニュアルフォーカス、デジタルズーム、フラッシュ

ズームについて

● 動画撮影中にズームを行なうと、レンズ鏡銅がこすれる音（ザーという音）が入ります。

ピントについて

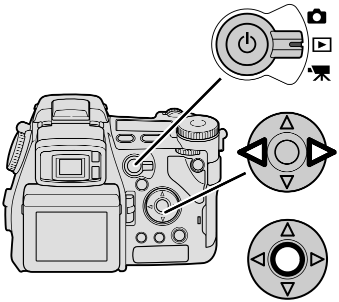
● ピントは画面の中央部分の被写体に合います。また動画撮影中もピント合わせは行われ続けます。

その他

● カードへの記録速度の関係上、カードによってはまれに、撮影残り時間があっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。

動画再生

撮影した動画を再生します。



1. モード切り替えレバーを再生モード位置▶に合わせます。

2. 十字キーの左右で再生したい動画を選びます。

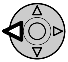


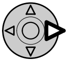
3. 十字キー中央の実行ボタンを押して、動画再生を開始します。

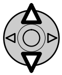
- 右上の数値は経過秒数です。
- 音声も同時に再生されます。



再生中の操作


十字キー左で巻き戻し


十字キー右で早送り


十字キー上下で音量の調節
動画一時停止中は、
上キーで動画開始画面に
下キーで動画終了画面に


十字キー中央で
一時停止・再生開始の繰り返し


表示切り替えボタンで
表示の有無の切り替え



最後まで再生されると、自動的に動画開始画面に戻ります。

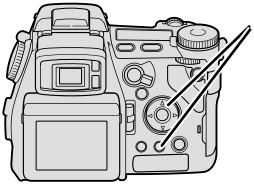
- 途中で終えるときは、メニューボタンを押してください。

- 動画再生中は、十字キーの左右でコマの切り替えを行なうことはできません。
- インターバル動画（P.74）も上記の方法で再生できます。1秒間に4コマの速度で再生されます。
- 動画のヒストグラム表示や拡大再生はできません。

ナイトムービー

暗い場所で動画撮影を行なうと、通常のカラーモードだと被写体が見にくくなります。このような場合にモノクロの動画撮影（ナイトムービー）を行なうと、暗い場所でも比較的被写体が見えやすくなります。初期設定では通常動画とナイトムービーが明るさに応じて自動的に切り替わりますが、意図的に切り替えることもできます。

● 静止画でのカラーモード（P.126）とは連動していません。



1. 動画撮影モード位置🎥で、メニューボタンを押します。

● 動画撮影メニューが現れます。操作方法は撮影モードメニューと同じです。



2. P.100の3～5の要領で、「🎥1」→「ナイトムービー」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押して決定します。

● メニューボタン押しまたはシャッターボタンの半押しで元の画面に戻ります。

通常動画／ナイトムービー自動切り替え

明るい場所では通常の動画撮影ですが、暗い場所で撮影を開始すると自動的にナイトムービーとなり、被写体がモノクロで見えやすく記録されます。

● ナイトムービーではカラー画像がモノクロ画像に変わるだけで、それ以外の条件（撮影方法、再生方法、ファイルサイズ等）は通常の動画と同じです。

ナイトムービーON

常にナイトムービーの状態になります。暗い場所での撮影が多く、モノクロで固定して撮影したい場合に便利です。

● 明るい場所では明るい部分が白くとびます。自動切り替えまたはOFFにすることをおすすめします。

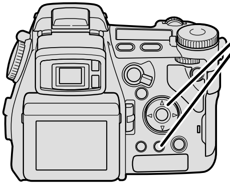
ナイトムービーOFF

ナイトムービーにはなりません。常にカラーで撮影したい場合にお使いください。

動画モードリセット

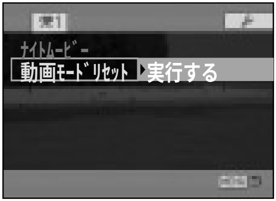
動画モードリセットを行なうと、カメラの動画撮影モードの主な設定がフルオートに戻ります。

●撮影モードリセット（P.117）が静止画用のリセットであるのに対し、こちらは動画用のリセットモードです。静止画には影響しません。

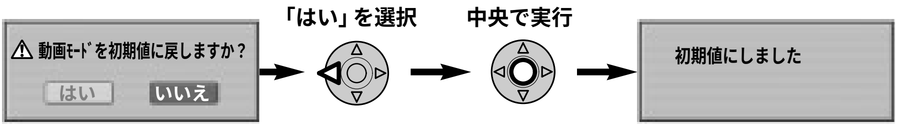


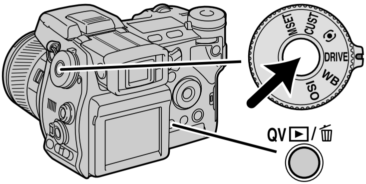
1.動画撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

●動画撮影メニューが現れます。操作方法は撮影モードメニューと同じです。



2.P.100の3〜5の要領で、「1」→「動画モードリセット」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。





● 動画撮影モード位置で、ファンクションボタンを押しながらクイックビュー／消去ボタンを押しても、動画モードリセットが実行されます。（その場合は、「はい」「いいえ」の確認画面は現れません。）

●動画モードリセットを実行すると、以下の項目がフルオートに戻ります。

・動画の露出補正（±0）
・動画の手ぶれ補正（作動）
・動画のホワイトバランス（オート）
・動画のコントラスト補正（±0）
動画の彩度補正（±0）
動画のフィルター効果（±0）
ナイトムービー（自動）

※一覧表は →P.236

セットアップモード

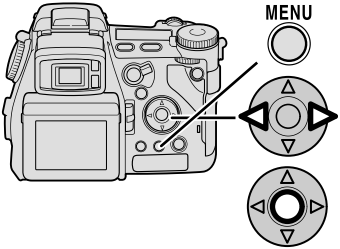


この章では、セットアップモードでの各種設定について説明しています。メニューが表示されている時に、を選択して十字キー中央の実行ボタンを押すと、セットアップモードに入ることができます。

- 撮影モード・再生モード・動画撮影モードのいずれのメニューからでも可能です。
- ファンクションボタンを押しながらメニューボタンを押すと、すぐにセットアップモードに入ることができます。

セットアップモードメニュー

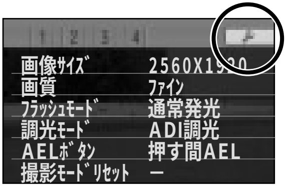
セットアップモード🔧には、どのモードからでも入ることができます。P.172～173の設定が可能です。十字キーを使って設定します。

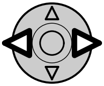


1. メニューボタンを押します。

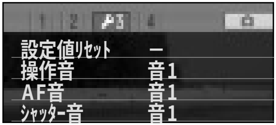
2. 十字キーの左右で🔧を選び、実行ボタンを押します。

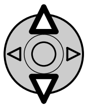
● セットアップメニュー画面が現れます。



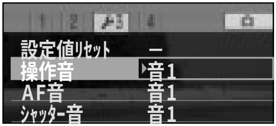


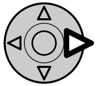
3. 十字キーの左右で、🔧1～4のいずれかを選びます。



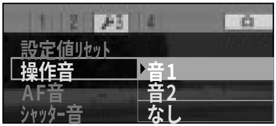


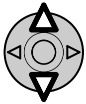
4. 十字キーの上下で、希望の項目を選びます。



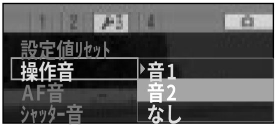


5. 十字キーの右側で、設定内容を表示させます。





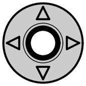
6. 十字キーの上下で、希望の設定を選びます。



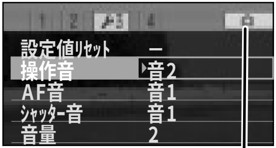


● 設定中にメニューボタンを押すと、設定が中断され、元のモードに戻ります。

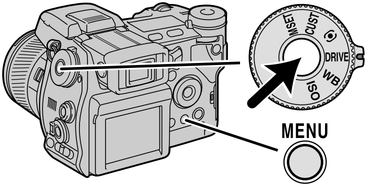
次ページへ続く



7.十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。



メニューボタンを押すか、 のいずれかを選んで実行ボタンを押すと、元のモードに戻ります。



上記の手順の代わりに、ファンクションボタンを押しながらメニューボタンを押すと、すぐにセットアップメニューに入ることができます。

1	
モニター明るさ（P.174）	モニター EVF
ショートカット一覧（P.175）	表示する
USB接続（P.176）	○マスストレージ PCコントロール
EVFオート設定（P.176）	○EVF／モニタ切り替え EVF 点灯／消灯
ビデオ出力（P.178）	○NTSC PAL
言語／Lang.（P.178）	○日本語／JPN English Deutsch Français Español

2	
CUSTの機能（P.179）	画像サイズ 画質 フラッシュモード 調光モード シャープネス ○カラーモード
ファイルNo.メモリー（P186）	あり ○なし
フォルダ形式（P.184）	○標準形式 日付形式
フォルダ選択（P.182）	○100MLT16
フォルダ選択 新規作成（P.182）	実行する
日時設定（P.187）	実行する

3	
設定値リセット（P.188）	実行する
操作音（P.190）	◯音1 音2 なし
AF音（P.190）	◯音1 音2 なし
シャッター音（P.190）	◯音1 音2 なし
音量（P.190）	3（大きい） ◯2 1（小さい） 0（消音）
パワーセーブ（P.191）	10分 5分 ◯3分 1分

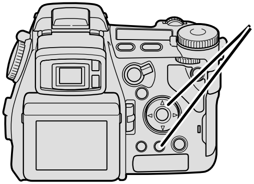
4	
手ぶれ補正（P.191）	◯標準 露光中のみ
フルタイムAF（P.192）	◯あり なし
グリップセンサー（P.192）	◯有効 無効
PASモード時のダイヤル（P.193）	◯ シャッター 絞り シャッター ＋／－ 絞り ＋／－ 絞り シャッター ＋／－ シャッター ＋／－ 絞り
Mモード時のダイヤル（P.194）	◯ シャッター 絞り 絞り シャッター プログラムドマニュアル
消去確認画面（P.195）	"はい"が先 ◯"いいえ"が先

◯印は初期設定値です。

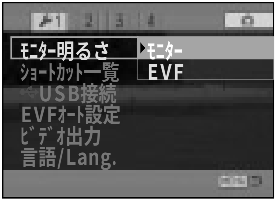
液晶モニターとファインダー（EVF）の明るさ調整

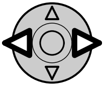
液晶モニターとファインダー（EVF）の明るさを調整することができます。

- **明るさは、1～5の5段階から選択することができます。初期設定は3です。**
- **EVFの明るさを調整するときは、EVFをのぞいて調整してください。**



1. P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「モニター明るさ」から、モニター（液晶モニター）またはEVF（ファインダー）を選択し、実行ボタンを押します。

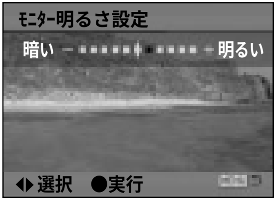


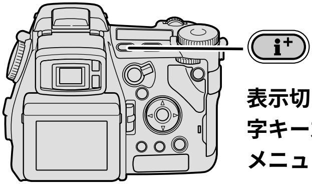


2. 十字キーの左右で、モニターの明るさを調整します。



3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

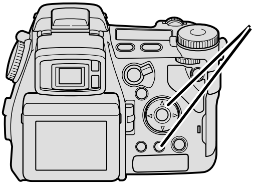




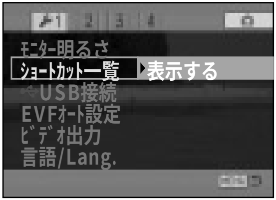
表示切り替えボタンを押し続けても、上の明るさ調整画面が現れます。十字キー左右で調整後、中央の実行ボタンを押してください。セットアップメニューに入る必要はありません。

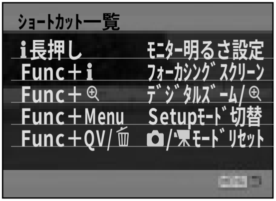
ショートカット一覧

このカメラにはいくつかのショートカットキーがあり、メニューで選ばなくても、素早く操作することができます。ショートカットの一覧を表示させることができます。



P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「ショートカット一覧」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。





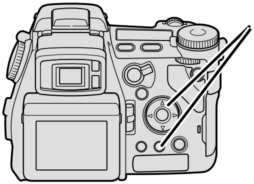
液晶モニター表示		説明	ﾍﾟｰｼﾞ
i 長押し	モニター明るさ設定	液晶モニターとファインダー（EVF）の明るさを調整する	174
Func + i	フォーカシングスクリーン	フォーカシングスクリーン（画面の背景表示）を切り替える	46
Func + 🔍	デジタルズーム／🔍	拡大ボタンの機能がデジタルズームになっているときは、Func + 🔍 でMFピント確認 拡大ボタンの機能がMFになっているときは、Func + 🔍 でデジタルズーム	132
Func + Menu	Setupモード切り替え	セットアップモードに切り替える	172
Func + QV／🗑	📷／🎥モードリセット	撮影モードリセットまたは動画モードリセットを行なう（その時に選択しているモードの方）	117 169

USB接続の種類

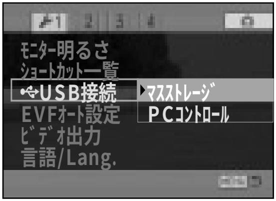
カメラをUSBケーブルでパソコンに接続する際の、接続の種類を選ぶことができます。

マスストレージ： カメラで撮影した画像をパソコンに取り込む時に使用します。カメラがUSBマスストレージとしてパソコンに認識されます。

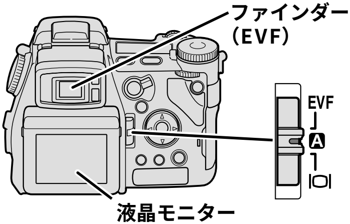
PCコントロール： 別売りのDiMAGE Capture（ディマージュキャプチャー）を用いて、パソコンからカメラを操作する場合に使用します。



P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「USB接続」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

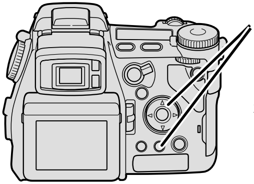


EVFオート設定の機能変更

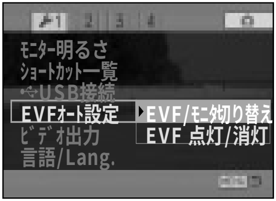


撮影モードまたは動画撮影モードでは、画像はカメラ背面の液晶モニターまたはファインダー（EVF）に表示されます。

ディスプレイ切り替えレバーには、画像の表示場所が自動的に切り替わるⒶ（AUTO）があります。その機能を変更し、液晶モニターをOFFにして、電池の消耗を最小限に抑えることができます。



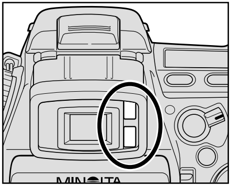
P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「EVFオート設定」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



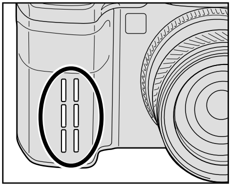
EVFオート設定／レバーの位置	EVF／モニター切り替え（初期設定）	EVF 点灯／消灯
EVF	ファインダーにのみ常時表示	ファインダーにのみ常時表示
A	ファインダーをのぞいているときにはファインダーに表示、のぞいていないときは液晶モニターに表示	カメラを持ってファインダーをのぞいているときにはファインダーに表示、それ以外はファインダー・液晶モニターともに画像表示なし
|◯|	液晶モニターにのみ常時表示	液晶モニターにのみ常時表示

- 上の表の■部分（EVFオート設定が「EVF 点灯／消灯」、ディスプレイ切り替えレバーがA位置）のときが、電池の消耗が最小になります。
- 上の表の右側の「EVFの点灯／消灯」が機能するのは、撮影モード📷および動画撮影モード🎥のみです。再生モード▶では「EVF／モニター切り替え」と同様、A位置でファインダーをのぞいていなければ液晶モニターに画像が表示されます。

アイセンサーとグリップセンサー



アイセンサー



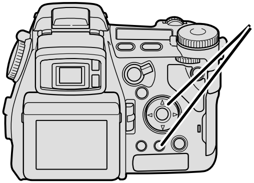
グリップセンサー

撮影者がファインダーをのぞいているかいないかを判別するために、このカメラにはアイセンサーとグリップセンサーの2つが搭載されています。
上記で「EVF／モニター切り替え」設定時は、アイセンサーが有効となり、撮影者がファインダーをのぞくのを検知して、画像の表示場所を切り替えます。「EVF 点灯／消灯」時は、アイセンサーとグリップセンサーの両方が有効となり、両方が検知されれば（＝撮影者がグリップを握ってファインダーをのぞけば）ファインダーに画像が表示されます。

- アイセンサーとグリップセンサーは、フルタイムAF（P.192）の開始・終了にも使われています。
- グリップセンサーを検知させるためには、グリップをしっかり握ってください。手袋をしているときなどグリップセンサーが検知されない場合は、あらかじめグリップセンサーを無効にしておくことができます。→P.192

ビデオ出力形式の切り替え

ビデオの信号形式には数パターンがあり、国によって異なります。日本やアメリカ等ではNTSC、ヨーロッパの多くの国々ではPALが採用され、両者の間には互換性がありません。このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式に設定してください。
このカメラでは、NTSCとPALの2つの設定が可能です。

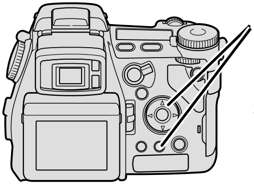


P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「ビデオ出力」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



言語設定

液晶モニターやファインダーに表示される言語を、5カ国語の中から選ぶことができます。



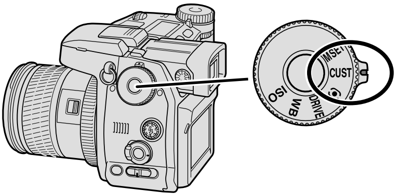
P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「言語／Lang.」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

●選べる言語は以下の通りです。

- ・日本語
- ・英語（English）
- ・ドイツ語（Deutsch）
- ・フランス語（Français）
- ・スペイン語（Español）

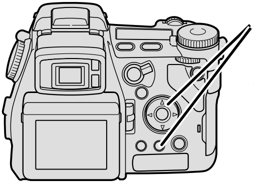


ファンクションダイヤルのCUST位置の機能

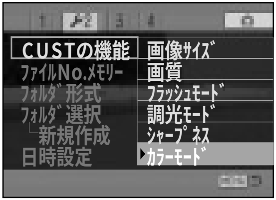


ファンクションダイヤルのCUSTの位置（カスタムポジション）に、よく使う機能を割り当てることができます。以下の6つの中から1つ選ぶことができます。撮影モードメニューに入らずに、手早く設定を変更することができます。

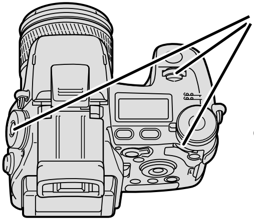
- ・画像サイズ
- ・画質
- ・フラッシュモード
- ・調光モード
- ・シャープネス
- ・カラーモード



P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「CUSTの機能」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



撮影方法



P.64の要領で、カスタムポジションCUST選択後、ファンクションボタンと前または後ダイヤルで希望の設定を選びます。

● この方法で設定を変更すると、撮影モードメニューにもその内容が反映されます。

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つまたは2つのファイルが作成され、CFカード内のフォルダに保存されます。カード内の主なファイルとフォルダの構成は以下の通りです。

- カード
  - DCIM
    - 100MLT16（撮影した画像の入るフォルダ）
      - PICT0001.JPG　スタンダード・ファイン・エクストラファインの場合、JPEGファイルが1つ作成されます。
      - PICT0002.TIF / PICT0002.THM　TIFFの場合、TIFFファイルとサムネールファイルが作成されます。
      - PICT0003.MRW / PICT0003.THM　RAWの場合、RAWファイルとサムネールファイルが作成されます。
      - PICT0004.MOV / PICT0004.THM　動画の場合、MOV（動画）ファイルと開始時のサムネールファイルが作成されます。
      - PICT0005.JPG / PICT0005.WAV　ボイスメモ付き画像の場合、画像と同時にWAVE（音声）ファイルが作成されます。
      - PICT0006.JPE / PICT0006.THM　カラープロファイルを埋め込んだJPEGファイルの場合、拡張子は.JPEになり、サムネールファイルも作成されます。
    - 101MLTCP　コピーされた画像は"MLTCP"というフォルダに入ります。→P.155
    - 10230720　日付別にフォルダを作成することもできます。→P.184
    - （新規フォルダ）103xxxxx　新規フォルダを作成して任意の名前を付け、撮影した画像をその中に記録していくことも可能です。→P.182
      - ● コピーした画像を新規フォルダに入れることはできません。
  - MISC　DPOF（プリント）指定を行なうと作成されます。→P.159
    - ● 削除すると設定したプリント指定が取り消されます。

フォルダ名とファイル名

フォルダ名について

例：　100 MLT16

フォルダ番号（100〜）　識別文字

フォルダ名は、フォルダ番号3桁＋識別文字5文字、から成り立っています。
フォルダ番号（フォルダの通し番号）は100から始まり、フォルダが作成されるたびに1つずつ増えて行きます。
識別文字の "MLT" はミノルタを、"16" はこのカメラ（DiMAGE A1）を意味します。画像をコピーすると "MLTCP" というフォルダが作成されます。日付別にフォルダを自動的に作成したり（P.184）、新規フォルダを作成して任意の識別文字を付けたり（P.182）することもできます。

- フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか（P.197〜）、カメラ側でカードをフォーマットしてください（P.150）。

ファイル名について

例：　PICT 0001 .JPG

ファイル番号（0001〜）　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

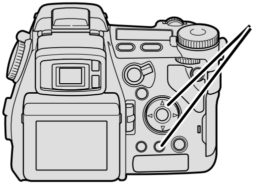
PICTの後の4桁のファイル番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。

- カメラ側で消去された画像のファイル番号は欠番となります。フォルダ内の画像をすべて消去すると、ファイル番号は再び0001から始まります（ファイルNo.メモリーなしの場合、P.186）。
- "PICT9999"まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（前ページの場合だと "104MLT16" ）、その中で再び"PICT0001"から画像の記録が開始されます。
- フォルダを変更すると、初期設定では常にファイル名は"PICT0001"から始まります（ファイルNo.メモリーなしの場合、P.186）。
- お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

フォルダ選択

フォルダが2つ以上存在する場合、撮影した画像が保存されるフォルダ（撮影フォルダ）を選ぶことができます。

● 再生もフォルダ単位で行われます。通常は撮影フォルダの画像が再生されますが、一時的に任意の再生フォルダを選択することもできます。→P.151



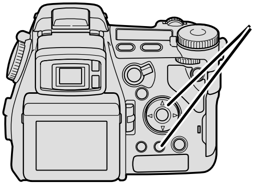
P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「フォルダ選択」から希望のフォルダを選択し、実行ボタンを押します。



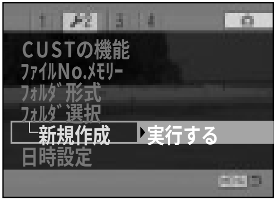
新規フォルダの作成

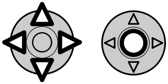
ご自分で新規にフォルダを作成して任意の名前を付けることができます。場面別にファイルを管理するときに便利です。

● 日付形式フォルダ（P.184）と併用することはできません。日付形式フォルダにしていると、撮影した画像は新規フォルダでなく常に日付形式フォルダに保存されます。



1. P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「新規作成」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。





2. フォルダ名を入力します。十字キーの上下左右で文字を選択し、中央の実行ボタンで文字を1つずつ確定して行きます。

● 最初のフォルダ番号3桁はすでに入力されており（変更不可）、続く5文字を入力することができます。



● 入力文字は必ず5文字にしてください。それ以外の文字数は設定できません。
● "_"（アンダーバー）以外の記号およびカタカナや小文字は使用できません。

入力した文字の削除

1. カーソルを入力済み部分（上記の場合は「PARIS」）に移動させます。
2. 十字キーの左右で、削除したい文字を反転させます。
3. QV▶/🗑 ボタンを押して削除します。

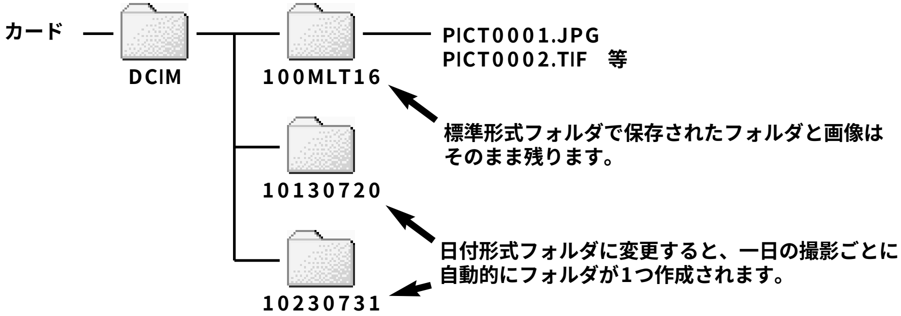
文字の上書き

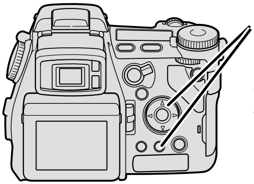
1. カーソルを入力済み部分（上記の場合は「PARIS」）に移動させます。
2. 十字キーの左右で、上書きしたい部分を反転させます。
3. 上書きする文字を選び、十字キーの中央を押して上書き文字を決定します。

3. 文字を入れ終わると「Enter」を選び、十字キー中央の実行ボタンで確定させます。

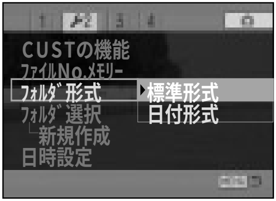
フォルダを日付別に分ける（日付形式フォルダ）

初期設定の標準形式フォルダ（100MLT16等）を日付形式フォルダに変更し、日付別のフォルダに分けて保存や再生を行なうことができます。





P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「フォルダ形式」から「日付形式」を選択し、実行ボタンを押します。



フォルダを日付形式に変更すると、フォルダ名は以下の通りに表されます。

西暦（下1桁）　月　日

例：101 3 07 20

フォルダ番号 →P.181

● 撮影した画像は必ず日付別のフォルダに保存されます。撮影フォルダの選択（P.182）はできません。他のフォルダの画像を再生するには、一時的に再生フォルダを選択してください。→P.151
● 新規フォルダの作成（P.182）はできません。
● 初期設定では、フォルダが変わるたびに中のファイル番号はPICT0001に戻ります。※通し番号にするには →ファイルNo.メモリー、P.186

日付形式フォルダにした場合の再生について

撮影も再生もフォルダ単位で行われます。日付形式フォルダで撮影するとその日の日付のフォルダが作成され、そのままだと再生もその日に撮影した分しか再生できません。前日までに撮影した画像を見る場合は、再生フォルダの選択で、一時的に見たい日のフォルダを選択してください。

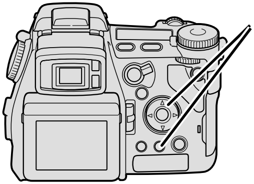
※撮影フォルダの選択 →P.182、再生フォルダの選択 →P.151

ファイルNo.メモリー

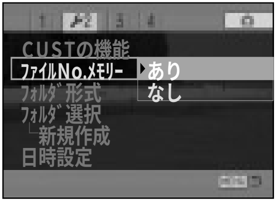
フォルダが変わると、初期設定のファイルNo.メモリー「なし」では、ファイル名は再び "PICT0001" から始まります。これを続き番号にすることができます。

なし：ファイルNo.メモリーは機能しません。撮影フォルダを変えたり、日付形式フォルダで日付が変わってフォルダが変わったりすると、ファイル番号は0001に戻ります。同一フォルダ内にすでにファイルが存在する場合は、その続き番号から始まります。

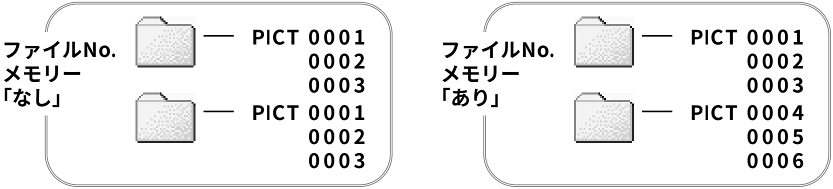
あり：ファイルNo.メモリーが機能します。フォルダの変更、全画像の消去、カードの交換やフォーマットを行なっても、ファイル番号はそのまま続きます。



P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「ファイルNo.メモリー」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



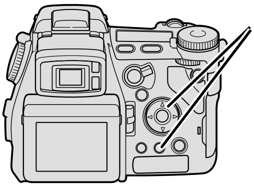
イメージ図



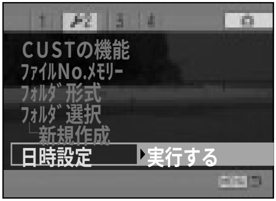
日時設定

日時や年月日の並び順の修正が必要な場合は、以下の手順で行なってください。

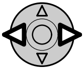
● 2099年までの日付が記憶されており、撮影のたびに数値を設定する必要はありません。



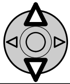
1. P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「日時設定」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。



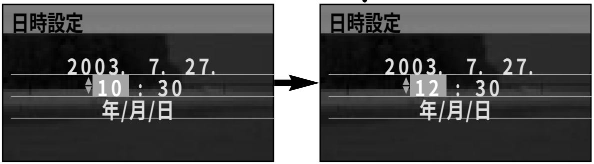
2. 十字キーで、日時と年月日の並び順を設定します。



左右で項目を選択



上下で選択



必要なだけこの操作を繰り返します。

● 十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。

● メニューボタンを押すと、設定した数値はキャンセルされ元の画面に戻ります。

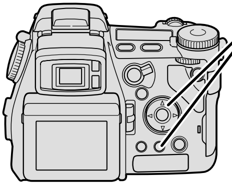


3. 十字キー中央の実行ボタンを押すと、時計がスタートします。

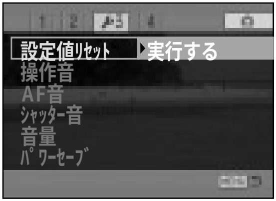
※メインスイッチを入れると時計がリセットされる場合は
→裏表紙「よくあるお問い合わせ」F27ページ

設定値リセット

カメラのほとんどの設定を、お買い上げ時の初期設定に戻すことができます。



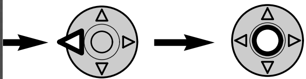
1. P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧3」→「設定値リセット」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。



2. 十字キーで設定値のリセットを行ないます。



「はい」を選択　　中央で実行



リセットされる内容は以下の通りです。

ダイヤルやボタンで設定するもの

項目	設定	ページ
画面表示	撮影データあり 標準	45 46
露出補正	±0	52
調光補正	±0	54
デジタルズーム	解除	55
手振れ補正	作動	56
ドライブモード	1コマ撮影	66
ブラケット撮影	連続露出ブラケット	67
連続撮影	（通常）連続撮影	70
インターバル撮影	静止画のみ	72
セルフタイマー撮影	10秒セルフタイマー	75

項目	設定	ページ
ホワイトバランス	オート（自動設定）	77
プリセットホワイトバランスの微調整	0	78
カスタムホワイトバランス	昼光	80
撮像感度	オート（自動設定）	82
測光モード	多分割測光	83
登録	フルオート	85
コントラスト補正	±0	89
彩度補正	±0	90
フィルター効果（カラー）	±0	90
フィルター効果（白黒）	0	90
フォーカスエリア	ワイド	91

撮影モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
画像サイズ	2560×1920	102
画質	ファイン	104
フラッシュモード	通常発光	108
ワイヤレスチャンネル	CH1	113
調光モード	ADI調光	114
内蔵マニュアル発光	1/4	115
AEロックボタン	押す間AEロック	116
インターバル撮影間隔	1分	72
インターバル撮影枚数	2枚	72
インターバル撮影開始	今から	72
ブラケット設定	0.3段	118
写し込み	なし	119
写し込み場所	画像上＋Exif	122
アフタービュー	なし	123
ボイスメモ	なし	124
カラーモード	ナチュラル（sRGB）	126
シャープネス	標準	129
ノイズリダクション	あり	130
モニター自動感度アップ	あり	130
Mモード時のモニター	露出設定に従う	131
拡大ボタン	デジタルズーム	132
シーンセレクター設定	シーン選択	134
自動追尾AF	あり	135
半押しAEロック	標準	136
スポット測光エリア	中央固定	137
DMF	なし	137

動画モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
ナイトムービー	自動	168

再生モードメニュー

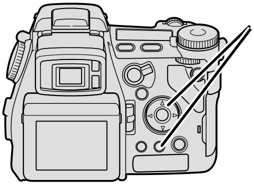
項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
画面表示	撮影データあり	140
インデックス画面	9コマ	156
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ再生画像	全コマ	158
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ間隔	5秒	158
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ繰り返し	なし	158
通信情報（メールアドレス、ユーザー名等）	削除	216｜233

セットアップモードメニュー

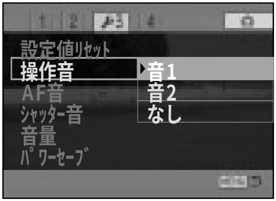
項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
モニター明るさ	標準	174
EVF明るさ	標準	174
USB接続	マスストレージ	176
EVFオート設定	EVF/モニタ切り替え	176
CUSTの機能	カラーモード	179
ファイルNo.メモリー	なし	186
フォルダ形式	標準形式	184
操作音	音1	190
AF音	音1	190
シャッター音	音1	190
音量	2	190
パワーセーブ	3分	191
手振れ補正	標準	191
フルタイムAF	あり	192
グリップセンサー	有効	192
PASﾓｰﾄﾞ時のﾀﾞｲﾔﾙ	前：ｼｬｯﾀｰ　後：絞り	193
Mﾓｰﾄﾞ時のダイヤル	前：ｼｬｯﾀｰ　後：絞り	194
消去確認画面	"いいえ"が先	195

操作音と音量の設定

カメラを操作すると操作音が出ます。その音や音量を変えることができます。



1. P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧3」から「操作音」「AF音」「シャッター音」「音量」のいずれかの項目と設定を選択し、実行ボタンを押します。



操作音、AF音、シャッター音は音1、音2、なしの3つから、音量は4段階から選ぶことができます。音量は、操作音、AF音、シャッター音のすべてに反映されます。

操作音	ボタンを押す、ダイヤルを回す等カメラの操作時に出る音	音1（電子音をベースにした音）
		音2（機械音をベースにした音）
		なし（音は出ません）

AF音	AF（オートフォーカス）でピントが合った時に出るピント確認音	音1（ミノルタα-7のAF音）
		音2（オリジナルAF音）
		なし（音は出ません）

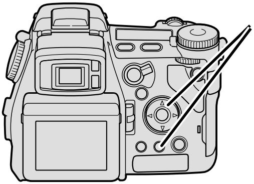
シャッター音	シャッターを切った時に出る音	音1（ミノルタα-9のシャッター音）
		音2（ミノルタCLEのシャッター音）
		なし（音は出ません）

音量	3（大きい）
	2（中）
	1（小さい）
	0（消音）

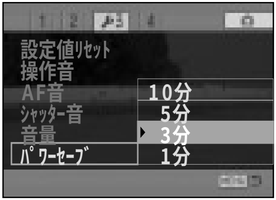
パワーセーブまでの時間変更

このカメラは、初期設定では約3分以上何も操作をしないでいると、自動的に省電力設定になり、液晶モニターやファインダーが消灯します（パワーセーブ →P.28）。このパワーセーブまでの時間を、1分、3分、5分、10分のいずれかに変更することができます。

●約30分間何も操作をしないでいると、完全に電源が切れます。

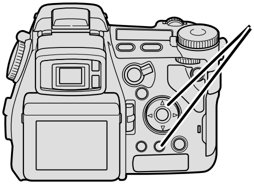


P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧3」→「パワーセーブ」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

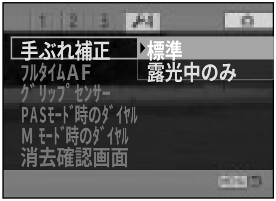


手ぶれ補正機能の作動設定

手ぶれ補正ボタンが点灯している間は、シャッターボタンを半押しすると、手ぶれ補正機能が作動し始めます。シャッターボタン半押し中の画像の動きが不自然に感じる場合、手ぶれ補正機能の作動を露光中のみに制限して、半押し中の手ぶれ補正機能を解除することができます。



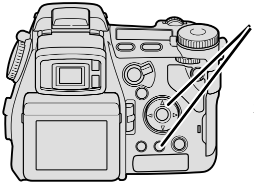
P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧4」→「手ぶれ補正」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



●カメラを構えた直後やシャッター速度が遅い場合には、「露光中のみ」だと手ぶれ補正の効果が現れにくくなります。このような場合は、「標準」設定にすると改善されることがあります。

フルタイムAF

フレックスフォーカスポイント（P.91）およびコンティニュアスAF（AF-C、P.93）設定時は、初期設定では、シャッターボタンを半押ししなくてもカメラを構えると自動的にピント合わせが開始され、すぐにシャッターが切れる状態になっています（フルタイムAFあり）。この機能を解除して、シャッターボタンの半押しによりピント合わせを開始させることができます。ピントの動きが気になるときや、電池の消耗を減らしたい場合に便利です。



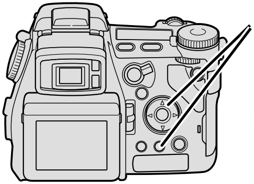
P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧4」→「フルタイムAF」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



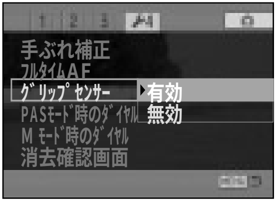
● フルタイムAFの開始と終了には、アイセンサーとグリップセンサーが使用されます。画像がファインダー（EVF）に表示されているときは両方が有効、液晶モニターに表示されているときはグリップセンサーのみ有効です。

グリップセンサーの検知

フルタイムAFが機能している場合（上記）や、ディスプレイ切り替えレバーが A 位置で「EVF 点灯／消灯」に設定している場合（P.176）は、撮影者がカメラを構えているかどうかの判別にグリップセンサーが使われます（グリップセンサー有効）。手袋をしている場合や三脚での撮影、また手が乾燥してグリップセンサーの検知が難しい場合は、グリップセンサーを無効（常に検知している状態）にすることができます。

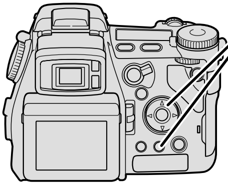


P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧4」→「グリップセンサー」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



P／A／Sモード時のダイヤル

Pモードでは、前ダイヤルでPsシフト、後ダイヤルでPAシフトになり、AモードやSモードではどちらのダイヤルでも絞り値またはシャッター速度が設定されます。これらを以下の通り変更することができます。露出補正を頻繁に行なう場合は、ダイヤルに露出補正を割り当てると便利です。



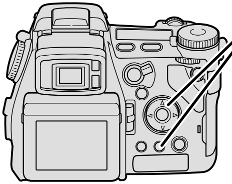
P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧4」→「PASモード時のダイヤル」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



<table>
<tr><th></th><th>Pモード</th><th>Aモード</th><th>Sモード</th></tr>
<tr><td>シャッター　絞り
（初期設定）</td><td>前ダイヤルでPsシフト
（シャッター速度設定）
後ダイヤルでPAシフト
（絞り値設定）</td><td>前後ダイヤルで
絞り値設定</td><td>前後ダイヤルで
シャッター速度設定</td></tr>
<tr><td>シャッター　+／−</td><td>前ダイヤルでPsシフト
後ダイヤルで露出補正</td><td rowspan="2">前ダイヤルで絞り値設定
後ダイヤルで露出補正</td><td rowspan="2">前ダイヤルで
シャッター速度設定
後ダイヤルで露出補正</td></tr>
<tr><td>絞り　+／−</td><td>前ダイヤルでPAシフト
後ダイヤルで露出補正</td></tr>
<tr><td>絞り　シャッター</td><td>前ダイヤルでPAシフト
後ダイヤルでPsシフト</td><td>前後ダイヤルで
絞り値設定</td><td>前後ダイヤルで
シャッター速度設定</td></tr>
<tr><td>+／−　シャッター</td><td>前ダイヤルで露出補正
後ダイヤルでPsシフト</td><td rowspan="2">前ダイヤルで露出補正
後ダイヤルで絞り値設定</td><td rowspan="2">前ダイヤルで露出補正
後ダイヤルで
シャッター速度設定</td></tr>
<tr><td>+／−　絞り</td><td>前ダイヤルで露出補正
後ダイヤルでPAシフト</td></tr>
</table>

Mモード時のダイヤル

Mモードでは、初期設定では前ダイヤルでシャッター速度、後ダイヤルで絞り値が設定されます。これを入れ替えることができます。また、Mモードでシャッター速度と絞り値を決めた後、そのまま露出をずらして露出補正的な効果を得る（プログラムドマニュアル）ことも可能です。



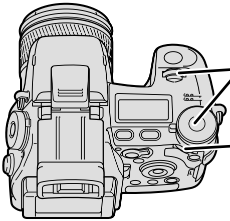
P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧4」→「Mモード時のダイヤル」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



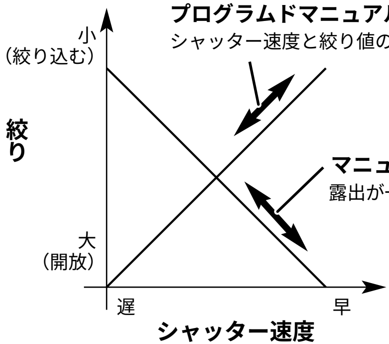
シャッター　絞り （初期設定）	前ダイヤルでシャッター速度設定 後ダイヤルで絞り値設定
絞り　シャッター	前ダイヤルで絞り値設定 後ダイヤルでシャッター速度設定
プログラムドマニュアル	前ダイヤルまたは後ダイヤルで プログラムドマニュアル

プログラムドマニュアル

Mモードで、プログラムラインに沿って被写体の明るさを決めることができます（プログラムドマニュアル）。その後、マニュアルシフト（P.63）でシャッター速度と絞り値の組み合わせを変えて使うと便利です。



1. 撮影モードダイヤルをMに合わせます。
2. 前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、被写体の明るさを決めます（プログラムドマニュアル）。
3. 必要ならば、AEロックボタンを押しながら前ダイヤルを回して、希望のシャッター速度と絞り値の組み合わせを選びます（マニュアルシフト）。

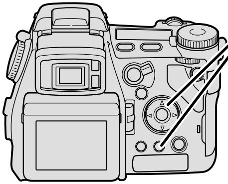


- **プログラムドマニュアルを設定した場合、シャッター速度と絞り値を個別に設定することはできません。**

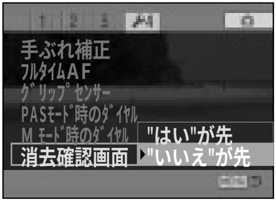
消去確認画面

画像消去の際に、「このコマを消去しますか？」等の確認画面が現れます。通常はあらかじめ "いいえ" が選択された状態になっていますが、これを "はい" を先に選択した状態にすることができます。





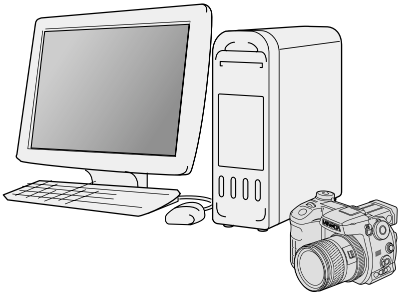
P.171の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧4」→「消去確認画面」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。



パソコンへの接続

パソコンをお持ちの場合、撮影した画像をパソコンに取り込み、保存や整理を行なうことができます。

●セットアップモードメニュー🔧1のUSB接続が、初期設定の「マスストレージ」になっていることが前提です。→P.176



USB接続の動作環境

次のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、カメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です（USBマスストレージ対応）。接続には付属のUSBケーブルUSB-500をお使いください。

コンピュータ	IBM PC/AT互換機	Apple Macintoshシリーズ
OS	Windows XP（Home／Professional）、Windows Me、Windows 2000 Professional、Windows 98／98 Second Editionがインストール済み	Mac OS 9.0～9.2.2、Mac OS X v10.1.3～10.1.5、10.2.1～10.2.5がインストール済み
その他	USBポート標準装備	USBポート標準装備

- ご使用のOSの環境において、USBポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- 同時に使われるUSB機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- USBポートは内蔵のみをサポートします。ハブ接続した場合は正常に動作しない場合があります。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

最新の動作環境情報（互換性情報）については、弊社ホームページ（以下参照）をご覧いただくか、弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

http://www.photo.minolta.co.jp

お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

Windows XP、Me、2000、Macintoshの場合

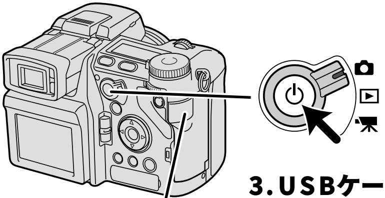
USBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→P.198～

Windows 98または98SEの場合

付属のディマージュビューアーCD-ROMから、USBドライバをパソコンにインストールする必要があります。→P.208～

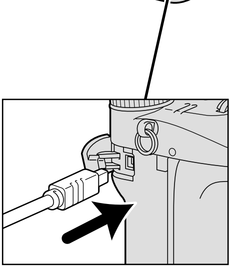
その後USBケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→P.198～

パソコンへ接続する（USB接続）



1.パソコンの電源を入れます。

2.カメラにカードを入れ、メインスイッチを押して電源を入れます。

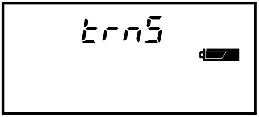


3.USBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。

- 奥まで確実に差し込んでください。

4.カードスロット上のカバーを開け、付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをUSB端子に差し込みます。

- ミニプラグの△マークをカメラの背面側にして、奥まで確実に差し込んでください。
- USB接続は、接続する際にはカメラやパソコンの電源を入れたまま行なうことができますが、取り外す際にはP.204の指示にしたがってください。



- USB接続中は、上面データパネルに "trns"（transfer）の文字が現れます。

- USB接続中は、カメラを約10分間程度操作しないでいると自動的にカメラの電源が切れます（OSによっては「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが現れます）。接続後はすみやかに画像のコピー等の操作を行なってください。コピー等データの交信中は、自動的に電源が切れることはありません。また必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、USB接続を解除されることをおすすめします。→P.204
- Windows 98／98SE使用時に、接続後［新しいハードウェアの追加ウィザード］の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→ドライバをインストールしていない場合はP.208へ、すでにしている場合はP.209へ

パソコンに画像ファイルをコピー・保存する

画像ファイル（動画ファイルや音声ファイルも含む）を、パソコンにコピーして保存します。

- **カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプター AC-1Lの使用をおすすめします。**
- **カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中（アクセスランプ点灯中）には、カメラのメインスイッチを切る、USBケーブルを取り外す、カードや電池を取り出すといった操作は行なわないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。**
- **カードのフォーマットは、原則としてカメラ側で行なうことをおすすめします（P.150）。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カメラ側でカードを認識しないことがあります。認識しない場合は→裏表紙「よくあるお問い合わせ」F28ページへ**
- **パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。**

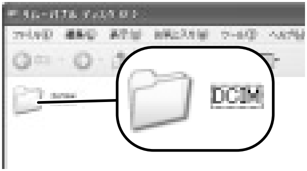
WindowsXPの場合



1. [フォルダを開いてファイルを表示する] を選び、[OK] をクリックします。

- **[コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする] でも可能です。その場合はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは各パソコンメーカーにお問い合わせください。**
- **パソコンの設定によっては、この画面が現れないことがあります。その場合は、画面左下の [スタート] → [マイ コンピュータ] → [リムーバブルディスク] を開いてください。[リムーバブルディスク] が見つからない場合は、パソコンを再起動してください。**

次ページへ続く



2.［DCIM］フォルダをダブルクリックして開きます。

- リムーバブルディスクのドライブ名（左図の例ではF）は、ご使用のパソコンによって異なります。
- ［DCIM］以外のフォルダ（［MISC］等）は削除しないでください。



3.［100MLT16］等のフォルダをダブルクリックして開きます。

- フォルダ名の初期設定は［100MTL16］です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。※フォルダの詳細は →P.200

フォルダを開けると、［PICT0001］等の画像ファイルが表示されます。

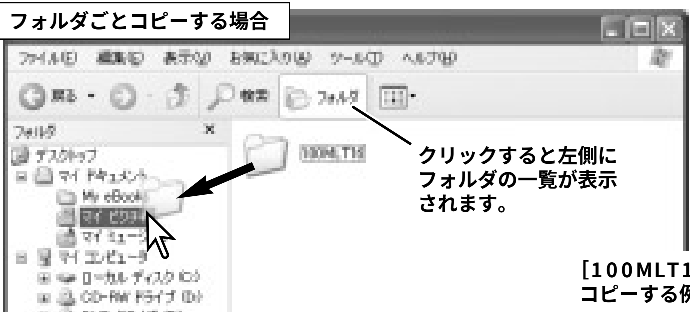
- お使いのパソコンの設定により、［PICT0001］［PICT0001.JPG］など、拡張子（この場合は".JPG"）が付く場合と付かない場合があります。

4.保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

- フォルダごとコピーする場合は、［100MLT16］等のフォルダごと、［マイ ドキュメント］［マイ ピクチャ］等にコピーします。

※コピーの方法（ドラッグアンドドロップ）について →P.207

フォルダごとコピーする場合



［100MLT16］を［マイ ピクチャ］にコピーする例

ファイルごとにコピーする場合

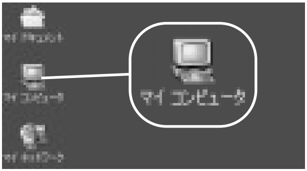


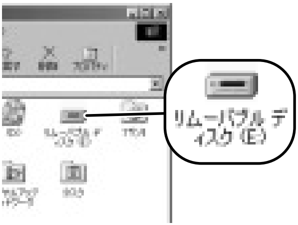
［PICT0001.JPG］を［マイ ピクチャ］にコピーする例

- 画像の見え方は、パソコンの設定によって異なります。

- コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

Windows2000, Me, 98, 98SEの場合





1. デスクトップ上の「マイ コンピュータ」をダブルクリックして開きます。

- カメラ内のカードが、「リムーバブルディスク」として現れます。（ドライブ名（左下の例ではE）は、ご使用のパソコンによって異なります。）現れない場合は、パソコンを再起動してください。
  ※それでも「リムーバブルディスク」が現れない場合は →P.211

2.「リムーバブルディスク」をダブルクリックして開きます。

- 「DCIM」フォルダが現れます。

次ページへ続く



3. [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

● その他のフォルダ（[MISC] 等）は削除しないでください。



4. [100MLT16] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

● フォルダ名の初期設定は [100MTL16] です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。※フォルダの詳細は →P.180

フォルダを開けると、[PICT0001] 等の画像ファイルが表示されます。

● お使いのパソコンの設定により、[PICT0001] [PICT0001.JPG] など、拡張子（この場合は ".JPG"）が付く場合と付かない場合があります。

5. 保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。



[100MLT16]
[PICT0001.JPG] を
[マイ ドキュメント]
にコピーする例

● 同じ名前のファイルをパソコン上の同じフォルダにコピーすると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめパソコン上のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

● [マイ ドキュメント] 以外に保存する場合は、あらかじめ保存先のフォルダを表示させておきます。

Macintoshの場合

カード内のフォルダを直接開ける場合



Macintoshでは、カードがデスクトップ上に、「NO_NAME」「名称未設定」などの名前で現れます。(それ以外の名前になることもあります。)

●現れない場合は、パソコンを再起動してください。

1.デスクトップ上のカードアイコンをダブルクリックして開きます。

2.P.202の3～5の手順に従って、カード内のフォルダまたはファイルをパソコンにコピーします。

●[マイ ドキュメント]の代わりに、任意の保存先を選んでコピーしてください。

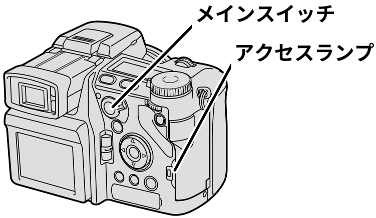
イメージキャプチャを利用する場合(Mac OS Xのみ)



Mac OS Xでは、左図のイメージキャプチャ(Image Capture)が起動することがあります。パソコンに画像を保存する場合は、ダウンロード先を選んで、[一部をダウンロード...]または[すべてをダウンロード]をクリックします。その後はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくはパソコンメーカーにお問い合わせください。

接続を解除する

必要な画像をパソコンにコピーした後は、すみやかに以下の要領でUSB接続を解除されることをおすすめします。USB接続した状態でカメラ内のCFカードを交換する場合も、まず以下の操作を行なってください。



Windows XP、Me、2000の場合

お使いのWindows OSによって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。



1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの安全な取り外し］または［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］のアイコンを左クリックします。





3. ［USB大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します（または停止します）］または［USBディスクの停止］を左クリックします。
4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、☒または［OK］をクリックします。
5. USBケーブルを取り外します。
6. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

●複数のUSB機器を接続している場合は、前ページの2で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックする方法が便利です。以下の手順に沿ってください。

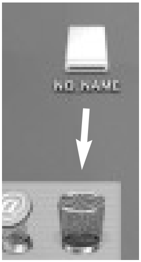
1. ハードウェアの取り外し画面（右図）が現れたら、USBを選択して［停止］をクリックする。
2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］または☒をクリックする。
4. USBケーブルを取り外す。



Windows 98または98 Second Editionの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. USBケーブルを取り外します。
3. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

Macintoshの場合



1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。
3. USBケーブルを取り外します。
4. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

パソコンで画像ファイルを開ける



1. 画像を保存したフォルダ（マイ ドキュメントなど）をダブルクリックして開けます。

2. 見たい画像をダブルクリックします。

● 各ファイルに関連付けされたソフトウェアが自動的に起動します。起動しない場合や意図しないソフトウェアが起動した場合は、先にソフトウェアを起動させ、その後［ファイル］→［開く］を選んでください。

必要なソフトウェア

JPEGファイル

スタンダード・ファイン・エクストラファインで撮影された画像で、最後に「.JPG」が付きます。一般的な画像表示ソフトで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内の「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

TIFFファイル

TIFFで撮影された画像で、最後に「.TIF」が付きます。一般的な画像表示ソフトで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内の「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

RAWファイル

RAWで撮影された画像で、最後に「.MRW」が付きます。一般的な画像表示ソフトでは開くことができません。付属のディマージュビューアーCD-ROM内の「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

MOVファイル

動画撮影された画像で、最後に「.MOV」が付きます。再生するにはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内のQuickTimeをインストールしてお使いください。→P.214

- DiMAGE Viewerで動画を見る場合も、先にQuickTimeをインストールしておく必要があります。
- Macintoshの場合通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

WAVEファイル

ボイスメモで録音された音声で、最後に「.WAV」が付きます。OSに付属の音声再生ソフト（Media Player、QuickTime Player等）で再生することができます。画像と同時に再生することはできません。

JPEファイル

Adobe RGB（ICC）でICCプロファイルを埋め込んだJPEG画像で、最後に「.JPE」が付きます。DiMAGE Viewerなどカラーマネジメントに対応したソフトを使う必要があります。→P.127

THMファイル

TIFF、RAW、MOV、JPEファイルのサムネール画像で、最後に「.THM」が付きます。動画の開始画面表示や、DiMAGE Viewerのサムネール表示用に使われます。このファイルを開く必要はありません。

パソコンでのコピー方法（ドラッグアンドドロップ）



パソコンでコピーを行なうには、マウスによるドラッグアンドドロップが便利です。

1. マウスをアイコンに合わせ、左ボタンを押します。
2. 押したままマウスを移動させます（ドラッグ）。
3. コピー先を反転させ、左ボタンを離します（ドロップ）。

ドライバのインストール（Windows 98/98SEのみ）

Windows 98/98 Second Editionをお使いの場合、付属のディマージュビューアーCD-ROMから、パソコンにドライバをあらかじめインストールしておく必要があります。



1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

● 左の画面が現れます。

2. ［USBデバイスドライバ インストーラの起動］をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストールを開始します。



4. パソコンを再起動します。

● このカメラ（DiMAGE A1）のWindows 98/98SE用のドライバをインストールした後に、それ以前のDiMAGEシリーズデジタルカメラ用のWindows 98/98SE用ドライバをインストールすると、DiMAGE A1のUSB接続ができなくなることがあります（逆の順序でインストールすると問題ありません）。両方お持ちの場合は、DiMAGE A1のドライバをインストールするだけで、それ以前のカメラのUSB接続もできるようになります。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→P.198～

接続時に追加ウィザードが現れた場合

お使いのパソコンの環境によっては、前ページの要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。左の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。



1. [次へ>] をクリックします。



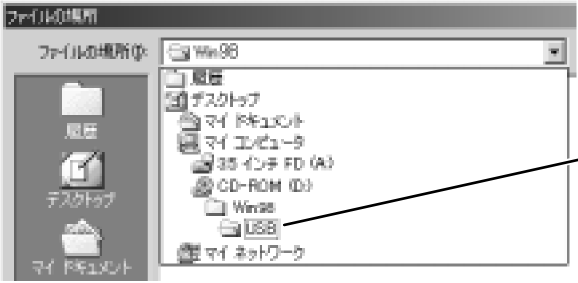
2. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）] を選択し、[次へ>] をクリックします。



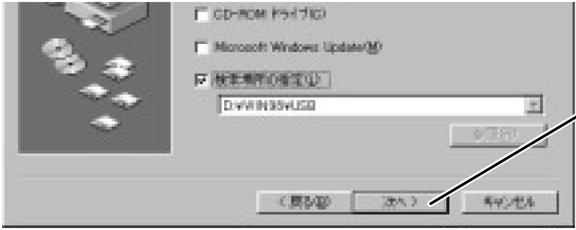
3. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
4. [検索場所の指定] を選択し、[参照] をクリックします。

次ページへ続く

ドライバのインストール（Windows 98/98SEのみ、続き）



5. 検索場所を、[CD-ROM] ー [Win98] ー [USB] の順に指定します。



6. [次へ>] をクリックします。



7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、[次へ>] をクリックします。

8. インストールが完了すると、[完了] をクリックします。

9. パソコンを再起動します。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

USB接続ができないときは

Windowsをお使いの場合で、カメラをパソコンに接続してもリムーバブルディスクが現れなかった場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。
弊社ホームページも合わせてご覧ください。　http://www.dimage.minolta.co.jp/

1.カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→P.198

● パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。

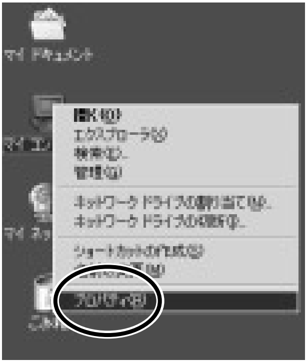
2.[マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選びます。

● Windows XPの場合は、[スタート] から [マイコンピュータ] を選び、右クリックすると [プロパティ] が現れます。
● Windows Me、2000、98、98SEの場合は、デスクトップ上の [マイコンピュータ] を右クリックすると [プロパティ] が現れます。

Windows XP



Windows Me、2000、
98、98SE



次ページへ続く

3.「システムのプロパティ」画面から、「デバイスマネージャ」を選びます。

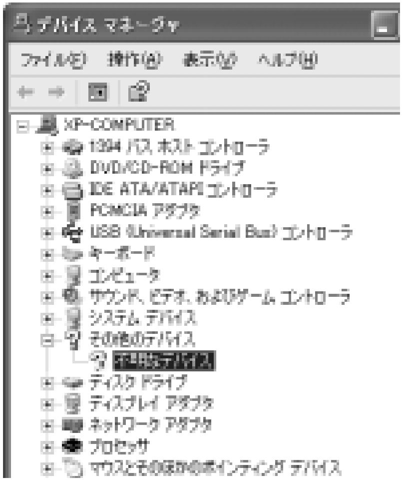
- Windows XP、2000の場合は、「ハードウェア」タブをクリックし、中段の「デバイスマネージャ」をクリックします。
- Windows Me、98、98SEの場合は、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

Windows XP、2000



Windows Me、98、98SE





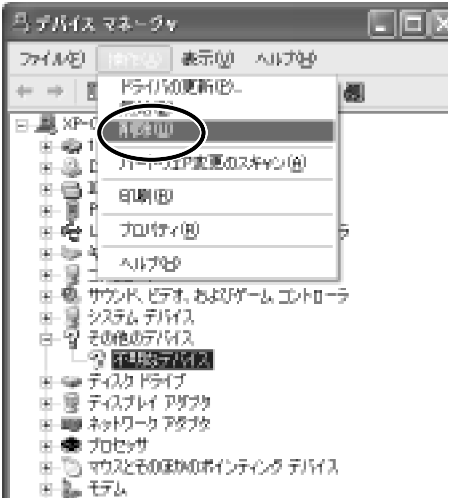
4.「USBコントローラ」「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」「その他のデバイス」のいずれかにカメラ名称（DiMAGE）を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。

- 項目の左側に「＋」が表示されているときは、まず「＋」をクリックしてください。
- カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「？」または「！」マークで表示されている項目を選んでください。
- 該当する項目が見つからない場合は、P.198の要領でカメラが正しくパソコンに接続されているかどうかを確認してください。

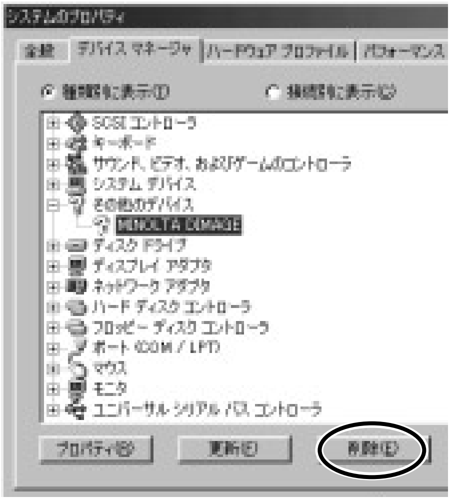
5.4で選んだ項目を削除します。

- Windows XP、2000の場合は、画面上部の「操作」から「削除」を選びます。
- Windows Me、98、98SEの場合は、「削除」をクリックします。

Windows XP、2000



Windows Me、98、98SE



6.削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。

7.カメラの電源を切り、パソコンを再起動します。

- Windows XP、2000、Meの場合は、この後P.198の要領で、再度USB接続を行ないます。
- Windows 98/98SEの場合は、この後ドライバをインストールし（P.208）、その後再度USB接続を行ないます（P.198）。

QuickTimeのインストールと使い方

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROMからインストールしてください。

- Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

QuickTime 5 動作環境

- Pentiumプロセッサを搭載したPC互換コンピュータ
- 32MB以上のメモリ（RAM）
- Windows 95/98/NT/Me/2000/XPオペレーティングシステム
- Sound Blasterおよびその互換サウンドカード、スピーカー
- DirectXバージョン3.0以降推奨

インストール方法



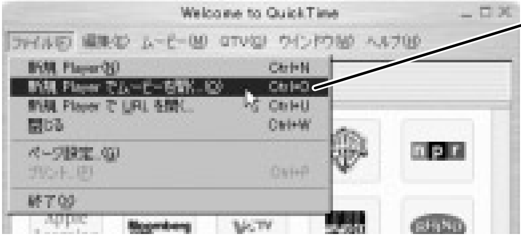
1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
   - 左の画面が現れます。
2. ［QuickTimeインストーラの起動］をクリックします。
3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

操作方法

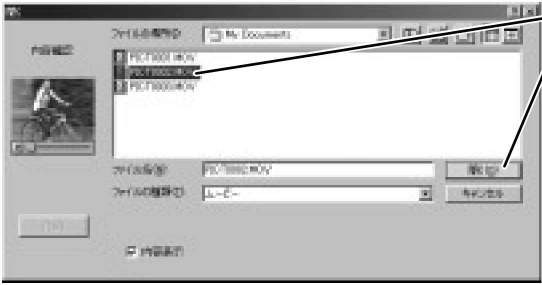


1.QuickTimeを起動させます。

●QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の［スタート］から［プログラム（P）］→［QuickTime］→［QuickTime Player］を選択します。



2.［ファイル（F）］から［新規 Player でムービーを開く...（O）］を選択します。



3.再生したい動画を選択し、［開く（O）］をクリックします。



4.動画ファイルを再生します。

●動画の再生時には、
画面両端にわずかに黒い帯が現れます。

操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

画像送信

市販のCF カード型PHS等を使用すれば、撮影した画像を外出先からパソコンを使わずに直接送信することができます（日本国内のみ）。2003年6月現在、このカメラで使用可能な機種は以下の通りです。

CF型PHS

NTT DoCoMo　P-in memory、P-in m@ster、P-in Comp@ct

DDI Pocket　AirH" Card petit [RH2000] [CFE-02] [AH-N401C]

C@rdH" 64 petit [CFE-01] [CFE-01/TD]

CFモデムカード

TDK　DF56CF

CF型PHSについて

PHSを利用した通信カードでは、標準規格であるPIAFS方式のアクセスポイントに対応していますが、移動通信事業者が提供するPTE（プロトコル変換装置）経由の通信サービスまたはパケット方式には対応しておりません。

- P-in m@sterは64k PIAFS方式（32k PIAFS方式を含む）に対応していますが、携帯電話／DoPaによる9600bps通信やパケット通信には対応しておりません。
- AirH" Card petitは64k PIAFS方式（32k PIAFS方式を含む）に対応していますが、パケット方式やフレックスチェンジ方式には対応しておりません。
- P-in memoryは通信機能に対応していますが、16MBの内蔵メモリを使用することはできません。

画像送信手順

画像を送信するためには、あらかじめ送信先やプロバイダなどの通信情報をカメラに設定しておく必要があります。具体的には以下の手順となります。

1. 付属のディマージュビューアーCD-ROMから、通信設定ウィザードをパソコンにインストールする。→P.218（Windows）、P.220（Macintosh）

2. CFカードを入れたカメラをパソコンに接続する。→P.198

3.通信設定ウィザードを起動させ、送信先やプロバイダなどの通信情報をパソコンで入力する。→P.222〜226

- 通信情報はカメラ内のCFカードに記録されます。

4.カメラとパソコンの接続を解除する。→P.204〜205

5.カメラ内のCFカードの通信情報を、カメラ本体に転送する。→P.227

- 転送後、通信情報の入ったCFカードはカメラから取り出すことができます。

6.外出先等で、画像の入ったCFカードをカメラに入れ、画像を送信する。→P.228〜232

- 送信時に画面の指示に従い、CFカードを抜いて上記のCF型PHSまたはCFモデムカードを入れてください。

通信設定ウィザードのインストール — 動作環境

通信設定ウィザードをインストールして通信の設定を行なうためには、以下の動作環境が必要です。

IBM PC/AT互換機	CPU	Intel Pentium 133MHz以上
	OS	Windows XP（Home／Professional）、Windows Me、Windows 2000 Professional、Windows 98／98 Second Edition
	モニター	VGA（640×480）以上
	他	CD-ROMドライブとUSB端子が必要
Apple Macintosh	CPU	PowerPC 100MHz以上
	OS	Mac OS 8.6〜9.2.2、Mac OS X v10.1.3〜10.1.5、10.2.1〜10.2.5
	モニター	640×480以上
	他	CD-ROMドライブとUSB端子が必要

- USB接続の動作環境についてはP.197を、DiMAGE Viewerをお使いになる場合の動作環境についてはDiMAGE Viewerの使用説明書をご覧ください。

通信設定ウィザードのインストール ― Windowsの場合

画像送信に必要な通信設定ウィザード（通信設定ソフト）のインストールを行います。すでにインストールされている方は、この手順は不要です。

- コンピュータウィルス感染防止のメモリ常駐プログラムやインストール監視プログラムなどは、誤動作の原因となることがあります。一時的に使用を中止してください。
- Windows XP／２０００をお使いの場合、インストールは管理者（Administrator）権限を持つ環境で行なってください。



1.ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- 左の画面が現れます。

2.［DiMAGE Viewer インストーラの起動］をクリックします。

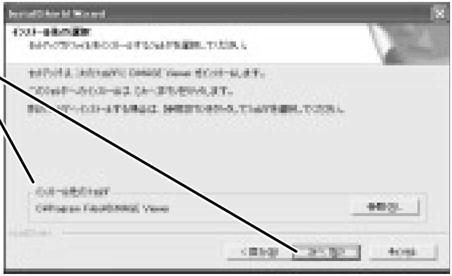
3.「DiMAGE Viewer用のInstallShieldｳｨｻﾞｰﾄﾞへようこそ」の画面が現れたら、［次へ>］をクリックします。

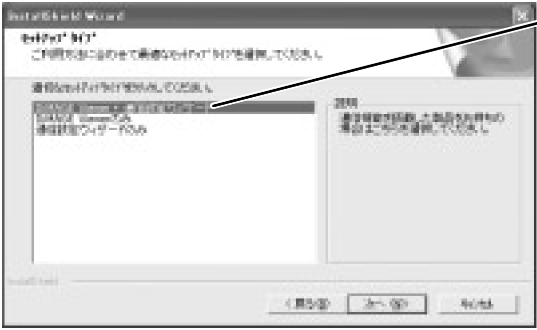
4.使用許諾契約画面が現れたら、全文を読み、同意する場合は［はい］をクリックします。

- 同意しない場合、［いいえ］をクリックしてください。インストールは中止されます。

5.インストール先の選択画面が現れたら、インストール先を確認し、［次へ>］をクリックします。

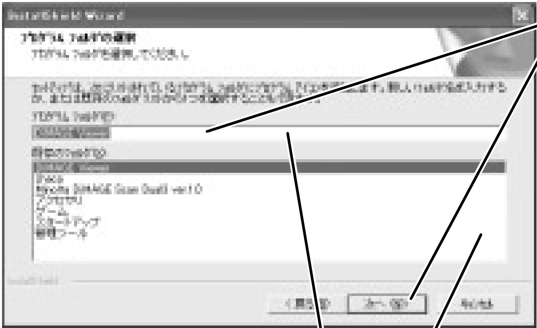
- 初期設定では、起動ディスクドライブの"Program Files"の中にインストールされます。変更する場合は、［参照...］をクリックし、インストール先のフォルダを指定した後、［OK］をクリックしてください。





6.セットアップタイプの選択画面が現れたら、セットアップタイプを選択し、[次へ>] をクリックします。

- [DiMAGE Viewer ＋ 通信設定ウィザード] または [通信設定ウィザードのみ] を選択してください。
- DiMAGE Viewerの使用方法については、付属のDiMAGE Viewer用使用説明書をご覧ください。



フォルダ名を変更するときはここに入力
既存のフォルダに追加するときはここで選択

7.アイコンを追加するフォルダ名が表示されます。場所を確認し、[次へ>] をクリックします。

- インストールが開始されます。
- 初期設定では、画面左下の [スタート] — [プログラム] の中に [DiMAGE Viewer] フォルダが作成されます。

8.インストールが完了したら、[完了] をクリックします。

9.1の画面（前ページ）に戻ったら、[終了] をクリックします。

次はカメラをパソコンに接続し（P.198）、続いて通信設定ウィザードを起動させて通信情報を設定します（P.222〜）。

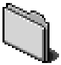
通信設定ウィザードのインストール ― Macintoshの場合

画像送信に必要な通信設定ウィザード（通信設定ソフト）のインストールを行います。すでにインストールされている方は、この手順は不要です。

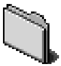
- コンピュータウィルス感染防止のメモリ常駐プログラムやインストール監視プログラムなどは、誤動作の原因となることがあります。一時的に使用を中止してください。
- Mac OS Xをお使いの場合、インストールは管理者（Administrator）権限を持つ環境で行なってください。

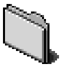
1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- 自動的にCD-ROMの内容が表示されます。


Utility

2. [Utility] をダブルクリックして開きます。


for OS9


for OSX

3. お使いのMac OSのフォルダをダブルクリックして開きます。

- Mac OS 8.6の場合は、OS9をお使いください。（8.6ではDiMAGE Viewerはサポートしていません。）

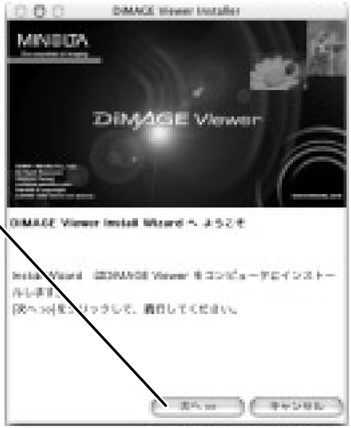

Japanese

4. [Japanese] をダブルクリックして開きます。


Installer

5. [Installer] をダブルクリックします。

6. 右の画面が現れたら、[次へ>>] をクリックします。



7. 使用許諾契約画面が現れたら、全文を読み、同意する場合は [はい] をクリックします。

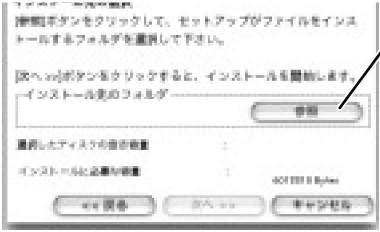
- 同意しない場合、[いいえ] をクリックしてください。インストールは中止されます。

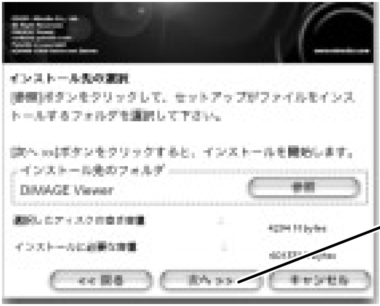


8.セットアップタイプの選択画面が現れたら、セットアップタイプを選択し、[次へ>>] をクリックします。

● [DiMAGE Viewer ＋ 通信設定ウィザード] または [通信設定ウィザードのみ] を選択してください。

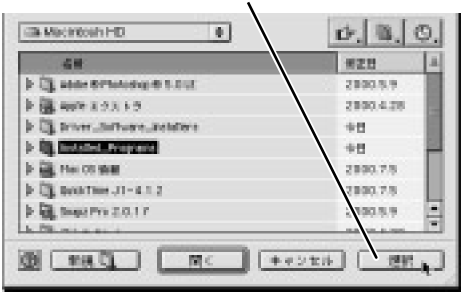
● DiMAGE Viewerの使用方法については、付属のDiMAGE Viewer用使用説明書をご覧ください。





9.インストール先の選択画面が現れたら、[参照] をクリックしてインストール先を指定します。

● 下の画面が出たら、インストール先のボリュームまたはフォルダを選び、右下の [選択] をクリックしてください。



10.指定後、画面下の [次へ>>] をクリックします。

● インストールが開始されます。

11.インストールが完了したら [完了] をクリックします。

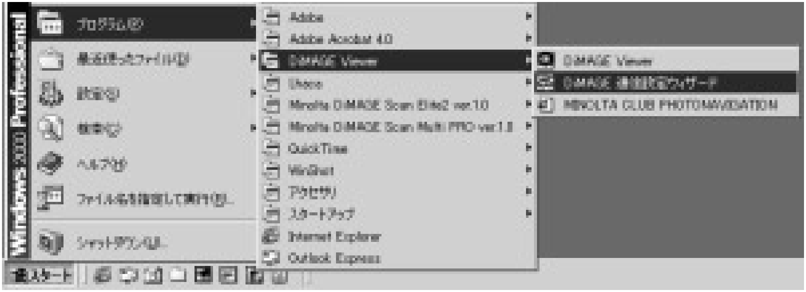
次はカメラをパソコンに接続し (P.198)、続いて通信設定ウィザードを起動させて通信情報を設定します (P.222〜)。

通信情報の設定

パソコンにインストールしたDiMAGE通信設定ウィザードを用いて、送信先等の通信情報をCFカードに記録します。

1.カメラとパソコンを接続し、USB接続を実行します。**→P.198**

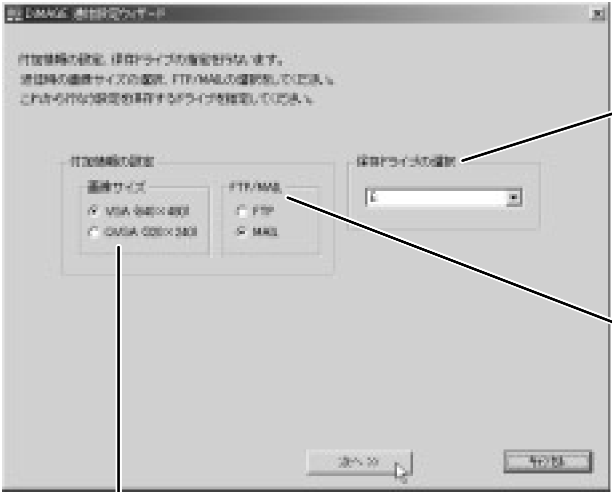
2.Windowsの場合、[スタート] → [プログラム(P)] → [DiMAGE Viewer] から[DiMAGE 通信設定ウィザード] を起動させます。





Macintoshの場合、「DiMAGE Viewer」フォルダをダブルクリックして開き、「通信設定Wizard」をダブルクリックして起動させます。

3.以下の付加情報およびドライブ情報の設定を行ない、[次へ>>] をクリックします。



保存ドライブの指定

CFカードのドライブを選択します。

※内蔵ハードディスク等にいったん通信情報を保存する場合は →P.233

FTP/MAIL

Eメールで送信する場合は「MAIL」、FTPサーバーにアップロードする場合は「FTP」を選択します。

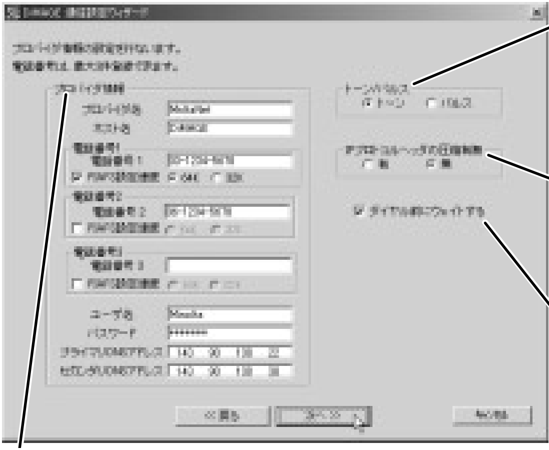
送信画像サイズ

VGAを選ぶと640×480、QVGAを選ぶと320×240の画像サイズに自動的に変換されて送信されます。

TIFF画像とRAW画像は自動的にJPEG画像に圧縮されます。

次ページへ続く

4.以下のプロバイダ情報の設定を行ないます。



トーン／パルス

CF型PHSの場合、どちらでも送信できます。CFモデムの場合はお使いの電話回線を設定してください。（この項目は送信時にもう一度選択できます）

IPプロトコルヘッダの圧縮有無

通常は「無」を選択します。「有」を選択する場合はプロバイダでサポートされているかご確認ください。

通常はチェックを入れます。内線電話等でダイヤル待ちでは送信できない場合は、チェックを外してください。（この項目は送信時にもう一度選択できます）

プロバイダ情報

入力はすべて半角英数字または半角記号で行なってください。

プロバイダ名：	プロバイダ名など任意の文字**最大8文字まで**を入力します。
ホスト名：	ホスト名など任意の文字最大64文字までを入力します（例：DiMAGE）。
電話番号：	プロバイダのアクセスポイントを入力します。3ヵ所までの登録が可能です（1は必須）*。-（ハイフン）は使用できますが、( )（カッコ）や＃は使用できません。
PIAFS設定速度：	CF型PHSの場合、チェックを入れて通信速度を選びます。
ユーザ名：	プロバイダから支給されるユーザーID（接続ID）を入力します。
パスワード：	プロバイダに登録したパスワードを入力します。
ﾌﾟﾗｲﾏﾘDNSｱﾄﾞﾚｽ：	プロバイダより支給されるDNSアドレスを入力します。
ｾｶﾝﾀﾞﾘDNSｱﾄﾞﾚｽ：	プロバイダより支給されるDNSアドレスを入力します（省略可能）。

*アクセスポイントは、送信時にカメラ側であと1つ追加することもできます。

5.設定が完了すると [次へ>>] をクリックします。前ページの3でEメール送信を選んだ場合は次ページへ、FTPを選んだ場合はP.226へお進みください。

6. P.223の3でメール送信を選んだ場合は、以下のメール情報の設定を行ないます。



メール送信先情報

送信先アドレスと送信先名を入力します。4ヵ所までの登録が可能です（1は必須）。
半角英数字と半角記号のみ使用可能、送信先名は最大8文字まで入力可能です。

メール送信元情報（入力はすべて半角英数字または半角記号で行なってください。）

SMTPサーバ： プロバイダから支給されるサーバ情報を入れます。IPアドレス（数字）またはURL（文字）を選択します。

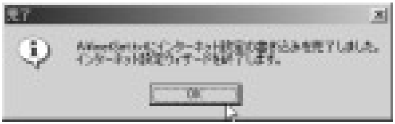
POPサーバ： プロバイダから支給されるサーバ情報を入れます。IPアドレス（数字）またはURL（文字）を選択します。

POPユーザ名： プロバイダから支給されるPOP（受信サーバ）のユーザーIDを入力します。

POPパスワード： プロバイダに登録したPOP（受信サーバ）のパスワードを入力します。

送信元アドレス： 送信者のメールアドレスを入力します。

表題： メールの表題（タイトル）を入力します。最大64文字までの入力が可能です。

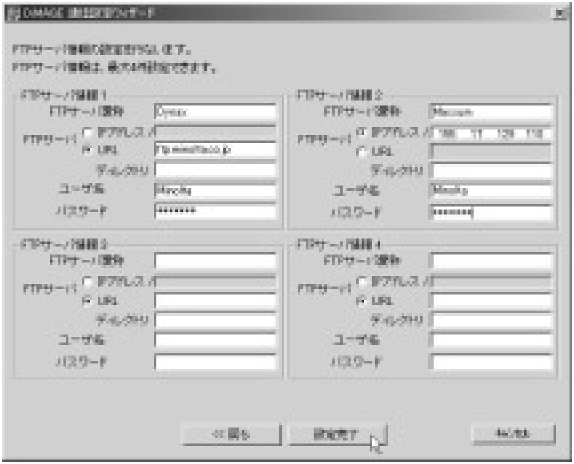


7. [設定完了] をクリックすると、書き込み完了のメッセージが現れます。

※USB接続が切断される場合は →P.227

次はUSB接続を解除し（P.204）、カードに入力した通信情報をカメラ本体に転送します（P.227）。
（USB接続を解除しないままで転送することもできます。）

6. P.223の3でFTP送信を選んだ場合は、以下のFTPサーバ情報の設定を行ないます。



● **FTPサーバ情報は、4ヵ所までの登録が可能です（1は必須）。**

FTPサーバ
FTP＝File Transfer Protocolの略。インターネット上でファイルの送受信をするときに使われる通信上の決まり（通信プロトコル）のひとつ。このカメラの場合、多数の人に画像を見てもらう必要があるときに、FTPサーバに画像を保存し、そのIPアドレスまたはURLを知らせてアクセスしてもらうことが可能です。

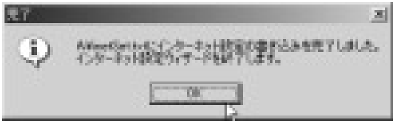
FTPサーバ情報（入力はすべて半角英数字または半角記号で行なってください。）

FTPサーバ愛称： FTPサーバ名など任意の文字**最大8文字まで**を入力します。

FTPサーバ： FTPサーバ情報を入れます。IPアドレス（数字）またはURL（文字）を選択、必要ならばディレクトリも入力します。

ユーザ名： ユーザーIDを入力します。最大64文字までの入力が可能です。

パスワード： パスワードを入力します。



7. [設定完了] をクリックすると、書き込み完了のメッセージが現れます。

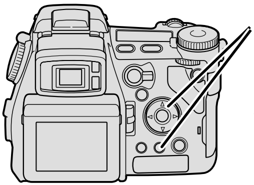
※USB接続が切断される場合は →次ページ

次はUSB接続を解除し（P.204）、カードに入力した通信情報をカメラ本体に転送します（次ページ）。（USB接続を解除しないままで転送することもできます。）

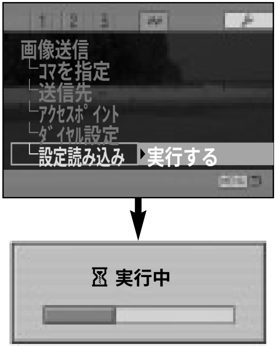
［設定完了］をクリックするとUSB接続が切断される場合は
入力した情報がCFカードに記録されていません。P.223のドライブ情報の設定時に、CFカードに直接情報を記録するのでなく、いったん内蔵ハードディスク等に保存してからそれをCFカードにコピーする方法（P.233）をお試しください。

通信情報のカメラへの転送（設定読み込み）

コンパクトフラッシュカード（CFカード）に記録した通信情報を、カメラ本体に転送します。



P.146の要領で、再生モードメニュー →「」→「設定読み込み」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。



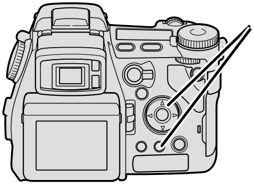
- **転送後、通信情報の入ったCFカードはカメラから取り出すことができます。**

次は、画像の送信を行ないます。

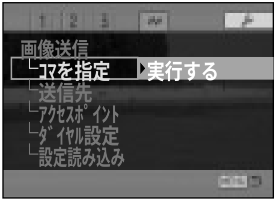
画像の送信

CFカード内の画像を、登録したメールアドレスまたはFTPサーバに送信します。

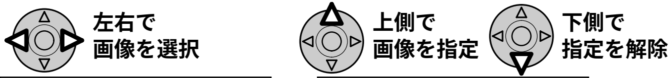
1.送信したい画像の入ったCFカードをカメラに入れます。

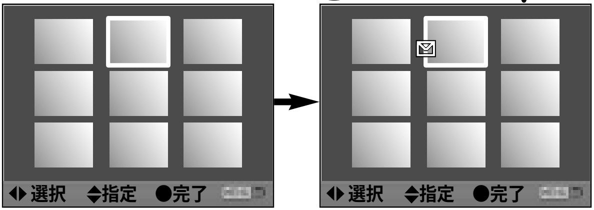


2.送信する画像を選びます。
P.146の要領で、再生モードメニュー →「〰」→「コマを指定」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

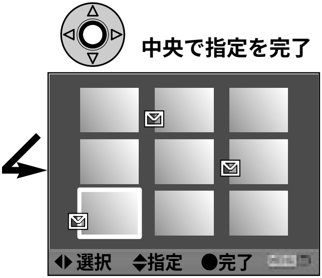


3.十字キーで送信する画像を選びます（続き）。

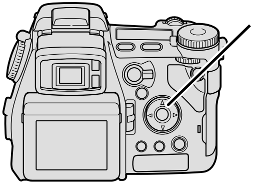




送信を指定したコマには✉が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

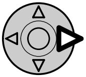


- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。
- 動画の送信はできません（選択できません）。



4.送信先を選びます。
「」→「送信先」から希望の送信先を選択します。





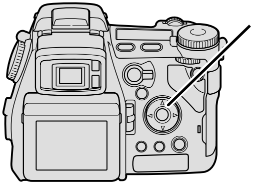
メール送信の場合

- 十字キー右側で送信先を指定します。複数の指定も可能です。
- もう一度十字キー右側を押すと、送信先の指定を解除します。
- 送信先指定後は、十字キー中央または左側で戻ります。

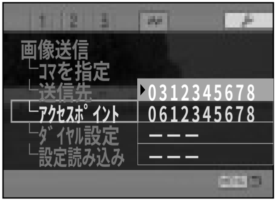


FTP送信の場合

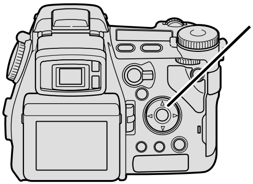
- 十字キー中央で送信先を指定します。一度に1ヵ所しか送信できません。



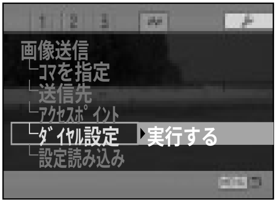
5.アクセスポイントを選びます。
「」→「アクセスポイント」から希望のアクセスポイントを選択し、実行ボタンを押します。



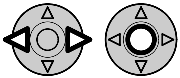
- アクセスポイント4ヵ所のうち、パソコン（通信設定ウィザード）で設定したところは上3ヵ所に表示されます。一番下のアクセスポイントはカメラで設定することができます。一番下を選んで中央の実行ボタンを押すと、アクセスポイント入力画面になります。 →P.232
- 10桁以上の番号の場合は、P.231の送信確認画面で番号を確認することができます。



6.各種のダイヤル設定を選びます。
「」→「ダイヤル設定」→「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。



次ページへ続く



7. 十字キーで各種ダイヤル設定を選びます（続き）。

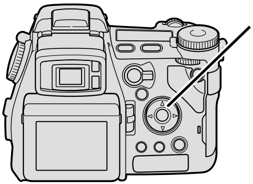
- 十字キーの左右で希望の設定を選択し、中央を押して決定します。
- メニューボタンを押すと前に戻ります。



外線発信のない場合
ダイヤル設定終了、送信実行へ →8へ

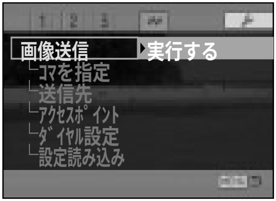
外線発信のある場合
キーボードで外線発信番号選択（P.232）、その後8の送信実行へ

- トーン／パルスとダイヤル待ちについては、P.198で設定された内容が最初に表示されます。個別に変更する場合はここで変更することができます。
- トーン／パルスについては、CF型PHSの場合はどちらでも送信できます。CFモデムの場合はお使いの電話回線を設定してください。



8. 画像を送信します。

「∿」→「画像送信」→「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

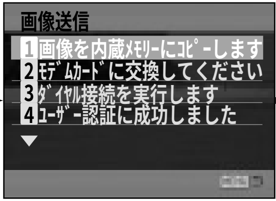


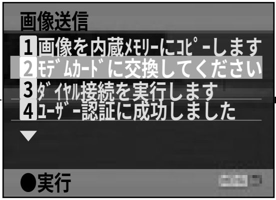
9.十字キーで画像を送信します（続き）。



確認後
中央で実行





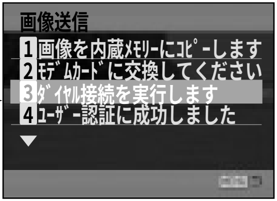


CFカードを抜いてカード型PHSまたはCFモデムカードを入れます。

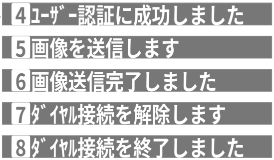
- CFモデムカードの場合はお近くの電話線に接続してください。詳しくはそれぞれに付属の使用説明書をご覧ください。
- メニューボタンを押すと送信はキャンセルされ、元の画面に戻ります。

挿入後
中央で実行





以下3～8は自動的に進みます。

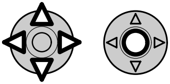


送信画面が途中で止まった場合は

送信時、電波状態の良くない場所では送信ができず、「画像を送信します」のメッセージのまま止まってしまうことがあります。このような場合は、カメラのメインスイッチをいったんOFFにして、もう一度送信し直してください。OFFにしても画面が消灯しない場合は、電池を一度取り出し、入れ直してください。

アクセスポイント／外線発信番号の入力方法

4番目（一番下）のアクセスポイントおよび外線発信を選択すると、以下の画面が現れます。
● アクセスポイントは、2番目または3番目を設定していなくても4番目を設定することができます。



十字キーの上下左右で番号を選択し、中央の実行ボタンで番号を1つずつ確定します。



入力が終わるとEnterを選び、中央の実行ボタンを押します。

メニューボタンを押すとキャンセルされます。

QV▶/🗑 ボタンを押すと消去します。

通信情報をいったんハードディスクに保存し、その後CFカードに転送する方法

P.216～217では、カメラとパソコンを接続して、通信情報をカメラ内のCFカードに直接保存する方法を説明しています。カメラとパソコンを接続しなくても、いったんパソコンの内蔵ハードディスク等に通信情報を保存し、後でカメラを接続してCFカードにコピーすることもできます。

1. カメラとパソコンを接続していない状態で、DiMAGE通信設定ウィザードを起動させ、必要な通信情報を設定します。→P.222～226
 ● P.223の3で保存ドライブを指定する際、希望するハードディスク等を選んでください。
 ● 通信情報は"inetSet.txt"という名前のテキストファイルとして保存されます。
2. CFカードを入れたカメラとパソコンとを接続します。→P.198
3. 保存した"inetSet.txt"をカメラ内のCFカードにコピーします。
 ● CFカードの一番上の階層にコピーしてください（"DCIM"フォルダや"MISC"フォルダの中には入れないでください）。
4. CFカードの情報をカメラ本体に転送します。→P.227
5. 画像の入ったCFカードをカメラに入れ、画像を送信します。→P.228～

オンラインラボ工房



付属のディマージュビューアーCD-ROMをWindowsパソコンに入れると、オンラインラボ工房をインストールすることができます。
［オンラインラボ工房 インストーラの起動］をクリックし、画面の指示に従ってインストールしてください。

オンラインラボ工房を起動させてインターネットに接続することにより、以下のサービスが可能です。

- 撮影した画像のプリント注文ができます。
- 年賀状などのポストカードの作成や注文ができます。
- オンラインアルバムに画像を保管してインターネット上にアルバムが作れます。アルバム上で画像を整理したり、友人に見てもらったり、そこからプリント注文したりすることができます。

弊社のカメラ・写真の統合情報サイトPhoto Imaging（http://www.photo.minolta.co.jp）のクラブ・フォトナビゲーションでも、上記と同様のサービスを行なっています。WindowsでもMacintoshでもご利用になれます。

ディマージュPCカメラ

付属のディマージュビューアーCD-ROMをWindowsパソコンに入れると、［DiMAGE PC camera ドライバインストーラの起動］が選択できますが、これは他のディマージュカメラ（DiMAGE X20等）の機能であり、DiMAGE A1でお使いになることはできません。

その他

焦点距離換算表

このカメラの実焦点距離を、35mmフィルム換算の焦点距離に当てはめると以下の通りになります。

実焦点距離	7.2	9	13	21	27	34	38	50.8
35mmフィルム換算焦点距離	28	35	51	83	106	134	149	200

リセット・登録一覧表

○ リセットされるもの／登録できるもの
× リセットされないもの／登録できないもの
— 該当なし

ダイヤルやボタンで設定するもの

項目	リセット内容	AUTO撮影(P.35)	撮影ﾓｰﾄﾞリセット(P.117)	動画ﾓｰﾄﾞリセット(P.169)	設定値リセット(P.188)	登録(P85)	ﾍﾟｰｼﾞ
画面表示	撮影データあり 標準	○	×	×	○	○	45 46
露出補正	±0	○	○	○	○	○	52
調光補正	±0	○	○	—	○	○	54
デジタルズーム	解除	○	○	—	○	×	55
手ぶれ補正	作動	○	○	○	○	×	56
ドライブモード	1コマ撮影	○	○	—	○	○	66
ブラケット撮影	連続露出ブラケット	○	×	—	○	○	67
連続撮影	(通常) 連続撮影	○	×	—	○	○	70
インターバル撮影	静止画のみ	○	×	—	○	○	72
セルフタイマー撮影	10秒セルフタイマー	○	×	—	○	○	75
ホワイトバランス	オート (自動設定)	○	○	○	○	○	77
プリセットホワイトバランスの微調整	0	○	○	○	○	○	78
カスタムホワイトバランス	昼光	○	×	×	○	○	80
撮像感度	オート (自動設定)	○	×	—	○	○	82
測光モード	多分割測光	○	○	—	○	○	83
登録	フルオート	×	×	—	○	—	85
コントラスト補正	±0	○	○	○	○	○	89
彩度補正	±0	○	○	○	○	○	90
フィルター効果 (ｶﾗｰ)	±0	○	○	○	○	○	90
フィルター効果 (ﾓﾉｸﾛ)	0	○	○	—	○	○	90
フォーカスエリア	ワイド	○	○	—	○	○	91

項目	リセット内容	AUTO撮影 (P.35)	撮影ﾓｰﾄﾞ リセット (P.117)	動画ﾓｰﾄﾞ リセット (P.169)	設定値 リセット (P.188)	登録 (P.85)	ﾍﾟｰｼﾞ
シーンセレクター	—	×	×	—	×	×	48
マクロ撮影	—	×	×	×	×	×	50
露出モード	—	×	×	—	×	○	57
フォーカスモード	—	×	×	×	×	×	92
モニターとEVFの切替	—	×	×	×	×	×	95
視度調整	—	×	×	×	×	×	99

撮影モードメニュー

画像サイズ	2560×1920	○	×	—	○	○	102
画質	ファイン	○	×	—	○	○	104
フラッシュモード	通常発光	○	○※	—	○	○	108
ワイヤレスチャンネル	CH1	×	×	—	○	×	113
調光モード	ADI調光	○	○	—	○	○	114
内蔵マニュアル発光	1/4	○	×	—	○	○	115
AEロックボタン	押す間AEロック	○	×	—	○	×	116
インターバル撮影間隔	1分	○	×	—	○	○	72
インターバル撮影枚数	2枚	○	×	—	○	○	72
インターバル撮影開始	今から	○	×	—	○	○	72
ブラケット設定	0.3段	○	×	—	○	○	118
写し込み	なし	○	×	—	○	×	119
写し込み場所	画像上＋Exif	○	×	—	○	×	122
アフタービュー	なし	○	×	—	○	×	123
ボイスメモ	なし	○	×	—	○	×	124
カラーモード	ナチュラル（sRGB）	○	×	—	○	○	126
シャープネス	標準	○	○	—	○	○	129
ノイズリダクション	あり	○	×	—	○	×	130
モニター自動感度アップ	あり	○	×	—	○	×	130
Mモード時のモニター	露出設定に従う	○	×	—	○	×	131
拡大ボタン	デジタルズーム	○	×	—	○	×	132

※ 通常発光または赤目軽減発光になる。後幕シンクロとワイヤレスは解除。

項目	リセット内容	AUTO撮影 (P.35)	撮影ﾓｰﾄﾞ リセット (P.117)	動画ﾓｰﾄﾞ リセット (P.169)	設定値 リセット (P.188)	登録 (P.85)	ﾍﾟｰｼﾞ
シーンセレクター設定	シーン選択	○	×	—	○	×	134
自動追尾AF	あり	○	×	—	○	×	135
半押しAEロック	標準	○	×	—	○	×	136
スポット測光エリア	中央固定	○	×	—	○	×	137
DMF	なし	○	×	—	○	×	137

再生モードメニュー

画面表示	撮影データあり	—	—	—	○	—	140
インデックス画面	9コマ	—	—	—	○	—	156
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ再生画像	全コマ	—	—	—	○	—	158
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ間隔	5秒	—	—	—	○	—	158
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ繰り返し	なし	—	—	—	○	—	158
DPOF指定	—	—	—	—	×	—	159
インデックスプリント	—	—	—	—	×	—	162
通信情報（メールアドレス、ユーザー名等）	削除	—	—	—	○	—	216–233

動画撮影モードメニュー

ナイトムービー	自動	—	—	○	○	—	168

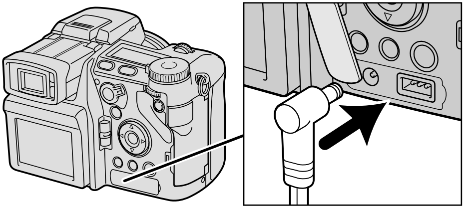
セットアップモードメニュー

項目	リセット内容	AUTO撮影(P.35)	撮影ﾓｰﾄﾞリセット(P.117)	動画ﾓｰﾄﾞリセット(P.169)	設定値リセット(P.188)	登録(P85)	ﾍﾟｰｼﾞ
モニター明るさ	標準	×	×	×	○	×	174
EVF明るさ	標準	×	×	×	○	×	174
USB接続	マスストレージ	—	—	—	○	—	176
EVFオート設定	EVF/モニタ切り替え	×	×	×	○	×	176
ビデオ出力形式	—	—	—	—	×	—	178
言語設定	—	×	×	×	×	×	178
CUSTの機能	カラーモード	—	—	—	○	—	179
ファイルNo.メモリー	なし	—	—	—	○	—	186
フォルダ形式	標準形式	—	—	—	○	—	184
日時設定	—	—	—	—	×	—	187
操作音	音1	×	×	×	○	×	190
AF音	音1	×	×	×	○	×	190
シャッター音	音1	×	×	×	○	×	190
音量	2	×	×	×	○	×	190
パワーセーブ	3分	×	×	×	○	×	191
手振れ補正	標準	×	×	×	○	×	191
フルタイムAF	あり	×	×	—	○	×	192
グリップセンサー	有効	×	×	×	○	×	192
PASﾓｰﾄﾞ時のﾀﾞｲﾔﾙ	前:ｼｬｯﾀｰ　後:絞り	×	×	—	○	×	193
Mﾓｰﾄﾞ時のダイヤル	前:ｼｬｯﾀｰ　後:絞り	×	×	—	○	×	194
消去確認画面	"いいえ"が先	—	—	—	○	—	195

別売りアクセサリー

ACアダプターAC-1L／外部電源パックEBP-100

屋内など家庭用電源（AC電源）が使える場合は、ACアダプターの使用が便利です。
またAC電源が使えない場所で長時間の撮影を行なう場合は、外部電源パックがご利用になれます。
リチウムイオン電池NP-100を2個使用します。



接続するときは、メインスイッチでカメラの電源を切ってから、端子カバーを外して、DC電源入力端子にプラグを差し込みます。
● 外すときも、電源を切ってから外してください。

バッテリーパックBP-400

専用リチウムイオン電池2個（1個での使用も可能）または単3形電池6本（アルカリ電池およびニッケル水素電池）が使用できます。カメラをしっかりホールドできるホールディングストラップと、縦位置用のシャッターボタンも装備しています。

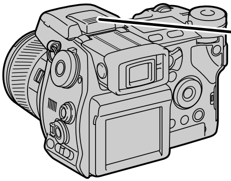


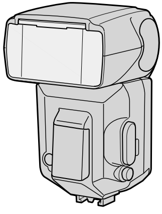
クローズアップディフューザーCD-1000

内蔵フラッシュで手軽にマクロ撮影するときに便利です。内蔵フラッシュの前に拡散板を取り付けることにより、フラッシュの光をやわらげ、影を目立たせなくします。

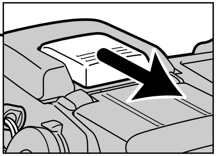
プログラムフラッシュ5600HS（D）／3600HS（D）／2500（D）

内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大光量のプログラムフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。カメラのオートロックアクセサリーシューに直接取り付けてお使いになれます。





プログラムフラッシュ5600HS(D)



別売りのフラッシュを使う際には、アクセサリーシューのキャップを外してお使いください。

- これらのフラッシュを取り付けた場合、フラッシュのオートズーム位置（照射角）はカメラの35mmフィルム換算相当の焦点距離よりもやや広角側に設定されます。フラッシュ背面の24mmの表示またはランプが点滅したら、ワイドパネルの使用をおすすめします。マニュアルズームの場合は、やや広角側の照射角を設定してください。これらを考慮せずに撮影すると、画面周辺が暗くなることがあります。
- 3600HS（D）でワイドパネルを取り付ける場合は、調光モードをP-TTL調光に設定してください。→P.114
- 2500（D）でADI調光を行なうには、カメラの撮影モードメニューの調光モード（P.114）と、フラッシュの調光モード切り替えスイッチの両方をADI調光に設定してください。どちらか片方または両方がP-TTL（またはTTL）だと、P-TTL調光になります。また2500（D）でバウンス撮影を行なう場合は、調光モードをP-TTL調光に設定してください。

マクロツインフラッシュ2400／マクロリングフラッシュ1200

マクロ撮影用のフラッシュです。ツインフラッシュは草花や昆虫の撮影に、リングフラッシュは資料等の撮影に適しています。マクロフラッシュコントローラーが必要です。

- これらのフラッシュ使用時は、テレマクロの使用をおすすめします。ワイドマクロだと画面周辺が暗くなることがあります。

リチウムイオン電池充電器BC-400用 ACコード

リチウムイオン電池充電器BC-400に付属のACコードはAC100V～120V仕様で、日本、アメリカ、カナダ、台湾での使用が可能です。他の国または地域で使われる場合は、その国や地域に応じたACコードを、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にてお求めください。詳しくは弊社のカメラ写真情報サイト（http://www.photo.minolta.co.jp）の「よくあるご質問（FAQ）」でもご覧いただけます。

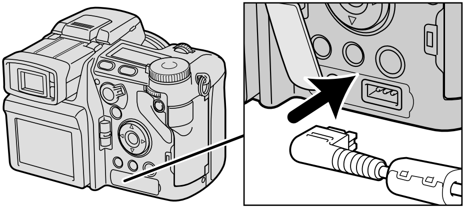
地域	ACコード
日本向け（100～120V仕様） ※そのままアメリカ、カナダ、台湾でお使いいただけます	ACコードAPC-140（付属品）
ヨーロッパ（イギリスを除く）、中国、韓国、シンガポール向け（220～240V仕様）	ACコードAPC-110（別売り）
イギリス、香港向け（220～240V仕様）	ACコードAPC-120（別売り）

フィルター関連アクセサリー

フィルター等を使用する場合は、49mm径をお使いください。49mm→62mmのフィルターアダプターも用意しております。

- PL（円偏光）フィルター・クローズアップレンズNo.0／No.1
  焦点距離50mm（35mmフィルム換算）未満では、フィルターやレンズの一部が画面に写り込むことがあります。
- クローズアップレンズNo.2
  焦点距離100mm（35mmフィルム換算）未満では、フィルターやレンズの一部が画面に写り込むことがあります。
- フィルターアダプター49mm→55mm
  リングやフィルターの一部が画面に写り込むので、ご使用になれません。（49mm→62mmはご使用になれます。）

リモートコードRC-1000S／1000L

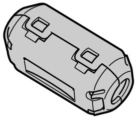


カメラから離れてシャッターを切ることができます。カメラぶれを防ぐと同時に、バルブ撮影時（P.97）等、シャッターボタンを押したまま固定することができます。

取り付けるときは、端子カバーを外して、リモートレリーズターミナルにコードを接続します。

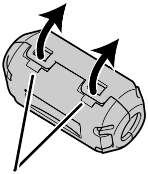
フェライトコアの取り付け

このカメラでリモートコードを使用する場合は、カメラによる電波障害を軽減するため、付属のフェライトコアをコードに取り付ける必要があります。以下の要領で、リモートコードのターミナル側のコード上に取り付けてください。



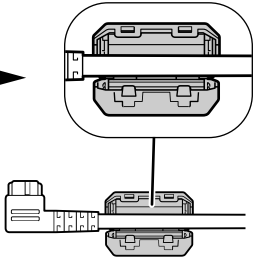
フェライトコア

コアを開ける



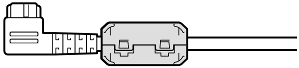
この部分を押さえると開けやすい

コードをはさむ



ターミナル側（取り付けたときにカメラに近い側）のコードをはさんでください。

コアを閉める



● 別売りのDiMAGE Captureを使用する際にも、このフェライトコアをUSBケーブルに取り付ける必要があります。詳しくはDiMAGE Captureの使用説明書をご覧ください。

その他

下記のようなケースやストラップ、予備のリチウムイオン電池もご用意しております。詳しい情報については、裏表紙「よくあるお問い合わせ」F30ページ記載の弊社ホームページをご覧ください。

- カメラケース CS-DG7
- 本革ネックストラップ NS-DG1000
- ディマージュネックストラップ（インディゴブルー）NS-DG2000
- ディマージュネックストラップ（グレー）NS-DG3000
- バッテリーパック BP-400・ホールディングストラップ HS-2
- リチウムイオン電池 NP-400
- SDメモリーカード用コンパクトフラッシュアダプター SD-CF1
- DiMAGE Capture（ディマージュキャプチャー、パソコンからカメラを操作するためのソフトウェア）

取り扱い上の注意

電池について

- 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新品電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。
- いったん容量切れになった電池はかならず交換してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は0～40℃です。
- 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
- カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

コンパクトフラッシュカード等記録メディアについて

- 下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。
  1. お客様または第三者がメディアの使い方を誤ったとき
  2. メディアが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  3. メディアへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
  4. 長期間メディアの書き換えがないとき
  5. メディアの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき
- メディアをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
- メディアには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいメディアをお買い求めください。
- 強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください
- 曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
- 強い静電気や強い衝撃によって記録メディアが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいメディアをお買い求めください。
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

マイクロドライブについて

- マイクロドライブはその特性上、コンパクトフラッシュカードと比べて衝撃や振動にそれほど強くありません。マイクロドライブをお使いの場合、特に記録中や再生中は、カメラに衝撃や振動を与えないようご注意ください。

液晶画面について

- 液晶モニターは精密度の高い技術でつくられていますが、極めてわずかながら画素欠けや常時点灯するものがあります。撮影される画像には影響はありません。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 上面データパネルの液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やコンパクトフラッシュカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。
  海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置しないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
- お客様がデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

- カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
- 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
- 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、シャッターを切るようにしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
- 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。
- 本製品および充電器の修理に関しては、修理依頼品を「アフターサービスのご案内」に記載の弊社アフターサービス窓口にお持ち込みいただくか、お買い上げいただいた販売店にお問い合わせください。

主な性能

形式	フラッシュ内蔵AE/AFレンズ一体型一眼レフタイプデジタルカメラ
有効画素数	約500万画素（2568×1928）
撮像素子	2/3型総画素約530万画素プログレッシブCCD、原色フィルター付き
撮像感度	AUTO、ISO 100、200、400、800相当
画面アスペクト比	4:3
レンズ構成	13群16枚
焦点距離	7.2～50.8mm（35mmフィルム換算：28～200mm相当）
開放絞り値	F2.8～F3.5
絞り設定範囲	広角：F2.8～F11、望遠：F3.5～F11、1/3Evステップ
撮影距離	0.5m～∞（CCD面から） マクロ時：ワイド端：30～60cm（CCD面から）、テレ端：25～60cm（CCD面から） 最大撮影倍率：0.177（35mmフィルム換算：0.7倍相当） 最大撮影倍率時の被写体サイズ：約50×37mm ワイドマクロ時の被写体サイズ：約283×213mm
ズーム方式	手動ズーム
フィルター径	49mm
フォーカス方式	映像AF方式
フォーカスモード	AF：ワンショットAF、コンティニュアスAF、フルタイムAF、動体追随AF MF：可能、フレックスデジタルマグニファイヤー（拡大率2倍、8倍）機能付き
ホワイトバランス	オート、昼光、白熱灯、蛍光灯、曇天、日陰、フラッシュ、カスタム（1～3）
測光方式	多分割測光（300分割）、中央重点的平均測光、スポット測光
露出制御範囲	P/Aモード：広角：Ev－1～20、望遠：Ev－0.4～20.7 S/Mモード：広角：Ev－2～21、望遠：Ev－1.4～21
シャッター	CCD電子シャッターとメカニカルシャッター制御併用　シャッター速度：BULB（最長30秒）、30～1/16000秒
露出モード	P（プログラムシフト可能）、A、S、M
シーンセレクター	ポートレート、スポーツ、夕景、夜景ポートレート・夜景
デジタルエフェクトコントロール	彩度補正、コントラスト補正、フィルター効果が選択可能
露出補正	±2Ev（1/3Evステップ）
フラッシュ制御方式	ADI調光、P-TTL調光、マニュアル発光　フラッシュ同調速度：全速
フラッシュモード	通常発光、赤目軽減発光、後幕シンクロ、ワイヤレス
内蔵フラッシュガイドナンバー	約8（ISO 100、m）
内蔵フラッシュ連動距離	広角：約0.5～3.8m、望遠：約0.5～3.0m（CCD面から、撮影感度オート時）
内蔵フラッシュ充電時間	約5秒

調光補正	±2Ev（1/3Evステップ）
ファインダー形式	TTL電子ビューファインダー（EVF）、チルト可能（0〜90°） モニター自動感度アップ機能、電子マグニファイヤー機能
ファインダー画像表示液晶	対角11mm（0.44型）TFT液晶マイクロディスプレイ 総画素：23.5万画素　自動モニター感度アップ
ファインダー視野率	約100%
アイポイント	22mm（−1ディオプターにおいて、保護ガラスより）
対角視野率	約28°（−1ディオプターにおいて）
視度調整	あり　−5〜＋2ディオプター
表示切り替え機能	AUTO、EVF、液晶モニター切り替え可能
A/D変換bit数	14 bit
内蔵メモリ容量	64MB
記録媒体	CFカード（TYPE Ⅰ、TYPE Ⅱ）　マイクロドライブ（170MB、340MB、512MB、1GB）
記録画像ファイルフォーマット	JPEG、TIFF、Motion JPEG（MOV）、RAW、WAVE DCF 1.0準拠　DPOF（Ver.1.1）のプリント機能に対応
Exif Print	対応（Exif 2.2）
PRINT Image Matching Ⅱ	対応
記録画素数	静止画：2560×1920、2080×1560、1600×1200、640×480 動画：320×240（通常動画、ナイトムービー）　640×480（インターバル動画）
画質モード	スタンダード（STD.）、ファイン（FINE）、エクストラファイン（X.FIN）、TIFF（非圧縮）、RAW
カメラカラースペース	sRGB、Adobe RGB
カラーモード	ナチュラル（sRGB）、ビビッド（sRGB）、Adobe RGB（ICCあり／なし）、モノクロ、ソラリゼーション
シャープネス	ソフト、標準、ハード
ノイズリダクション	スローシャッターノイズリダクション（メニューにてON／OFF変更可能）
Exif Tag情報	撮影年月日時刻、撮影条件（露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離等）、色空間情報
消去機能	あり（1コマ／全コマ／指定コマ）　クイックビュー（撮影モード）時の消去可能 誤消去防止機能：あり（1コマ／全コマ／指定コマ）
フォーマット機能	あり（クイックフォーマットのみ）
データ写し込み機能	なし、年月日、月日時刻、文字（英数字・記号、最大16文字、カタカナ・欧文字対応）、文字＋通し番号（合計最大16文字）
液晶モニター	対角46mm（1.8型）低温ポリシリコンTFTカラー　チルト可能（−20〜90°）　モニター画素数：11.8万画素　視野率：約100%　モニター自動感度アップ

連続撮影	連続撮影：ワンショット：2.0コマ／秒（ライブビュー表示連動）　コンティニュアス：2.0コマ／秒（AF・AE・ライブビュー表示連動） Hi連続撮影：2.8コマ／秒の撮影が可能 連続撮影可能枚数3コマ（RAWは5コマ）　連続撮影速度は撮影条件による
セルフタイマー	10秒、2秒
ブラケット撮影	露出ブラケット：露出ずらし量：0.5Ev、0.3Ev選択可　枚数：3枚 デジタルエフェクトブラケット：コントラスト、彩度、フィルター効果　ずらし量：一定　枚数：3枚
インターバル撮影	間隔：30秒、1～10、15、20、30、45、60分　枚数：2～240枚　起動タイマー付き（設定時間：0.5～24H、0.5Hステップ）
動画	通常動画、ナイトムービー（共に最大15分）、インターバル動画 記録画素数（1フレームあたり）：通常動画・ナイトムービー：320×240　インターバル動画：640×480 フレームレート：通常動画・ナイトムービー：24フレーム／秒　インターバル動画：再生時4フレーム／秒 音声：通常動画・ナイトムービー：あり（モノラル）　インターバル動画：なし
音声	ボイスメモ（15秒）　ファイル形式：WAVE　モノラル
ﾌﾚｯｸｽﾃﾞｼﾞﾀﾙﾏｸﾞﾆﾌｧｲﾔｰ	2倍・8倍（MF／DMF時）
デジタルズーム	静止画：2倍（動画時はデジタルズーム不可）
操作音	各操作時、レリーズ時シャッター音、AF音 操作音・レリーズ音・AF音それぞれ2種類から選択可能
使用電池	本体：専用リチウムイオン電池1本
外部電源	DC 6V（ACアダプター使用時）
連続動作時間	連続再生：約300分　当社試験条件による（液晶モニターのみ、専用リチウムイオン電池使用）
撮影可能コマ数	約330コマ　当社試験条件による（EVFのみ、専用リチウムイオン電池使用、画像サイズ2560×1920、画質ファイン、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ使用50%）
モデム通信	可能　電送インターフェース：CFモデムカード（一般回線用：TDK DF56CF）、CF型PHS（NTT DoCoMo P-in Comp@ct、P-in m@ster、P-in memory　DDI POCKET AirH" Card petit、C@rdH" 64 petit）
PC用インターフェース	USB1.1
大きさ	117（幅）× 85（高さ）× 113.5（奥行き）mm
質量（重さ）	約560g（電池、CFカード別）

リチウムイオン電池 NP-400

電圧	7.4V
容量	1500mAh
大きさ	56 × 39.5 × 21mm
質量（重さ）	約85g

リチウムイオン電池充電器 BC-400

入力電圧	AC100〜240V*
入力周波数	50／60Hz
入力容量	10〜20VA
充電出力	DC8.4V 700mA
充電時間	約150分
大きさ	65 × 90 × 30mm
質量（重さ）	約86g（電池別）

*充電器に付属のACコードはAC100V仕様です。※海外で使用する場合は →P.242

バッテリーパック BP-400（別売り）使用時

撮影可能コマ数	リチウムイオン電池NP-400　2個使用：約660コマ ニッケル水素電池（2100mAh） 6本使用：約350コマ 当社試験条件による（EVFのみ、画像サイズ2560×1920、画質ファイン、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ使用50%）
連続動作時間	リチウムイオン電池NP-400　2個使用：約600分 ニッケル水素電池（2100mAh） 6本使用：約320分 当社試験条件による（液晶モニターのみ）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

ま

や

ら

わ

数字・アルファベット